

科目名	日本語学概論 (FES00100)
英文科目名	Introduction to Japanese Linguistics
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本語と国語の違いについて、説明する。日本語とはどんな言語か、形態的に、系統的に、説明する。
2 回	言語とは何かについて、説明する。言語の起源について説明する。
3 回	記号体系としての言語の枠組と言語表現との関係を説明する。
4 回	発達とことばについて、説明する。ことばの習得のプロセスについて、説明する。
5 回	幼児語の特色について、説明する。
6 回	幼稚園児の日記にみる言語発達（語彙、表記、基本文法）について、説明する。
7 回	少年期の言語発達（日本語の脈絡と要素）について、説明する。
8 回	青年期の言語表現（心象の表現と意味）について、説明する。
9 回	言語表現と場（脈絡、状況）との関係について、説明する。
10 回	ことばの単位（語構成、連語）について、説明する。
11 回	音声と音韻について、説明する。
12 回	音節と単音（母音、子音）について、説明する。
13 回	アクセントの特色について、説明する。
14 回	漢字の受容と仮名の成立、漢字の音・訓について、説明する。
15 回	異字同訓、熟字訓について、説明する。
16 回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1 回	日本語と国語の違いについて、考えてみること。（標準学習時間60分）
2 回	ことばとは何かについて、考えてみること。（標準学習時間60分）
3 回	広い意味での記号にはどのようなものがあるか、考えてみること。（標準学習時間60分）
4 回	ことばを習得する場面について、考えてみること。（標準学習時間60分）
5 回	幼児語を五語、探してみること。（標準学習時間60分）
6 回	第5回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
7 回	第6回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
8 回	第7回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
9 回	第8回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
10 回	第9回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
11 回	第10回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
12 回	第11回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
13 回	第12回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
14 回	第13回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
15 回	第14回の講義で配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
16 回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	ことばの本質を踏まえた日本語の特質について、考察する。発達の観点から、ことばの習得について、理解する。幼児期・少年期・青年期における言語表現を資料として、基本的な語彙・文法・表現などについて、考察する。さらに、表現と場、ことばの単位、音声と表記などについて、探究する。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	1. 記号体系としての言語の枠組が理解できる。日本語と英語、中国語（漢民族語）、アイヌ語などの他の言語との構造の違いを簡潔に説明できる。 2. 場（脈絡、状況）を踏まえた言語表現を理解し、様々な具体的な場面で表現できる。 3. ことばの習得と発達を理解し、国語教育に生かすことができる。 4. 意味と文法の間接関係を理解し、簡潔に説明することができる。 5. 語彙体系を理解し、具体的な言語資料について、語彙分類を試み、語彙表をつくることことができる。 6. ことばの単位を理解し、様々な単語の構造を形態素で表示することができる。 7. 日本語の音韻体系について理解し、拍（音韻的音節）の構成を音素で表示することができる。 8. 日本語の文字体系について理解し、漢字から片仮名・平仮名が形象された経緯を理解し、簡潔に説明することができる。
キーワード	膠着語、記号体系、三項関係、幼児語、表現の場、意味、語構成、形態素、語基、接辞、音声、音韻、音節、拍、単音、音素、有声音、無声音、母音三角形、高低アクセント、アクセント型の対応

	、六書、熟字訓、異字同訓、万葉仮名、ローマ字ヘボン式
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小レポート20%（達成目標4を確認）、定期試験80%（達成目標1～3, 5～8を確認）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	『日本語新版（上）』『日本語新版（下）』／金田一春彦／岩波新書／ISBN4-00-430002-9
関連科目	「日本語文法」「日本語表現」「国語科内容論A」「国語科教材分析・開発演習A」
参考書	『図解日本語』／沖森卓也ほか／三省堂／ISBN978-4-385-36242-7 『国語学』／築島裕／東京大学出版会／ISBN4-13-082001-x 『ことばの知識百科』／三省堂編修所／三省堂／ISBN4-385-15066-4 『日本語学キーワード事典』／小池清治ほか／朝倉書店／ISBN4-385-15066-4 『語彙探究法』／小池清治・河原修一／朝倉書店／ISBN4-254-51504-9
連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールkawahara@ped.ous.ac.jp） オフィスアワー 木曜日 3時限
授業の運営方針	教育学部ということで、幼児期から青年期までの言語発達も踏まえながら、日本語について概略的に論じる。
アクティブ・ラーニング	幼児期から青年期までの言語資料を基に、語彙分析を各自試み、ディスカッションする。
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施し、解答用紙を回収した後に、模範解答例を配付し、ポイントを解説する。 小レポートについて、ポイントを解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますの で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 元栃木県立高等学校勤務 イ) 教師になったとき、生徒・保護者との相談に際して、発達心理学的観点（幼児期からの親子関係など）に基づくアドバイスの有効性に言及する。本講義の前半で、言語発達と心理発達との密接な関係に言及する。
その他（注意・備考）	国語辞典（電子辞書可）を持参すること。

科目名	日本語文法（FES00200）
英文科目名	Japanese Grammar
担当教員名	河原修一（かわはらしゅういち）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	意味と文法の間を説明する。日本語の構文の特色（談話、文章）を説明する。語順と表現的意味の間を説明する。
2回	助詞「が」「は」のはたらき（機能）の違を事例に即して、説明する。
3回	文章のなかで、語り手の視点と語られるものごとの間を説明する。読み手に対して話題にする事柄の示し方を説明する。
4回	文のなかで助詞はどのようなはたらきをしているかを説明する。機能に応じて、分類する。古語における係り結びのはたらきに言及する。
5回	指示語（コソアド語）のはたらきについて説明する。
6回	ものの存在を表すとき、「ある」「いる」にはどのようなはたらきの違いがあるかを考え、理解する。古語における「あり」のはたらきとの違いに言及する。
7回	ものごとの変化を表すとき、「なる」「する」にはどのようなはたらきの違いがあるかを考え、理解する。様々な「なる」の用法について理解する。
8回	様々な「する」の用法について理解する。
9回	自他物の間が動詞で示されることについて考え、理解する。古語のかたち（語形）における対応に言及する。
10回	このころのうとそとの表現があることを理解する。語形における対応に言及する。
11回	動きの段階はどのように示されるかを考え、理解する。
12回	「だ」「です」などで終る表現は、場に応じて、どのようなはたらきを示すかを考え、理解する。
13回	談話における文末表現に用いられる終助詞「わ」「よ」「ね」などのはたらきについて考え、理解する。
14回	もののやりとりに関わる授受動詞「やる（上げる）」「もらう（頂く）」「くれる（下さる）」などのはたらきについて考え、理解する。
15回	評価試験を実施し、実施後、解説する。
16回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1回	談話と文章で、表現されるかたち（文）にどのような違いがあるかを、考えてみる（標準学習時間60分）
2回	「象は鼻が長い。」という文のなかでの「は」と「が」の機能の違いを考えてみる（標準学習時間60分）
3回	小説や随筆の文章にあらわれる「が」「は」の後にどのような表現が用いられているかを、考えてみる（標準学習時間60分）
4回	「りんごが好きだ。」という文のなかでの「が」、「道を行く。」という文のなかでの「を」のはたらきを考えてみる（標準学習時間60分）
5回	話し手が聞き手にものを指さすとき、「これ」「それ」は話し手、聞き手のどの領域にあるものを示すかを、考えてみる（標準学習時間60分）
6回	A「何かある。」B「何かいる。」という文のなかでの「何か」の違いについて考えてみる（標準学習時間60分）
7回	A「氷になる。」B「氷にする。」という文では、どのようなものごとの捉え方の違いがあるかを、考えてみる（標準学習時間60分）
8回	A「気になる。」B「気にする。」という文では、どのような感じ方や心情の違いがあるかを、考えてみる（標準学習時間60分）
9回	「見える」「見る」「見せる」という語によって、それぞれどのような人やものの間が示されているかを、考えてみる（標準学習時間60分）
10回	A「心がいたむ。」B「腰がいたむ。」C「机がいたむ。」という文では、このころのうとそとのいずれを示しているかを、考えてみる（標準学習時間60分）
11回	A「生きている。」B「死んでいる。」という文では、どのような状態を示しているかを、考えてみる（標準学習時間60分）
12回	「僕はうなざだ。」という文は、どのような場面で成り立つかを、考えてみる（標準学習時間60分）
13回	A「行くわ。」B「行くよ。」C「行くね。」という文では、話し手の聞き手に対する態度にどのような違いがあるかを、考えてみる（標準学習時間60分）
14回	授受動詞「やる（上げる）」「もらう（頂く）」「くれる（下さる）」は、動きの起点は自分か他

	者か、考えてみる（標準学習時間60分）
15回	復習してくる（標準学習時間120分）
16回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておく（標準学習時間180分）

講義目的	現代日本語の実態を観察し、古代日本語の事実を参照しながら、変化するところと変化しないところを見極め、日本語文法の本質を探究する。英語、中国語（漢文）の文法とも比較する。日本語文法の本質としての基本的な枠組を理解する。そのうえで、場（脈絡、状況）を踏まえた表現と理解につながる実践的な文法の必要性を実感する。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	1. 日本語の文法についての知識と探究方法を身につけ、国語教育の現場に生かすことができる。 2. 日本語の文法について、具体的な言語資料をもとに、様々な文献を参照しながら、自ら探究し考察することができる。 3. 現代語の文法を中心としながら、折々に古語の文法に言及し、同じ日本語として、古語と現代語とは連続していることを理解する。現代語文法および古語文法の枠組を簡潔に説明することができる。
キーワード	構文、語順、視点と焦点、題目、描写と説明、助詞の機能と分類、指示語、存在表現、変化の表現、動詞の自他、裏表の表現、動きの段階（アスペクト）、場（コンテキスト）依存型の表現、主客一体の表現、談話における文末表現、授受表現、待遇表現、敬語表現
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	定期試験100%（達成目標1～3を確認）により成績を評価し、60点以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	日本語学概論、日本語史、日本語表現
参考書	『日本語文法入門』／吉川武時／アルク／ISBN4-900105-68-6 『日本語はどんな言語か』／小池清治／ちくま新書／ISBN4-480-05609-2 『象は鼻が長い』／三上章／くろしお出版／ISBN4-87424-117-4 『「する」と「なる」の言語学』／池上嘉彦／大修館書店／ISBN4-469-22032-9 『日本語動詞のアスペクト』／金田一春彦／むぎ書房／1976 『「ボクハ ウナギダ」の文法』／奥津敬一郎／くろしお出版／1978 『品詞別日本文法講座』全10巻／鈴木一彦・林巨樹／明治書院／1973 『日本語文法大辞典』／松村明／明治書院／1971
連絡先	A1号館9階910室（研究室TEL.086-256-9774）
授業の運営方針	言語資料（文学作品）の分析（読解）につながるような表現文法（解釈文法）を導入する。試験に向けて、ポイントを整理させる。
アクティブ・ラーニング	指示語の機能について、具体的な言語資料（文学作品）に即して、分類させ、ディスカッションする。
課題に対するフィードバック	評価試験を実施し、解答用紙を回収した後、模範解答例を配付し、ポイントを解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますの で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 元栃木県立高等学校勤務 イ) 学習困難な生徒へのわかりやすい文法指導の例を紹介する。
その他（注意・備考）	古語文法については、「日本語史」の講義で再度言及する。

科目名	日本語史 (FES00300)
英文科目名	Japanese Etymology
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本語の起源について、様々な説を紹介し、説明する。
2 回	日本語の成立について、説明する。
3 回	上代語 (奈良時代語) の特色について、説明する。
4 回	中古語 (平安時代語) の音韻、文字、語彙の特色について、説明する。
5 回	中古語 (平安時代語) の文法、表現の特色について、説明する。
6 回	古語の文法について詳述し、説明する。
7 回	中世語 (鎌倉・室町時代語) の特色について、説明する。
8 回	室町時代末期・江戸時代初期の言語資料を基に、近代語の萌芽について、説明する。
9 回	近世語 (江戸時代語) の特色について、説明する。
10 回	明治時代の言語資料を基に、近代語の成立について、説明する。
11 回	日本語史の観点から、共通語と方言について、説明する。
12 回	色彩、空間を表すことばの意味の変遷について、説明する。
13 回	自然、身体を表すことばの意味の変遷について、説明する。
14 回	感情、評価を表すことばの意味の変遷について、説明する。
15 回	やまとことばにみる日本人の認識のあり方について、説明する。
16 回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1 回	日本語の起源をめぐるテレビ番組や雑誌、本などのいずれかの一端に触れてみる。 (標準学習時間60分)
2 回	第1回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	第2回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	第3回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	第4回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	第5回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	第6回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	第7回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
9 回	第8回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
10 回	第9回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
11 回	第10回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
12 回	第11回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
13 回	第12回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
14 回	第13回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
15 回	第14回の講義で配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
16 回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	日本語の歴史における音韻、語彙、文法、文体などの変遷を概観し、日本語の成立と展開について理解を深め、古文と現代文の関連を認識する。古代語から現代語への転換期における近代語の萌芽と成立を探り、現代語の表現と理解に生かす。また、ことばの意味の変遷を通して、文化的な背景や日本人の感じ方、考え方を探る。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針 (DP) のBと強く関連している。
達成目標	1. 日本語の起源と成立をめぐる諸説に触れて、日本語の特質について簡潔に説明することができる。 2. 時代背景に応じた日本語の変遷について、簡潔に説明することができる。 3. 各時代語の特色を音韻、語彙、文法、文体、待遇表現などの面から捉え、音韻史、語彙史、文法史、文体史の概略を簡潔に説明することができる。 4. 古代語から近代語への変遷が標準語の変遷と関わり、共通語と方言の使い分けにつながることにについて、簡潔に説明することができる。 5. ことばの意味の変遷と日本人の民族性との関連を簡潔に説明することができる。
キーワード	母音調和、開音節、上代特殊仮名遣、曲用、絶対敬語、相対敬語、係り結び、活用、音便、相 (アスペクト)、連体止め、古辞書、節用集、階層語、標準語、共通語、方言
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	定期試験 (達成目標 1～5 を確認) および小テスト (達成目標 3 を確認) により成績を評価し、60

点)	%以上を合格とする。
教科書	大野晋（1966）『日本語の年輪』新潮文庫
関連科目	日本語学概論、日本語文法、日本語表現
参考書	金田一京助（1976）『日本語の変遷』講談社学術文庫、森本哲朗（1985）『日本語表と裏』新潮文庫、山下秀雄『日本のことばとところ』講談社学術文庫、真田信治『標準語はいかに成立したか』創拓社
連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールkawahara@ped.ous.ac.jp） オフィスアワー 木曜日 3時限
授業の運営方針	平安時代語の説明に際して、古典文法のポイントを解説する。
アクティブ・ラーニング	古典文法の要点（用言の活用、助詞・助動詞の機能など）についてのプリントを配付した後、小テストを実施し、ポイントを解説し、ディスカッションする。
課題に対するフィードバック	定期試験および小テストを実施し、解答用紙を回収した後、模範解答例を配付し、ポイントを解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 栃木県立高等学校勤務 イ) 学習困難な生徒へのわかりやすい古典文法の教え方について言及する。
その他（注意・備考）	古語辞典を持参すること。

科目名	日本語表現 (FES00400)
英文科目名	Japanese Expressions
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	心象から言語表現へのプロセスについて、説明する。
2 回	内言的・独言的な文章表現としての日記について、説明する。
3 回	対話的な文章表現としての手紙について、説明する。
4 回	談話的コミュニケーションについて、説明する。
5 回	報道文について、説明する。幾つかのグループに分かれて、新聞記事を題材としたメモによる短いスピーチとディスカッションを実施する。
6 回	各グループで、引き続き、新聞記事を題材としたディスカッションを実施する。各グループの代表が、ディスカッションの内容を紹介する。
7 回	評論について、説明する。幾つかのグループに分かれて、評論を題材としたメモによる短いスピーチとディスカッションを実施する。各グループで、評論を選ぶ。
8 回	各グループで、選んだ評論の要点となる部分について、ディスカッションを実施する。各グループの代表が、ディスカッションの内容を紹介する。
9 回	発見（発想、着想、動機、感動）から言語表現（構成）へのプロセスについて、説明する。想像力と表現について、説明する。
10 回	詩作の実例について、説明する。詩作を実施する。
11 回	散文の書き出し、題材の配置、表記、表題について、説明する。
12 回	随筆（エッセー）の実例について、説明する。随筆の執筆を実施する。
13 回	小説の創作における動機、構想、ジャンル、書き出し、描写、文体について、説明する。
14 回	小説の創作におけるレトリック、象徴、表題について、説明する。短編小説の執筆を実施する。
15 回	小説の批評と鑑賞について、説明する。意味の読み取り、表現と内容について、説明する。

回数	準備学習
1 回	自由メモ帳に折々に感じたことを書きつけてみる。こと。（標準学習時間60分）
2 回	自由日記帳に日記を書いてみる。こと。（標準学習時間60分）
3 回	友人（または知人）に手紙を書いてみる。こと。（標準学習時間60分）
4 回	興味・関心を覚えた新聞記事を選んで、コメントを考えておく。こと。（標準学習時間60分）
5 回	新聞記事切り抜きのコピーおよびコメントのメモを持参すること。（標準学習時間60分）
6 回	興味・関心を覚えた評論を読んで、コメントを考えておく。こと。（標準学習時間60分）
7 回	評論の要点となる部分のコピーおよびコメントのメモを持参すること。（標準学習時間60分）
8 回	各グループで選んだ評論の要点となる部分のコピーを熟読しておく。こと。（標準学習時間60分）
9 回	自由メモ帳に折々に感じたこと（着想メモ）を書きつけてみる。こと。（標準学習時間60分）
10 回	詩を書いてみる。こと。（標準学習時間60分）
11 回	随筆の材料を集めておく。こと。（標準学習時間60分）
12 回	随筆を書いてみる。こと。（標準学習時間60分）
13 回	小説の材料を集めておく。こと。（標準学習時間60分）
14 回	短編小説を書いてみる。こと。（標準学習時間120分）
15 回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておく。こと。（標準学習時間60分）

講義目的	談話・文章の表現と批評、鑑賞について、実践的に体得する。国語教育における音声言語及び文章表現に関する「国語表現」の一助とする。国語教育における「現代文」に教材として用いられる随筆、評論、詩、小説などについて、表現者の観点に立って、解釈し、批評し、鑑賞し、総合的に理解する。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	1. グループによる談話演習を通じて、スピーチ、ディスカッションなどについて体得し、場に応じた談話表現のあり方を理解し、応用することができる。 2. 作家の日記・手紙・随筆を参照しながら、自ら書いてみる。自由な発想と斬新な感覚によって、詩作や小説の創作を試み、「現代文」「国語表現」に応用することができる。発見から構想までのプロセスの大切さ、文章表現における説明と描写、レトリック、象徴を理解する。読者論を参照して、様々な意味の読み取りの可能性を探究する。本講義はディプロマポリシーA、C、Dに該当する。
キーワード	心象、内言、日記、手紙、随筆、評論、スピーチ、ディスカッション、想像力、動機、構想、描写、説明、表記、表題、レトリック、象徴、批評、鑑賞
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60	スピーチ、ディスカッションなどの談話演習50%（達成目標1を確認）および詩、随筆、小説など

点)	の提出作品50%（達成目標2を確認）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	日本語学概論、日本語文法、国語科教材分析・開発演習A
参考書	『音声言語とコミュニケーション』／中村萬里・永瀬道彦／双文社出版／ISBN4-88164-076-3 『文章表現法』／樺島忠夫／角川選書／1999 『実践・言語技術入門』／言語技術の会／朝日選書／1990 『詩・ことば・人間』／大岡信／講談社学術文庫／1985 『新しい文学のために』／大江健三郎／岩波新書／1988 『近代読者論』／外山滋比古／みすず書房／1969
連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールアドレスkawahara@ped.ous.ac.jp） オフィスアワー 木曜日 3時限
授業の運営方針	学校における作文指導、高等学校「国語表現」に生かせる内容に言及する。
アクティブ・ラーニング	幾つかの図像資料をもとに、作文してみる。エッセーを書いてみる。作者の執筆心理を踏まえた文学作品の読解、鑑賞ができるために、詩や小説を書いてみる。
課題に対するフィードバック	作文を添削して返す。幾つかのすぐれた作品を抜粋して、プリントにして配付し、全員が読んでみて、教師がコメントする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 元栃木県立高等学校勤務 イ) 談話表現に際して、障がい者の心を傷つけない配慮を促す。
その他（注意・備考）	ものごとを受身で漠然と見るのではなく、想像力を働かせて、能動的に深く見つめることを心がける。。

科目名	国語科内容論A（FES00500）
英文科目名	Japanese as a Subject A
担当教員名	河原修一（かわはらしゅういち）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現代文（評論）の文脈、構成について、講義する。
2回	現代文（評論）の大意、趣旨、主題、表題について、講義する。
3回	現代文（評論）の文章解釈、語句解釈、素材について、講義する。
4回	現代文（随筆）の素材、随想、表現について、講義する。
5回	現代文（小説）の作者、作品の位置づけ、構成について、講義する。
6回	現代文（小説）の人物、場面、事件、伏線、背景について、講義する。
7回	現代文（小説）の表現、文体、レトリック、象徴について、講義する。
8回	現代文（小説）の主題、表題について、講義する。
9回	現代文（詩）の表現、鑑賞について、講義する。
10回	現代文（短歌・俳句）の表現、鑑賞について、講義する。
11回	古文の仮名遣い、ことばの単位について、講義する。
12回	古文の品詞、活用、接続について、講義する。
13回	古文の係り結び、呼応表現、待遇表現について、講義する。
14回	古文（短歌、俳諧）のレトリック（枕詞、序詞、掛詞、縁語など）について、講義する。
15回	現代文と古文の融合された文章の解釈について、講義する。
16回	これまでの講義のまとめをする。

回数	準備学習
1回	新聞の社説、コラムなどを読んでくること。（標準学習時間60分）
2回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
3回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
4回	配付された資料を読んでくること。
5回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
6回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
7回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
8回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
9回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
10回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
11回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
12回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
13回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
14回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
15回	配付された資料を読んでくること。（標準学習時間60分）
16回	復習してくる。（標準学習時間60分）

講義目的	国語教育における現代文（評論、小説、詩歌）の解釈と鑑賞の方法について、理解を深める。古文の文法や修辞法について、理解を深める。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	1. 現代文の評論の解釈の方法についての基本的な知識と実践的な応用力を身につける。 2. 現代文の小説・詩歌の解釈と鑑賞の方法についての基本的な知識と実践的な応用力を身につける。 3. 古文の文法・修辞法についての基本的な知識と実践的な応用力を身につける。
キーワード	大意、文脈、構成、解釈、主題、表現、文体、表題
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	課題100%（達成目標1～3を確認）で評価する。60%以上を合格とする。
教科書	用いない。
関連科目	日本語学概論、日本語文法、日本語史、日本語表現、国語科教育法、国語科教材分析・開発演習
参考書	『現代文解釈の方法』／遠藤嘉基・渡辺実／中央図書／1979 『分析批評の方法論』／杉田知之／明治図書／1988 『古文の文法』／島田昌彦／三省堂／1988 『基礎古典文法』／小池清治／朝倉書店／1994

連絡先	A1号館9階河原研究室（TEL.086-256-9774） オフィスアワー 木曜日 3時限
授業の運営方針	中学校、高等学校の国語教科書のうちの現代文資料に対応するように、教材を選び、実践的に解説する。
アクティブ・ラーニング	教材に対応する（空欄のある）プリントを配付し、各自記入させ、数人に発表させ、教師がまとめながら、コメントする。
課題に対するフィードバック	課題に対する回答の要旨をプリントにして配付し、コメントする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますの で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 栃木県立高等学校勤務 イ) 現代文資料のなかの差別的用語について、その時代背景に言及し、現代における表現への配慮に言及する。
その他（注意・備考）	国語辞典、古語辞典を持参すること。

科目名	日本文学概論 (FES00600)
英文科目名	Introduction to Japanese Literature
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして授業の進め方、授業内容、成績評価の方針について説明する。文学とは何か(日本文学・古典文学・韻文・散文)概説した上で、三大和歌集(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)について解説する。
2 回	万葉集について解説する。
3 回	前回の確認プリントをする。万葉集の代表歌数首を取り上げ解説する。原文書写を行う。
4 回	古今和歌集について解説する。
5 回	前回の確認プリントをする。古今和歌集の代表歌数首を取り上げ解説する。原文書写を行う。
6 回	新古今和歌集について解説する。
7 回	前回の確認プリントをする。新古今和歌集の代表歌数首を取り上げ解説する。原文書写を行う。
8 回	前半 7 回についてのレポートを提出する。 源氏物語への導入として、平安時代の恋と結婚について解説する。
9 回	源氏物語のDVDを視聴し、源氏物語と紫式部について概説する。DVDについてのコメントシートを提出する。
10 回	前回のコメントシートについて講評する。桐壺の巻①を読む。物語の舞台、登場人物について解説する。原文書写を行う。
11 回	桐壺の巻②を読む。主人公光源氏の誕生と母桐壺更衣の死を物語のテーマ「母恋い」の観点から解説する。
12 回	桐壺の巻③を読む。物語の伏線となる「高麗の相人の予言」を解説する。
13 回	桐壺の巻③の続きを読む。通過儀礼(袴着・読書始・元服)について解説する。
14 回	桐壺の巻④を読む。藤壺の入内と光源氏の藤壺への思慕を解説する。
15 回	第 9～14 回のまとめを行う。この後の物語の展開について概略を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2 回	万葉集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
3 回	前回の復習をしていくこと。【標準学習時間120分】
4 回	古今和歌集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
5 回	前回の復習をしていくこと。【標準学習時間120分】
6 回	新古今和歌集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
7 回	前回の復習をしていくこと。【標準学習時間120分】
8 回	第 1～7 回までをふりかえり、この内から和歌 1～2 首を選びレポートにまとめる。【標準学習時間120分】
9 回	日本史における平安時代、源氏物語と紫式部について調べておくこと。【標準学習時間120分】
10 回	前回の復習をすること。桐壺の巻①を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
11 回	前回の復習をすること。桐壺の巻②を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
12 回	前回の復習をすること。桐壺の巻③を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
13 回	前回の復習をすること。平安時代の通過儀礼について調べていくこと。【標準学習時間120分】
14 回	前回の復習をすること。桐壺の巻④を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
15 回	前回の復習をすること。第 8～14 回を通しての疑問点を整理していくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	言葉の芸術である文学について日本の古典文学を通して理解する。韻文から三大和歌集の歌を、散文から源氏物語を取り上げ、作品の鑑賞を交えながらその魅力を理解する。本科目は中等教育学科(国語教育コース)学位授与の方針の A と強く関係している。
達成目標	①文学について自分なりの見解が述べられる。(A) ②日本文学のジャンル、韻文・散文の別を明確に述べられる。(A) ③三大和歌集とそれらの特徴を述べられる。(A) ④源氏物語の概略と作品の意義について述べられる。(A)
キーワード	韻文、散文、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、源氏物語
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準60点）	中間レポート(40%)〈到達目標①②③を確認〉、最終評価レポート(60%)〈到達目標①②④を確認〉により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。レポートは中間、最終の両方が提出されなければ評価の対象にならない。
教科書	前半の韻文篇についてはプリントを配布し、それをテキストとして用いる。 大島本源氏物語 桐壺／森一郎／和泉書院／1991／978-4870884595
関連科目	日本文学史、日本文学Ⅰ（古典）、国語科内容論B
参考書	新編日本古典文学全集/万葉集/古今集/新古今和歌集/源氏物語/小学館 知識ゼロからの源氏物語/鈴木日出男/幻冬舎/2008/978-4344901308
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:水曜2・3限(春学期)
授業の運営方針	前半の韻文篇では和歌の鑑賞に力を入れたい。 散文篇の『源氏物語』では視聴覚教材を用いて理解を図りたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートはコメントを付して返却する。特に前半のレポートについては授業の中で講評し、書き方の指導をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	指示した回には400字詰原稿用紙を持ってくること。

科目名	日本文学史（FES00700）
英文科目名	History of Japanese Literature
担当教員名	山崎桂子（やまさきけいこ）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして授業の進め方、テキストの使い方、授業内容、成績評価の方針について説明する。 日本文学史の時代区分と文学のジャンルについて解説する。
2 回	上代の文学として神話物語『古事記』を取り上げ、解説する。下巻仁徳天皇条を読解する。
3 回	前回の確認小テスト。中古の文学として作り物語『竹取物語』を取り上げ、解説する。冒頭を読解する。
4 回	前回の確認小テスト。中古の文学として女流日記『蜻蛉日記』を取り上げ、解説する。上巻天暦九年条を読解する。
5 回	前回の確認小テスト。中古の文学として随筆『枕草子』を取り上げ、解説する。冒頭と七十二段「ありがたきもの」を読解する。『源氏物語』と紫式部についても言及する。
6 回	前回の確認小テスト。中古の文学として歴史物語『大鏡』を取り上げ、解説する。巻五太政大臣道長の条を読解する。
7 回	前回の確認小テスト。中古の文学として説話集『今昔物語集』を取り上げ、解説する。巻第二十五第十二話を読解する。
8 回	前回の確認小テスト。中世の文学として軍記物語『平家物語』を取り上げ、解説する。冒頭と巻第九敦盛最期を読解する。
9 回	前回の確認小テスト。中世の文学として女流日記『とはずがたり』を取り上げ、解説する。「文学作品と国語教材」ということに言及する。
1 0 回	前回の確認小テスト。近世の文学として井原西鶴を取り上げ、解説する。その作品として『日本永代蔵』を読解する。
1 1 回	前回の確認小テスト。近世の文学として松尾芭蕉を取り上げ、解説する。紀行『おくのほそ道』を読解する。
1 2 回	前回の確認小テスト。近世の文学として人形浄瑠璃と近松門左衛門を取り上げ、解説する。『曾根崎心中』道行の段を読解する。
1 3 回	前回の確認小テスト。近世の文学として上田秋成を取り上げ、解説する。『雨月物語』『吉備津の釜』を読解する。
1 4 回	前回の確認小テスト。近代の文学として森鷗外を取り上げ、解説する。『舞姫』を読解する。
1 5 回	前回の確認小テスト。近代の文学として夏目漱石を取り上げ、解説する。『夢十夜』を読解する。今回の確認小テスト配布。
1 6 回	最終評価試験を行う。 編集したアンソロジーを回収する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2 回	教科書の概説と、『古事記』のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
3 回	教科書の『竹取物語』のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
4 回	教科書の『蜻蛉日記』のところを読んで理解しておくこと。中古の他の日記作品についても教科書の当該部分を読んでおくこと。【標準学習時間120分】
5 回	教科書の『枕草子』のところを読んで理解しておくこと。紫式部についても教科書の当該部分を読んでおくこと。【標準学習時間120分】
6 回	教科書の『大鏡』のところを読んで理解しておくこと。『大鏡』と併称される『栄花物語』についても調べておくこと。【標準学習時間120分】
7 回	教科書の『今昔物語集』のところを読んで理解しておくこと。中世の説話集である『撰集抄』についても教科書の当該部分を読んでおくこと。【標準学習時間120分】
8 回	教科書の平家物語のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
9 回	教科書の『とはずがたり』のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
1 0 回	教科書の井原西鶴のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
1 1 回	教科書の松尾芭蕉のところを読んで理解しておくこと。俳諧について調べておくこと。【標準学習時間120分】
1 2 回	教科書の近松門左衛門のところを読んで理解しておくこと。人形浄瑠璃（文楽）について調べておくこと。【標準学習時間120分】
1 3 回	教科書の上田秋成のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】

1 4 回	教科書の森鷗外のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
1 5 回	教科書の夏目漱石のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
1 6 回	1回～15回までの内容をよく理解し、主要な事項を記憶しておくこと。アンソロジーを編集し、提出できるようにしておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	上代から現代までの文学の流れを理解した上で、各時代の主要な作品や作家について知り、位置づけることができる。主要な作品の一部を音読、書写し、鑑賞することができる。本科目は中等教育学科(国語教育コース)学位授与の方針のA、Cと強く関係している。
達成目標	①上代・中古・中世・近世・近代・現代という文学史の時代区分を説明できる。(C) ②各時代の歴史的背景・文化の特徴・文学の特徴(文学思潮)を説明できる。(A、C) ③主要な作品の成立時期・作者・内容を説明できる。(C)
キーワード	上代、中古、中世、近世、近代、現代、韻文、散文、ジャンル
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出物(編集したアンソロジー)(30%)および最終評価試験(70%)〈到達目標①～③を確認〉により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	『教養として学ぶ日本文学史』／山崎桂子編／荻萩文庫／2018 書店販売しない。初回講義時に教室で販売する。
関連科目	日本文学概論、日本文学Ⅰ(古典)、日本文学Ⅱ(近・現代)
参考書	日本文学史序説上・下／加藤周一／ちくま学芸文庫／2009／978-4480084873・978-4480084880 日本文学新史／小山弘志編／至文堂／1990／978-4784300600 岩波講座日本文学史全17巻別巻1／岩波書店／1995～1997
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:月曜2・3限(秋学期)
授業の運営方針	・主要な作品・作家でも他の講義で扱うものについては割愛している。 ・毎回原稿用紙に原文書写を行い、表紙・タイトル・目次等をつけて編集し提出する。 ・毎回前回の内容を小テスト形式で確認する。 ・視聴覚教材を積極的に取り入れて理解を図る。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	確認小テストはその都度答え合わせをし簡単な解説をする。 提出物はコメントを付して返却する。 最終評価試験終了後、模範解答を配布し解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毎回400字詰原稿用紙を持ってくること。

科目名	日本文学Ⅰ（古典）（FES00800）
英文科目名	Japanese Literature I(classic)
担当教員名	山崎桂子（やまさきけいこ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして授業の進め方、演習の仕方、成績評価の方針について説明する。文字の歴史と平仮名について解説する。変体仮名の読解練習①をする。
2回	徒然草の概説（時代背景・随筆・作者兼好・書名）をする。変体仮名の読解練習②をする。
3回	徒然草の概説（成立・内容・伝本・古注釈書・正徹本）をする。演習担当段と日程の調整をする。
4回	モデル演習（序段）を行う。参考文献を紹介する。変体仮名の読解練習③をする。
5回	変体仮名の読解練習④をする。
6回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
7回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
8回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
9回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
10回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
11回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
12回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
13回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
14回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
15回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。 総まとめを行う。
16回	変体仮名を翻字、校訂し、現代語訳をする形の評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。徒然草について調べてくこと。【標準学習時間120分】
3回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
4回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
5回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
6回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
7回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
8回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
9回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
10回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
11回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
12回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
13回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
14回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
15回	担当者は資料作成等の準備をする。聴く側は演習予定段を読んで内容を理解し、何らかの質問ができるようにしておくこと。【標準学習時間120分】
16回	変体仮名を自在に読めるようになっておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	徒然草を演習形式で講読することにより、徒然草に描かれた兼好の美意識・教養・趣味・思想・説
------	--

	話を自分なりに味読・鑑賞する力を身につける。変体仮名の解説に習熟し、古典を原典から読めるようになる。古写本の知識を得る。本科目は中等教育学科(国語教育コース)の学位授与の方針のAと強く関係している。
達成目標	①手引きを使って変体仮名が読める。(A) ②本文校訂ができる。(A) ③参考文献を用いて各段の内容を理解し、自分なりの解釈と意見を述べられる。(A) ④きちんとした演習資料が作成できる。(A)
キーワード	徒然草、兼好法師、中世、随筆、草庵文学、変体仮名
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（資料作成・発表・質疑応答）（50％）〈到達目標①～④を確認〉、変体仮名テスト（40％）〈到達目標②を確認〉及び授業参加度(演習に対する質問)(10％)により総合的に評価し、総計60％以上を合格とする。
教科書	『校注徒然草』／稲田利徳編／和泉書院／1987／978-4-870882-67-6 『仮名手引』／神戸平安文学会編／和泉書院／1981／978-4-900137-26-4
関連科目	日本文学概論、日本文学史
参考書	『徒然草全注釈上・下』／安良岡康作／角川書店／1967・1968／978-4-047610-07-1・978-4-047610-08-9 新編日本古典文学全集『徒然草他』／永積安明他／小学館／1995／978-4-096580-44-9 『徒然草講座』全4巻／有精堂編集部編／有精堂出版／1974～1977
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:水曜2・3限(春学期)
授業の運営方針	・演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。 ・活発な質疑応答を授業参加度として評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習後は訂正した資料を再提出させ、コメントを付して返却する。変体仮名テストは試験後、模範解答を示し、解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	古語辞書（電子辞書可）を毎回持参すること。

科目名	日本文学Ⅱ（近・現代）（FES00900）
英文科目名	Japanese Literature II(modern)
担当教員名	木村功＊（きむらたくみ＊）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：「学習指導要領」を参考にしながら、国語教育の内容、生徒に身につけさせる言語能力、教員に求められる姿勢・能力について概説する。
2回	現代詩(1)：詩に関する基本的技法を概説するとともに、教材の詩の作者、作品の内容について、演習を交えながら解説する。
3回	現代詩(2)：教材の詩の作者、作品の表現技法について、演習を交えながら解説する。
4回	現代詩(3)：教材の詩の作者、作品の内容・テーマについて、演習を交えながら解説する。
5回	近代詩(1) 教材の詩の作者、作品の表現技法について、演習を交えながら解説する。
6回	近代詩(2)：教材の詩の作者、作品の内容・テーマについて、演習を交えながら解説する。
7回	小説作品の読解方法について説明する。 「少年の日の思い出」(1)：「僕」とエーミールの人物像について、演習を交えながら解説をする。
8回	「少年の日の思い出」(2)：「僕」の行動について、演習を交えながら解説をする。
9回	「少年の日の思い出」(3)：「僕」の人物像を、クリティカル・リーディングを用いて読解する。
10回	太宰治「走れメロス」(1)：メロスとディオニス王の人物像を、演習を交えながら解説する。
11回	太宰治「走れメロス」(2)：メロスの行動を、クリティカル・リーディングを用いて読解する。
12回	太宰治「走れメロス」(3)：メロスの変容とその内容について、演習を交えながら解説をする。
13回	論理的文章概説：論理的文章の読み方と指導方法について、段落構成や文章表現の工夫を中心に概説する。
14回	教材テキストの評論文を対象に、演習を交えながら、内容について解説する。
15回	評論文の分析・考察：意味段落と、表現と論理の工夫、主題について解説する。
16回	1回から15回までの授業内容に基づき、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習を行い、第2回授業までに、事前配布された詩の作品について、表現上の工夫・内容について自分の見解をノートに記しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
3回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートに記しておくこと。（標準学習時間・90分）
4回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
5回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
6回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。次回の教材プリントに目を通し、課題について考えてくること。（標準学習時間・90分）
7回	事前に作品に目を通し、僕とエーミールの人物像の特徴に関する情報を抽出し、自分なりに人物像を把握しておくこと。（標準学習時間90分）
8回	「僕」とエーミールの人物像の分析・考察について復習すること。次にくじやくやままゆを盗む一連の行動について、異化した読解を考えておくこと。（標準学習時間90分）
9回	「僕」の人物像の分析・考察について復習すること。「走れメロス」を通読し、メロスとディオニス王の人物像を考えておくこと。（標準学習時間90分）
10回	「僕」の心情について授業内容を確認しておくこと。事前に「走れメロス」に目を通し、王とメロスの人物像の特徴を表現している箇所を把握し、人物像を考えておくこと。（標準学習時間90分）
11回	王とメロスの人物像について、授業内容を確認しておくこと。「走れメロス」の次の場面に目を通し、メロスの行動で異化できる箇所を考えておくこと。（標準学習時間90分）
12回	メロスの行動について授業内容を確認しておくこと。「走れメロス」の次の場面に目を通し、メロスが変容した箇所とその内容について考えておくこと。（標準学習時間90分）
13回	メロスの変容について、確認しておくこと。 事前に論理的文章のテキストプリントを読み、内容を要約してノートに記しておくこと。（標準学習時間90分）
14回	論理的文章の読み方、指導法について、確認しておくこと。各形式段落を構成する題材、筆者の主張の大まかな内容について整理・確認しておくこと。（標準学習時間90分）

15回	各形式段落の題材、表現の工夫と論理構成について理解すること。また筆者の主張を理解すること。（標準学習時間90分）
16回	1回から15回までの配布物・ノートによって、授業内容を確認し、理解を定着させておくこと。

講義目的	中等学校の国語科の授業で扱われている文学教材を対象に、国語科教員として必要な文学に関する基本的・一般的な事項について概説するとともに、実際に文学作品を用いて、教材研究の方法・考え方を具体的に解説する。 その際文学を教えるのではなく、高度な言語情報である言語文化として教材を捉え、近代・現代の詩歌・小説の代表的な作品を取り上げ、演習を交えながら、分析・考察を加えることで、現代における言語情報・言語文化を理解・継承することの意味と、それらに対する教材研究の重要性の理解を深めることとする。 中等教育学科国語教育コース学位授与の方針(DP)のBと深く関連している。
達成目標	1, 中等学校で用いられる詩歌・近現代の小説・論理的文章に関して、基本的知識・重要事項について説明できる。(B) 2, 中等学校で用いられる詩歌・近現代の小説・論理的文章に関して、内容の分析・解説ができる。(B)
キーワード	読解力、思考力、想像力、表現力、異化、クリティカル・リーディング、石垣りん、谷川俊太郎、太宰治、ヘッセ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中の演習課題(10%、達成目標1, 2を確認)、自習課題（10%、達成目標2を確認）、最終評価試験(80%、達成目標1, 2を確認)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	当該授業前にテキストプリントを配布する。授業時にも資料を配付する。教科書販売はしない。
関連科目	日本文学概論、日本文学史
参考書	授業時に、適宜紹介する。
連絡先	kimutaku@okyamma-u.ac.jp
授業の運営方針	・授業中は、静粛に努め、スマホなどの電子機器類の使用や、私語など、他の受講者の迷惑になる行為をしてはならない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・演習課題については、時間内に解説をする。 ・自習課題は、後日添削の上返却し、授業で解説する。 ・最終評価試験では、解答例を試験終了時に配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国語科内容論B (FES01000)
英文科目名	Japanese as a Subject B
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして授業の進め方、演習の仕方、成績評価の方針について説明する。 『伊勢物語』について時代背景、ジャンル、成立、作者、書名の解説をする。
2回	『伊勢物語』の内容と構成、伝本、在原業平について解説する。 担当段と日程の調整をする。
3回	モデルとして初段「初冠」の演習を行い、資料作成の方法、発表の仕方等を説明する。参考文献を紹介する。
4回	第4段「月やあらぬ」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
5回	第5段「関守」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
6回	第6段「芥川」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
7回	第9段「東下り」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
8回	第23段「筒井筒」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
9回	第24段「梓弓」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
10回	第40段「すける物思ひ」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
11回	第45段「行く蜚」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
12回	第69段「狩の使ひ」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
13回	第82段「渚の院」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
14回	第83段「小野の雪」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。
15回	第84段「長岡の母」、第125段「つひに行く道」の演習(受講者が2～3人で担当し発表、質疑応答)を行う。総まとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	テキストの概説を読んで内容を理解しておくこと。自分の担当したい段を選定しておくこと。【標準学習時間120分】
3回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
4回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
5回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
6回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
7回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
8回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
9回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
10回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。 担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
11回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
12回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。 担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
13回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
14回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
15回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】

講義目的	定番教材である『伊勢物語』を演習形式で読む。歌物語の特色を理解した上で、簡潔な文章と和歌からなる原文を丁寧に読み解くことにより、人間の愛情の種々相をいかに描いているか、昔男業平
------	--

	はどのように描かれているか、作品の魅力はどこにあるのかを理解する。その上で教材研究の要点や指導上の工夫を身につけ、古文教材としての意義と可能性を探っていく。本科目は中等教育学科(国語教育コース)の学位授与の方針のA、Eと強く関係している。
達成目標	①原文を声に出して正しく読み、辞書を用いて意味を調べ、現代語訳ができる。(A、E) ②参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。(A、E) ③教材としての理解を持ち、古文の授業で適切に指導できる。(A、E)
キーワード	教材研究、古文、歌物語、伊勢物語、在原業平、
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習〈資料作成・発表・質疑応答〉(70%)〈到達目標①～③を確認〉、レポート(30%)〈到達目標①～③を確認〉により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	新校注 伊勢物語／片桐洋一・田中まき／和泉書院／2016／978-4757607958
関連科目	国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、日本文学史、日本文学Ⅰ(古典)、国語科教材分析・開発演習B
参考書	新編日本古典文学全集12『伊勢物語他』／小学館／1994／978-4096580120 新潮日本古典集成『伊勢物語』／新潮社／2017／978-4106208096 片桐洋一／伊勢物語全読解／和泉書院／2013／978-4757606906
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:水曜2・3限(春学期)
授業の運営方針	・演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。 ・活発な質疑応答を授業参加度として評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習後は訂正した資料を再提出させ、コメントを付して返却する。レポートはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	古語辞書(電子辞書可)を持ってくること。

科目名	漢文学概論 (FES01100)
英文科目名	Introduction to Chinese Classics
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションの後、漢文の定義、漢文学の意義について説明する。また、漢和辞典について説明する。
2 回	『詩経』について説明する。
3 回	『楚辞』について説明する。
4 回	『史記』について説明する。
5 回	漢代の詩文について説明する。
6 回	中国思想について説明する。
7 回	『文選』について説明する。
8 回	『玉台新詠』について説明する。
9 回	初盛唐の詩文について説明する。
10 回	中晩唐の詩文について説明する。
11 回	北宋の詩文について説明する。
12 回	『資治通鑑』について説明する。
13 回	南宋の詩文、朱子学について説明する。
14 回	明清白話小説について説明する。
15 回	まとめ 東アジアにおける漢文学の意義について説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「漢文」の定義について調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	『詩経』について、配布された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間90分)
3 回	屈原について、配布された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間90分)
4 回	中国の史書、正史について、配布された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間90分)
5 回	詩と賦の文体としての違いについて調べてもらうこと。(標準学習時間120分)
6 回	儒家、道家、諸子百家など古代中国の思想について、配布された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間120分)
7 回	『枕草子』『徒然草』など、日本の古典の中で言及される『文選』について、原典を確認してもらうこと。(標準学習時間90分)
8 回	中国古典文学における「恋愛」というテーマについて、配布された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間90分)
9 回	李世民、則天武后について調べてもらうこと。(標準学習時間120分)
10 回	安祿山の乱について調べてもらうこと。(標準学習時間120分)
11 回	唐宋八大家について調べてもらうこと。(標準学習時間90分)
12 回	紀伝体と編年体の違いについて調べてもらうこと。(標準学習時間90分)
13 回	儒学における漢学→唐学→宋学の変遷について調べてもらうこと。(標準学習時間120分)
14 回	文言と白話の違いについて調べてもらうこと。(標準学習時間90分)
15 回	日本人の教養としての中国古典の意義について、配付された資料を読んでもらうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	漢文学（中国古典文学）の歴史的な流れを、中国史や思想史、或いは日本史などとの繋がりの中から学びつつ、その概要を理解する。また、漢文に関する様々な基礎知識を修得する。 中等教育学科国語教育コース「学位授与の方針」（DP）のA、Bと強く関連している。
達成目標	1.中国古典文学史の概要を説明できる。（A、B） 2.国語教員を目指す者として知っておくべき漢文学のいくつかの重要事項について説明できる。（A、B） 3.漢文に関する基礎知識を説明できる。（A、B）
キーワード	中国文学 漢文 中国史 漢文学 漢詩 韻文 散文 史書 思想 小説 唐詩 唐宋八大家 宋詩 日本文化
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業開始時の小テスト(20%、達成目標3を確認)、授業中の提出課題(30%、達成目標2を確認)、期末課題(50%、達成目標1を確認)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。（プリント配布）
関連科目	漢文学Ⅰ、漢文学Ⅱ、国語科内容論C、国語科教材分析・開発演習C、日本文学史

参考書	『全訳漢辞海』第4版（推奨漢和辞典） 『中国文学史』／前野直彬(編)／東京大学出版会／1975年／9784130820363： 『中国思想文学史』／日原利国／朋友書店／1999年／9784892810695： 『中国文学史新著（増訂本）』上中下／章培恒・駱玉明(主編)／井上泰山等(訳)／関西大学出版部 ／2011～2014年／9784873545127, 9784873545554, 9784873545738： ＊その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno★ped.ous.ac.jp [★→@] 086-256-9444（研究室） オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	講義内容を理解するためには事前学習が重要となります。 授業中、他の受講者を妨害する行為（過度な私語など）はしないでください。 レポートや提出課題に剽窃がある場合、評価の対象としません。 配付資料やレジュメについて、分からない語句や事柄は必ず辞書等で調べて下さい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	小テストは授業中に答え合わせと解説をする。 提出課題は、回収後、授業中に解説を加える。 期末課題については第14回終了後に回収し、採点の後、第15回目でそれを教材の一つとして使用し、解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	高校で学んだ漢文について、高校時代の教材やノートを復習しておくこと。 漢和辞典必携。

科目名	漢文学Ⅰ (FES01200)
英文科目名	Chinese Classics I
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションの後、漢文(詩文)の歴史と文体について説明する。 詩の形式と技法について説明する。
2回	「毛詩大序」に見る漢文学における詩の位置づけについて説明する。
3回	「古詩十九首」を精読する。
4回	劉邦「大風歌」、漢武帝「秋風辞」を精読する。
5回	潘岳「悼亡詩」を精読する。
6回	「子夜歌」を精読する。
7回	王維「送元二使安西」「送秘書晁監還日本国」を精読する。
8回	杜甫「春望」「月夜」を精読する。
9回	白居易「長恨歌」(抄)を精読する。
10回	白居易「母別子」を精読する。
11回	蘇軾「赤壁賦」を精読する。
12回	李清照「如夢令」「声声慢」を精読する。
13回	陸游「示兒」、文天祥「正気歌」を精読する。
14回	嚴羽『滄浪詩話』を精読する。
15回	漢詩の読解と評価について、これまでの授業を踏まえて説明する。 「情」を読み解くということについて説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、漢文の文体について調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	「毛詩大序」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
3回	「古詩十九首」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
4回	「大風歌」「秋風辞」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
5回	「悼亡詩」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
6回	「子夜歌」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
7回	「送元二使安西」「送秘書晁監還日本国」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
8回	「春望」「月夜」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
9回	「長恨歌」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
10回	「母別子」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
11回	「赤壁賦」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
12回	「如夢令」「声声慢」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
13回	「示兒」「正気歌」について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
14回	『滄浪詩話』について、配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間90分)
15回	授業で読んだ作品について、復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	「詩は情を詠う」という中国文学の根本的テーゼを理解する。 漢詩の読解及び教授に関する基礎的かつ実践的な知識を修得する。 中等教育学科国語教育コース学位授与の方針(DP)のA、Bと強く関連している。
達成目標	1.中国文学における漢詩の位置付けと機能について説明できる。(A、B) 2.形式や技法に注意して漢詩を読むことができる。(A、B) 3.「詩は情を詠う」という中国文学のテーゼについて説明できる。(A)
キーワード	中国文学 中国史 漢文学 漢詩 詩史 古体詩 近体詩 韻文 詩律 古詩 唐詩 宋詩
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	小テスト(30%、達成目標2を確認)、授業中の提出課題(30%、達成目標2を確認)、最終課題(40%、達成目標1,3を確認)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。(プリント配布)
関連科目	漢文学概論、漢文学Ⅱ、国語科内容論C、国語科教材分析・開発演習C
参考書	『全訳漢辞海』第4版／三省堂(推奨漢和辞典) 『中国文学史』／前野直彬(編)／東京大学出版会／1975年／9784130820363： 『中国思想文学史』／日原利国／朋友書店／1999年／9784892810695： 『中国文学史新著(増訂本)』上中下／章培恒・駱玉明(主編)／井上泰山等(訳)／関西大学出版部／2011～2014年／9784873545127,9784873545554,9784873545738：

	＊その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno★ped.ous.ac.jp [★→@] 086-256-9444[研究室] オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	講義内容を理解するためには事前学習が重要となります。 授業中、他の受講者を妨害する行為（過度な私語など）はしないでください。 レポートや提出課題に剽窃がある場合、評価の対象としません。 配付資料やレジュメについて、分からない語句や事柄は必ず辞書等で調べて下さい。
アクティブ・ラーニング	この授業ではアクティブラーニングの一形態としてディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストは授業中に答え合わせと解説をする。 提出課題は、回収後、授業中に解説を加える。 最終課題については第15回の前日までに回収し、15回目でそれを教材として解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	高校で学んだ漢文について、高校時代の教材やノートを復習しておくこと。 資料中の分からない語句は辞書を使って調べること。 漢和辞典必携。

科目名	漢文学Ⅱ (FES01300)
英文科目名	Chinese Classics II
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションの後、中国の散文の変遷や種類について説明する。
2 回	四書について説明する。
3 回	『大学』『中庸』の文章を精読する。
4 回	『論語』『孟子』の文章を精読する。
5 回	五経について説明する。
6 回	『礼記』の文章（前半部分）を精読する。
7 回	『礼記』の文章（後半部分）を精読する。
8 回	中国の史書について説明する。
9 回	『春秋左氏伝』の文章を精読する。
10 回	『史記』の文章を精読する（前半部分）。
11 回	『史記』の文章を精読する（後半部分）。
12 回	『漢書』の文章を精読する。
13 回	『資治通鑑』の文章を精読する。
14 回	『十八史略』の文章を精読する。
15 回	まとめとして、漢文教材として見た散文作品の特徴や種類について説明する。
16 回	最終評価試験を行う。（辞書使用可）

回数	準備学習
1 回	漢文における散文の種類を調べておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	四書の概要を事前に調べてくること。（標準学習時間60分）
3 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
4 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
5 回	四書の概要を事前に調べてくること。（標準学習時間60分）
6 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
7 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
8 回	二十四史について調べてくること。（標準学習時間90分）
9 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
10 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
11 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
12 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
13 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
14 回	配布された資料を読んでくること。（標準学習時間120分）
15 回	授業で学んだことを復習しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	漢文学Ⅱでは、経書・史書を取り上げる。漢文学概論で学んだことを踏まえつつ、実際に四書五経や代表的な史書の文章を読むことで、それぞれの書物の性格や特徴を理解する。 漢和辞典の使い方を修得する。 散文の読解能力を身につける。 この科目は中等教育学科国語教育コース「学位授与の方針」のうち、Aと深く関連している。
達成目標	(1) 漢文の散文に関する基本的事項を説明できる。(A、B) (2) 漢文の散文を訓読することができる。(A、B) (3) 漢和辞典を使いこなすことができる。(C)
キーワード	漢文学、散文、四書、五経、史書
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト(30%、達成目標1を確認)、最終評価試験(70%、達成目標2、3を確認)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。（プリント配布）
関連科目	漢文学概論、漢文学Ⅰ、国語科内容論C、国語科教材分析・開発演習C
参考書	『全訳漢辞海』第4版／三省堂（推奨漢和辞典） 新釈漢文大系（明治書院）に収録される各種訳注： 漢文入門／小川環樹・西田太郎／岩波全書／岩波書店／1957年／9784000201018：新訂 漢文法要説／西田太郎／朋友書店／2014年再刊／9784892810534：概説中国思想史／湯浅邦弘[編著]／ミネルヴァ書房／2010年／9784623058204：四書五経入門／竹内照夫／平凡社／2000年／978458276322

	01：五経入門 中国古典の世界／野間文史／研文出版／2014年／9784876363742：中国の歴史書 中国史学史／増井経夫／刀水書房／1984年／9784887080522：中国哲学史／狩野 直喜／岩波書店／1953年： ＊その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno★ped.ous.ac.jp [★→@] 086-256-9444[研究室] オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	予習必須。 授業中、他の受講者を妨害する行為（過度な私語など）はしないでください。 配付資料やレジュメについて、分からない語句や事柄は必ず辞書等で調べて下さい。
アクティブ・ラーニング	この授業ではアクティブ・ラーニングの一形態としてペアワークを行う。
課題に対するフィードバック	小テストは授業中に答え合わせと解説をする。 最終評価試験は試験終了後に解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	
	高校で学んだ漢文について、高校時代の教材やノートを復習しておくこと。 漢和辞典必携。

科目名	国語科内容論C（FES01400）
英文科目名	Japanese as a Subject C
担当教員名	奥野新太郎（おくのしんたろう）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションの後、国語科の漢文学における日本漢学の重要性について説明する。
2回	遣唐使以前の漢文学の受容について説明する。 『懷風藻』の作品を読む。
3回	平安時代の漢文学について説明する。 勅撰三集について説明する。
4回	平安時代の漢文学について説明する。 菅原道真、空海の漢詩を精読する。
5回	和歌と漢文の関係について論じる。 『和漢朗詠集』を読む。
6回	鎌倉・室町時代の漢文学について説明する。 五山文学について説明し、作品を読む。
7回	鎌倉・室町時代の漢文学について論じる。 抄物や和漢混淆文について説明する。
8回	戦国時代の漢文学について説明する。 武士と漢学について説明する。 戦国武将の詩を読む。
9回	江戸時代の漢学について説明する。 江戸の学問、朱子学と陽明学について説明する。
10回	江戸時代の漢文について説明する。 江戸の漢学者の作品を読む。
11回	江戸時代の教育について説明する。 江戸時代の漢文教育、儒者の教育思想について説明する。
12回	明治以後の漢文教育について論じる。
13回	戦後以降の漢文教育について論じる。
14回	明治以降の文学と漢文について論じる。
15回	講義のまとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、国語教科書における日本漢文の収録状況について調べてくること。（標準学習時間90分）
2回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
3回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
4回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
5回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
6回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
7回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
8回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
9回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
10回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
11回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
12回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
13回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
14回	配付資料を読み、事前に示された課題・調べ物を行ってくる（標準学習時間90分）
15回	これまでの学習を総括しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	この科目では、日本における漢文学受容の歴史を通じて、我が国の言語及び国語教育における漢語＝漢文学の重要性を学ぶ。また、日本漢文学史を学ぶことで、国語学史の重要な一側面を補うとともに、日本漢文の教材開発のための基礎知識を習得する。 この科目は中等教育学科国語教育コース「学位授与の方針」のうち、A、Eと深く関連している。
達成目標	（1）日本漢文学史の概要を説明できる。（A、B、E）

	(2) 日本語と漢語の関係の歴史について説明できる。(A、B、E) (3) 国語科で漢文を学ぶ意義について説明できる。(A、E)
キーワード	漢学、中国学、日本漢文学史、日本漢学、漢文教育、日本教育史、日本語史
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	小テスト30%(達成目標1を確認)、課題30%(達成目標2を確認)、最終課題40%(達成目標3を確認)により、総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	漢文学概論 漢文学Ⅰ 漢文学Ⅱ 日本文学史
参考書	中国文化叢書⑨日本漢学/水田 紀久・頼 惟勤/大修館書店/1968年:中国文化叢書⑩日本文化と中国/尾藤 正英/大修館書店/1968年:日本漢文学史/戸田 浩暁/武蔵野書院/1995年:日本漢文学史/岡田 正之/吉川弘文館/4-642-08516-5:日本漢文学史概説/市川 太一郎/大安/1969年:日本漢文学史/猪口 篤志/角川書店/1984年:菅原道真と平安朝漢文学/藤原 克己/東京大学出版会/4-13-080064-7:日本の古典と漢文学/金原 理/熊本出版文化会館/978-4-915796-78-4:上代漢詩文と中国文学/波戸岡 旭/1989年:平安朝漢詩文の研究/金原 理/九州大学出版会/1981年:平安朝の漢文学/川口 久雄/吉川弘文館/1981年:東瀛詩選/兪 樾/中華書局/978-101-11501-7:思想史の中の日本語/中村 春作/勉誠出版/978-4-585-21041-2:その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F 奥野研究室(912) okuno☆ped.ous.ac.jp (☆→@) 086-256-9444 (研究室) オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	予習必須。 授業中、他の受講者を妨害する行為(過度な私語など)はしないでください。 授業で紹介された事項について、授業後にさらに自分で詳細を調べるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	小テストは授業中に答え合わせと解説をする。 課題は回収後、授業中に解説を加える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	書写・書道 (FES01500)
英文科目名	Penmanship/Calligraphy
担当教員名	前田秀雄＊ (まえだひでお＊)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	導入。各自の小中高校での学習を振り返り、書写・書道学習への目標を再確認する。
2 回	「永字八法」を参考にしながら、伝統的な楷書基本点画の執筆方法を説明する。
3 回	「春」字を執筆し毛筆書の本質を説明する。
4 回	「一三」・「土工」を臨書して横画と縦画の執筆法の練習を指導する。
5 回	「十干」・「口目」を臨書して横画・縦画・折れの執筆法の練習を指導する。
6 回	「山里」・「八人」を臨書して折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
7 回	「大木」・「走者」を臨書して横画・縦画・折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
8 回	古典の中にある文字を利用して、「青春」をテーマに作品の製作を指導する。
9 回	筆線を使った「年賀状」の表現を指導する。
1 0 回	「分散」・「水力」を臨書して、払い・跳ねの執筆法の練習を指導する。
1 1 回	「魚」「黒点」を臨書して、点の執筆法の練習を指導する。
1 2 回	「方向」「七光」を臨書して、漢字の結構法の練習を指導する。
1 3 回	「南風」を臨書して、楷書の用筆法・結構法の習得を指導する。
1 4 回	「南風」の臨書作品を分析して、楷書の用筆法・結構法を確認する。
1 5 回	1～1 4 回で仕上げた課題を踏まえて、書写・書道の鑑賞法と評価法を指導する。

回数	準備学習
1 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。
5 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
6 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
7 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
8 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
9 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
1 0 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
1 1 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
1 2 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
1 3 回	1～1 2 回の授業で学んだことを総合して楷書技法のまとめをすること。(標準学習時間120分)
1 4 回	前回の授業の成果を踏まえて、楷書技法の鑑賞分析のための独自の判断能力を養うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)

講義目的	初等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、小学校における国語科書写として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用しながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	・小学校の国語科書写に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、基本点画から始め、仮名・漢字を正しく整えて書くことができること。・筆で文字を書くことに慣れ、好きになること。・姿勢や執筆法、基本的な教材教具の工夫や鑑賞についての理解を深めること。学位

	授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	好学（学を好む・好きこそものの上手なれ）
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の課題作品60％、レポート20％、最終評価試験20％による総合評価。
教科書	使用しない。
関連科目	書写、書道
参考書	使用しない。
連絡先	maedax@mb.pikara.ne.jp（＊連絡の際は、まず「理科大〈書写・書道〉・学籍番号・学年・氏名」を明記のこと）
授業の運営方針	毛筆による実習を中心とします。
アクティブ・ラーニング	生徒間で添削評価する時間を設けます。
課題に対するフィードバック	机間巡視・鑑賞指導の時間を通して適宜アドバイスをを行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毛筆書道用具・2B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。

科目名	英語学概論 (FES01600)
英文科目名	Introduction to English Philology and Linguistics
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	英語の歴史的変遷の概観とコミュニケーション能力の構成要素について説明する。
2 回	英語の音韻について説明する。
3 回	英語の形態について説明する。
4 回	英語の文法について説明する。
5 回	英語の語彙について説明する。
6 回	英語の意味について説明する。
7 回	英語の対人関係構造 (1) (法性) について説明する。
8 回	英語の対人関係構造 (2) (発話意図) について説明する。
9 回	英語の対人関係構造についてのまとめをする。
10 回	英語の談話構造 (1) (接続詞) について説明する。
11 回	英語の談話構造 (2) (語彙反復) について説明する。
12 回	英語の談話構造 (3) (新情報と旧情報) について説明する。
13 回	英語の談話構造 (4) (主題と題述) について説明する。
14 回	英語の談話構造についてのまとめをする。
15 回	国際共通語としての英語の実態 (音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造) についてまとめをする。
16 回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認、2 回目の授業までに英語の音韻について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目の授業までに英語の形態について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目の授業までに英語の文法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目の授業までに英語の語彙について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目の授業までに英語の意味について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目の授業までに英語の法性について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目の授業までに英語の発話意図について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目の授業までに英語の法性・発話意図について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 10 回目の授業までに英語の接続詞について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 11 回目の授業までに英語の語彙反復について予習を行うこと (標準学習時間120分)
11 回	10 回目の授業内容の整理を行うこと。 12 回目の授業までに英語の新情報と旧情報について予習を行うこと (標準学習時間120分)
12 回	11 回目の授業内容の整理を行うこと。 13 回目の授業までに英語の主題と題述について予習を行うこと。(標準学習時間120分)

1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の談話構造について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに英語の音韻・形態・文法・語彙・意味・談話構造について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	コミュニケーション能力の構成要素・英語の対人関係構造・談話構造について整理を行うこと。（標準学習時間60分）

講義目的	英語の歴史的変遷に基づいて英語学（音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造など）の知識を充実させるのみならず、その知識が実践的コミュニケーションにどのように活かされるかについて、主に国際共通語としての英語の構造面に重点を置いて、知識と運用の統合的理解の向上をはかる。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	1) 中等教育の英語教師に求められる英語学の基礎的な知識を具体的に説明できる。(A) 2) 学生がコミュニケーションに通じる英語学について具体的に説明できる。(A) 3) 毎回の授業で英語学の疑問点や問題点について、質問を考え解決する方法の提案ができる。(A)
キーワード	音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）2）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）3）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語学概論 を通して英語という言語の特質がより深く理解できている。
教科書	新えいご・エイゴ・英語学／稲木明子・堀田知子・沖田知子／松柏社／4-7754-0004-5
関連科目	現代英文法、英語史
参考書	The English Language／David Crystal／Penguin Books, 1988／0-14-022730-X
連絡先	A 1 号館 1 0 階 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説し、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進捗など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	辞書（電子辞書可）を持参すること。

科目名	現代英文法（FES01700）
英文科目名	Contemporary English Grammar
担当教員名	地村彰之（ぢむらあきゆき）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	現代英語文法の概要：英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法を学ぶ。
2 回	気分、感情、及び態度（1）（話し言葉における感情的強調）について説明する。
3 回	気分、感情、及び態度（2）（感情の記述）について説明する。
4 回	気分、感情、及び態度（3）（意志）について説明する。
5 回	気分、感情、及び態度（4）（許可と義務）について説明する。
6 回	気分、感情、及び態度（5）（人を動かす方法）について説明する。
7 回	気分、感情、及び態度（6）（呼びかけ）について説明する。
8 回	連結した談話における意味（1）（連結信号）について説明する。
9 回	連結した談話における意味（2）（節や文をつなぐ方法）について説明する。
1 0 回	連結した談話における意味（3）（一般的用途の連結詞）について説明する。
1 1 回	連結した談話における意味（4）（情報の提示）について説明する。
1 2 回	連結した談話における意味（5）（情報の焦点化）について説明する。
1 3 回	連結した談話における意味（6）（語順）について説明する。
1 4 回	連結した談話における意味（7）（強調）について説明する。
1 5 回	まとめをする。
1 6 回	1回～15回までの総括をし、最終試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	2 回目までに、話し言葉における感情的強調に関し予習をすること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目までに、感情の記述に関し予習すること。（標準学習時間120分）
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目までに、意志に関し予習をすること。（標準学習時間120分）
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目までに、許可と義務に関し予習すること。（標準学習時間120分）
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目までに、人を動かす方法に関し予習すること。（標準学習時間120分）
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目までに、呼びかけに関し予習すること。（標準学習時間120分）
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目までに、連結信号に関し予習すること。（標準学習時間120分）
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目までに、節や文をつなぐ方法に関し予習すること。（標準学習時間120分）
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 0 回目までに、一般的用途の連結詞に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 0 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 1 回目までに、情報の提示に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 1 回	1 0 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 2 回目までに、情報の焦点化に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目までに、語順に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 4回目までに、強調に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 4回	1 3回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5回目までに、気分、感情、及び態度、連結した談話における意味に関し予習すること。（標準学習時間120分）
1 5回	英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法について理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	中等英語教育に必要な現代英語文法を実践的に身につけるために、英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法を学習する。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	気分、感情、及び態度、連結した談話における意味などを扱うことによって、学生が現代の英文法を理解し、コミュニケーション能力を修得することを目標とする。 1) 中等教育の英語教師に求められる英文法の基礎的な知識を具体的に説明できる。(A) 2) 学生がコミュニケーションに通じる英文法について具体的に説明できる。(A) 3) 毎回の授業で英文法の疑問点や問題点について、質問を考え解決する方法の提案ができる。(A)
キーワード	気分、感情、態度、連結した談話における意味、コミュニケーション能力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）2）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）3）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英文法の考察を通して英語という言語の特質がより深く理解できている。
教科書	A Communicative Grammar of English /Geoffrey Leech and Jan Svartvik / Longman / 978-0-582-50633-6
関連科目	英語学概論、英語史
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／4-7608-2009-4
連絡先	A 1 号館 1 0 F 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	毎回授業の初めに行うクイズについては、隣の人などと交換してチェックしあうことで、客観的に自分自身のワークポイントを見付けるできるようにする。グループワークとディスカッションの題材とする。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、その際自分のミスしやすい項目について、ミスを繰り返すことがないように指導する。提出物はコメントを付けて数回後の授業時に返す。（ただし、授業の進度など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毎回辞書を必ず持参すること。

科目名	英語史 (FES01800)
英文科目名	History of English
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	英語史の概要
2 回	古期英語以前について (英語の先史時代)
3 回	英語の先史時代と現代英語について
4 回	古期英語について
5 回	古期英語と現代英語について
6 回	中期英語について
7 回	中期英語と現代英語について
8 回	初期近代英語 (ルネッサンスの英語) について
9 回	初期近代英語 (ルネッサンスの英語) と現代英語について
10 回	後期近代英語 (古典主義から前期ローマン主義までの英語) について
11 回	後期近代英語 (古典主義から前期ローマン主義までの英語) と現代英語について
12 回	後期近代英語 (19 世紀の英語) と現代英語について
13 回	20 世紀の英語について
14 回	現代英語と世界の英語について
15 回	まとめ
16 回	1 回～15 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認、2 回目の授業までに古期英語以前について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目の授業までに英語の先史時代と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目の授業までに古期英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目の授業までに古期英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目の授業までに中期英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目の授業までに中期英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目の授業までに初期近代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目の授業までに初期近代英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 10 回目の授業までに後期近代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 11 回目の授業までに後期近代英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11 回	10 回目の授業内容の整理を行うこと。 12 回目の授業までに19 世紀の英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12 回	11 回目の授業内容の整理を行うこと。 13 回目の授業までに20 世紀の英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)

1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに現代英語と世界の英語について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに英語史全般について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	古期英語、中期英語、近代英語、現代英語について理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	英語の先史時代、古期英語、中期英語、初期近代英語、後期近代英語の実態を調査しながら、現代英語の故郷を探索する。それぞれの時代の英語と現代英語のつながりについて把握することを目的とする。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	1) 中等英語教育において必要とされている英語の歴史について具体的に説明できる。(A) 2) 生徒たちが抱く英語についての素朴な疑問(音声、スペリング、語形、語順、意味など)に対して英語の歴史という視点から自発的に解決できる。 (A) 3) 学生が英語史の重要性を理解し、現代英語に存在する基底構造と歴史性を把握した上で、まとめて発表することができる。 (A)
キーワード	古期英語、中期英語、初期近代英語、後期近代英語、現代英語
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）2）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）3）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語史を通して英語という言語の特質がより深く理解できている。
教科書	A History of the English Language / G. L. Brook / 南雲堂 / 978-4-523300205
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語探究
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館 10F 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説を加え、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進捗など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	辞書（電子辞書可）を持参すること。

科目名	応用言語学 (FES01900)
英文科目名	Applied Linguistics
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	言語のインプットについて学習する。
3回	言語のアウトプットについて学習する。
4回	インタラクションについて学習する。
5回	エラー修正について学習する。
6回	中間試験に向けて学習した内容について準備する（言語のインプットとアウトプットについてを中心に）。
7回	中間試験に向けて学習した内容について準備する（インタラクションとエラー修正についてを中心に）。
8回	中間試験を実施する。プレゼンテーションとリフレクションを行う。
9回	中間試験の内容に関して復習と解説を実施する。
10回	談話分析：社会的インタラクションにおける言語について説明する。
11回	談話分析：社会的インタラクションにおける言語について、ディスカッションを実施する。
12回	今日のトピック：バイリンガル教育、イマージョン教育、共通語（リンガ・フランカ）としての英語について解説する。
13回	今日のトピック：バイリンガル教育、イマージョン教育、共通語（リンガ・フランカ）としての英語についてディスカッションを実施する。
14回	最終評価試験に向けて学習内容を整理して説明する。
15回	最終評価試験に向けて学習内容を総括し全体討論を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	英語教員を目指す学生にとって将来必要不可欠となる言語教育および言語研究分野における背景知識を獲得させることを目指す。言語習得に関する理論を概観し、言語学習や言語教授に関してより幅広い気づきとより深い理解を発展させることができるようになる。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）のAと深く関連している。
達成目標	本授業の受講により以下のことができるようになる。 言語学習に関する基礎的かつ著名な原則について英語で説明することができる。 言語教育や言語研究に関する考え方について英語で説明することができる。 ディスカッションに参加し自分の意見を述べることができる。
キーワード	言語学習と言語教授、理論と実践の統合、アクティブラーニングと言語教育
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間試験30%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験50%（達成目標1,2を確認） アクティブラーニングの実践と討論への参加20%（達成目標3を確認） で評価し、総計60%以上で合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	英語コミュニケーションI, IIChr10英語科教育法I, II, III, IV

参考書	使用しない。適宜資料を配付する。
連絡先	ian.naka17(at)yahoo.com
授業の運営方針	授業中は私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントを付けて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語科内容論A（FES02000）
英文科目名	English as a Subject A
担当教員名	地村彰之（ぢむらあきゆき）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科内容論（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）について概説する。
2回	音韻論から見た英語テキスト分析（1）（英詩、英米小説）をする。
3回	音韻論から見た英語テキスト分析（2）（戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など）をする。
4回	形態論から見た英語テキスト分析（1）（英詩、英米小説）をする。
5回	形態論から見た英語テキスト分析（2）（戯曲、エッセイ）をする。
6回	形態論から見た英語テキスト分析（3）（ジャーナリズム英語など）をする。
7回	統語法から見た英語テキスト分析（1）（英詩、英米小説）をする。
8回	統語法から見た英語テキスト分析（2）（戯曲、エッセイ）をする。
9回	統語法から見た英語テキスト分析（3）（ジャーナリズム英語など）をする。
10回	意味論から見た英語テキスト分析（1）（英詩、英米小説）をする。
11回	意味論から見た英語テキスト分析（2）（戯曲、エッセイ）をする。
12回	意味論から見た英語テキスト分析（3）（ジャーナリズム英語など）をする。
13回	語用論から見た英語テキスト分析（1）（英詩、英米小説）をする。
14回	語用論から見た英語テキスト分析（2）（エッセイ、ジャーナリズム英語など）をする。
15回	まとめをする。
16回	最終試験をする。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。 12回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）

1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	英語テキスト分析について理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	各ジャンルの英語テキスト（英詩、英米小説、戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など）を、英語科内容論（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の視点から分析し、学習する上で日本人学習者にどのような困難点があるか、どのようにすれば理解力と運用力を向上させることができるかを講義する。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAとBに強く関連している。
達成目標	1) 英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態を理解した上で、中等英語教育における英語科内容論を英語学の立場から説明できる。(A, B) 2) 各ジャンルの英語（英詩、英米小説、戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など）を、英語科内容論（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の立場から分析できる。(A) 3) 学生が英語科内容論を理解し、中等教育の英語教師に求められる英語科内容論の基礎的な知識を修得し、自ら質問を作成し、解決する方法を提案できる。 (A, B)
キーワード	音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）2）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）3）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語科内容論を通して英語という言語の特質がより深く理解できている。
教科書	『共通の言語』（研究社小英文叢書）/武田勝彦解説注釈 / 研究社出版 / 978-4-327-01187-1
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史、英語探究
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A 1 号館 1 0 階 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説を加え、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進度など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	予習・復習をしっかりとすること。英語の辞書を必ず持参すること。一回目の授業までにテキストを購入しておくこと。

科目名	英米文学史 (FES02200)
英文科目名	History of English and American Literature
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	(英) 古英語の文学：『ベオウルフ』と現代児童文学について講義する。
2回	(英) 中英語の文学：『カンタベリー物語』と20世紀文学との関連について講義する。
3回	(英) イギリス市民革命と連動したロマン主義文学思潮の様相について講義する。
4回	(英) イギリスのロマン派文学の思潮が、アメリカ文学に与えた影響について講義する。
5回	(米) アメリカン・ルネッサンスの成立が、ヨーロッパ思想への対抗としての超越主義に立脚していることを論じる。
6回	(米) アメリカン・ルネッサンスについて、基本概念になる「罪」を作家たちがいかにとらえたかの諸相を、作品の解釈を通じて講義する。
7回	(英) 19世紀末の文学として有名な世紀末芸術について、その様相を美術作品と比較しつつ講義する。
8回	(米) リアリズムの成立について、19世紀末以降のアメリカ社会の激変を予兆する文学として考える立場から講義する。
9回	(英・米) イギリスとアメリカで起こったモダニズムについて、第一次世界大戦、深層心理学、文学の影響関係に基づいて講義する。
10回	(英・米) モダニズムという思潮が、音楽、美術、建築といった多様な分野へと波及した様相を紹介する。
11回	(米) 1920年代のロスト・ジェネレーションの作家について、何が「失われた」のかを講義する。
12回	(英・米) 1950年代における「予言」として性格を帯びて現代詩が現れた様相について紹介する。
13回	(英・米) 1960年代のマイノリティの文学の顕在化について、多元文化と英語圏文学とのかわりから講義する。
14回	英・米以外の英語圏文学について、旧植民地の文学が認知されるようになった事情を解説する。
15回	伝統的な文学史を読み直す可能性についてこれまでの講義を振り返り、英米文学の定義の再考のポイントについて解説する。
16回	論述形式で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	1年次「英米文学概論」で学修した内容を振り返っておくこと。(標準学習時間30分)
2回	古英語から中英語にかけてのイギリス文学およびイギリス史について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
3回	イギリスの市民革命の歴史を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	アメリカの独立に関する歴史を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
5回	アメリカのロマン主義との違いを理解するため、イギリスのロマン派の詩人の特徴を復習しておくこと。(標準学習時間30分)
6回	アメリカのロマン主義の中心人物、エマソンの思想について復習しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	ロマン主義が解体される様相を復習しておくこと。(標準学習時間30分)
8回	アメリカの急速な工業国家化へのプロセスを予習しておくこと。(標準学習時間30分)
9回	19世紀末から20世紀にかけて激変した思想の状況を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
10回	モダニズムが、美術や外国文学(たとえば日本文学)に及ぼした影響について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
11回	1920年代の空前の好景気の様相について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	第二次世界大戦後の冷戦について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
13回	1960年代の社会の混乱について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
14回	イギリスが植民地とした国について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
15回	これまでの講義内容を振り返り、英米文学の「範囲」について考え直すこと。(標準学習時間60分)

講義目的	英語圏文学作品を、その社会に対する批判意識を中軸に据えて講義する。講義の対象とする作家作品の時代は、19世紀と20世紀の英語圏作家作品が中心となる。文学史を通して、個人や社会、そして異文化を理解するに資する知識を受講者は学ぶ。作品にあらわれる作家個人の思想やその意図を超えた同時代性という要素をとくに強調して教える。「英米文学概論」で扱う内容をさらに深化させた講義内容である。教育の基本である語学力を向上させるために、「文学作品そのものを読む」態度を最も重視するが、作家作品についての専門的知識、文学と社会との関係という背景的知識に
------	--

	も常に言及する。（中等教育学科英語教育コースの学位授与方針項目Aに強く関与する。）
達成目標	・受講者が、文学と社会という連関を理解し、現代の諸問題への批判意識を身につけること。(A) ・英米文学の作家作品についての基本知識を修得すること。(A) ・文学作品の原文を、具体的に評釈できる基礎的な知識を得て、自ら解説できること。(A)
キーワード	英米文学 英米史 英米思想史
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業時に回収する小レポート（50%）と、論述式の最終評価試験（50%）を総合して評価する。全体を総合し、60%以上を合格とする。 ・文学史上の事実が、現実の問題と連関していることを理解していることを基準に評価する。 ・文学作品の原文を、なるべく自然な日本語で訳すことができることを評価する。 ・文学作品の原文の象徴的表現を解説できることを評価する。
教科書	指定せず、ハンドアウトを毎回、全員に配付する。受講者は、欠席した場合、次回講義開始時まで担当教員から指示を受けること。
関連科目	1年次で、「英米文学概論」（必修科目）を履修していることが望ましい。
参考書	川崎寿彦、『イギリス文学史』，成美堂，1988年． 渡辺利雄，『講義アメリカ文学史』全3巻＋補遺，研究社，2007年．
連絡先	A1号館10階 香ノ木研究室
授業の運営方針	・配付物は、当該の講義時のみに配り、欠席者分は配付しない。 ・私語には厳しく対応する。 ・必ず予習をしてくること。
アクティブ・ラーニング	講義の折々に、簡単な発問をするので、受講生はそれに対して返答をしてもらうことがある。
課題に対するフィードバック	最終試験終了後20分程度の時間をとり、模範解答に基づいて解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、申し出てください。それ以外の録音や撮影は認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英米文学講読 (FES02300)
英文科目名	Reading English and American Literature
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	F. Scott Fitzgerald, “Babylon Revisited” を読む：英語の特徴について説明する。
2 回	F. Scott Fitzgerald, “Babylon Revisited” を読む：象徴的場面について説明する。
3 回	F. Scott Fitzgerald, “Babylon Revisited” を読む：主題は何かについて説明する。
4 回	William Faulkner, “A Rose for Emily” を読む：英語の特徴について説明する。
5 回	William Faulkner, “A Rose for Emily” を読む：象徴的場面について説明する。
6 回	William Faulkner, “A Rose for Emily” を読む：主題は何かについて説明する。
7 回	Eudora Welty, “A Memory” を読む：英語の特徴について説明する。
8 回	Eudora Welty, “A Memory” を読む：象徴的場面について説明する。
9 回	Eudora Welty, “A Memory” を読む：主題は何かについて説明する。
1 0 回	ディスカッション：これまでの作品の解釈について、学生間でブレインストーミングを行う。
1 1 回	ディスカッション：質問用紙を利用し、結果に基づいて議論する。
1 2 回	小論文発表、合評：話し合いで修正した自分の考えをもとに書いたものを発表する。
1 3 回	小論文発表、合評：話し合いで修正した自分の考えをもとに書いたものを発表する。(第 1 2 回の継続)
1 4 回	小論文発表、合評：さらに議論を重ね、完成版を提出する
1 5 回	文学を読むことと論文を書くことの意義について復習する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。(扱った短篇小説の、語学面について筆記試験を行う。)

回数	準備学習
1 回	「英米文学概論」「英米文学史」で学修した内容を振り返っておくこと。配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
7 回	配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
1 0 回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
1 1 回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
1 2 回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
1 3 回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	これまでの講義内容を振り返り、文学の解釈方法と批評の基本について考え直すこと。(標準学習時間60分)

講義目的	20世紀前期のアメリカの短篇小説の講読を通して、英文そのものの読解力と作品解釈の方法論とを学ぶ。F. Scott Fitzgerald, William Faulkner, Eudora Welty の短篇を題材にその精緻な英語を読み解き、構文の把握、ストーリーの展開、象徴を介して言外の意味を把握する訓練を行い、語学力と解釈力の双方に配慮する。英語力向上のため、扱う短篇に関連するテーマに基づくパラグラフライティングを時間外学修として課する。(中等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	・ 20世紀前期の英米の代表的作家の短篇小説を読み、文学理論の基礎に立脚した解釈ができる。(A) ・ 文学作品を客観的に読むことができる。(A) ・ 文学と世紀転換期の思潮との連関の具体的様相を作品中に読み込むことができる。(A) ・ 英語の読解力全般の向上と、自分の作品解釈を英語で発表する基本的表現力とを身につける。(A)

	)
キーワード	英米文学 英米史 英米思想史
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業時の応答と、回収する小レポート・小論文（50%）と、論述式の最終評価試験（50%）を総合して評価する。全体を総合し、60%以上を合格とする。 評価基準は、 ・日本語訳の完成度、象徴的表現の解釈力の論述内容 ・解釈の客観性 ・文学と社会思想の連関 ・論述する文章の表現力 に基づく。
教科書	指定せず、ハンドアウトを毎回、全員に配付する。受講者は、欠席した場合、次回講義開始時まで に担当教員から指示を受けること。
関連科目	1年次で「英米文学概論」（必修科目）を履修していること、2年次で「英米文学史」（選択科目） を履修していることが望ましい。
参考書	川崎寿彦，『イギリス文学史』，成美堂，1988年． 渡辺利雄，『講義アメリカ文学史』全3巻＋ 補遺，研究社，2007年．
連絡先	A 1 号館10階 香ノ木研究室
授業の運営方針	・予習が完了していることを前提として、授業を進める。 ・訳や表現の象徴性について質問するなど、なるべく多くの発言を求める。
アクティブ・ラーニング	簡単な質問に対する、話し合いや発表を、随時求めます（グループディスカッション、グループワ ーク、コメントシートによる）。
課題に対するフィードバック	最終試験終了後の20分程度を使い、模範解答に基づき解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。 該当する学生は、随時申し出ること。それ以外の録音や録画や撮影は認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語科内容論B（FES02400）
英文科目名	English as a Subject B
担当教員名	香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科教育と文学について、具体的事例を示しながら講義する。
2回	文学批評の成立と方法論について講義する。19世紀末になって文学を批評するという概念が誕生した背景と、批評の方法論の変遷の概要について紹介する。
3回	19世紀末から20世紀初頭の思想界の激変について講義する。とりわけ、フロイトと第一次世界大戦とが及ぼした影響が、文学批評にいかに関係したかについて紹介する。
4回	「ニュークリティシズム」の方法論と成立背景について講義する。作品を作者から切り離す批評が生まれた背景について論じた後、具体的に作品を解釈する方法を紹介する。
5回	中等英語科教材に対する「ニュークリティシズム」的読解の可能性について、受講する学生間で議論し、結果について簡単な発表を行う。
6回	「精神分析批評」の方法論と成立背景について、具体的な作品をもとに解釈の実例を示しながら講義する。
7回	中等英語科教材に対する「精神分析批評」的読解の可能性について、具体的解釈の方法を紹介する。
8回	「ニュークリティシズム」と「精神分析批評」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表をする。
9回	「フェミニズム批評」の方法論と成立背景について講義する。
10回	中等英語科教材に対する「フェミニズム批評」的読解の可能性について、具体的作品に基づきながら講義する。
11回	「ポストコロニアリズム批評」の方法論と成立背景について講義する。
12回	「ポストコロニアリズム批評」と「エコクリティシズム」の連続性について、具体的作品の解釈を交えつつ講義する。
13回	「フェミニズム批評」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表をする。
14回	「ポストコロニアリズム批評」と「エコクリティシズム」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表を行う。
15回	英語科教材の読解における方法論と社会的関心の重要性について、これまでの内容を振り返りながら講義する。
16回	定期試験（論述形式）を行う。

回数	準備学習
1回	中高等学校での自身の受けた英語の授業で物語が使われていたかどうか、振り返っておくこと。（標準学習時間15分）
2回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	事前配付資料に基づき、作品の解釈について自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
6回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	事前配付資料を熟読しておくこと。作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間90分）
9回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
10回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
11回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
12回	事前配付資料を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
13回	作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間90分）
14回	作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間90分）
15回	これまでの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	ニュークリティシズム、精神分析批評、フェミニズム、ポストコロニアリズム、エコクリティシズム等の文学批評の基本概念を学ぶ。物語や小説などを精読するだけでなく、批評によって作品中の主題が明らかになることを、いくつかの文学作品を例に探る。鑑賞の手段としての批評の方法論を意識することの重要性について学生間で意見交換をすすめ、中等英語科教員としての幅を広げるた
------	--

	めの土台とする。（中等教育学科英語教育コース卒業認定・学位授与方針 A, D に強く関連する。）
達成目標	・中等教育における英語科の授業で論説文を扱う際に、鑑賞の手段としての批評の方法論を意識することの重要性を理解する。(A, D) ・英米文学の批評に関する代表的な方法論の主題の変遷が、いかに社会思潮に密着したものであるのかを理解する。(A, D) ・論説文の英語を正確に読み解くことができる。(A)
キーワード	文学批評 文学と社会 文学と歴史
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	論述試験(60%)、授業時の発表内容(40 %) により評価する。 全体を総合し、60%以上を合格とする。 評価の観点：個々の批評の方法論への理解、ならびに独創性と論の展開力、英語の読解（論述試験）。発表内容が理論的解釈の基礎を踏まえていること。
教科書	指定せず、ハンドアウトを配付する。当該授業時間以降の配付はしない。
関連科目	「英米文学概論」「英米文学史」「英米文学講読」を履修していることが望ましい。
参考書	テリー・イーグルトン著 大橋洋一訳、『文学とは何か 現代批評理論への招待』新版，岩波書店，1997年。（岩波文庫版あり）
連絡先	A1号館10階 香ノ木研究室
授業の運営方針	配付資料の予習を完了していることを前提として、授業を行う。
アクティブ・ラーニング	適宜、解釈についての短いディスカッションを求める。
課題に対するフィードバック	最終試験終了後の20分程度で、模範解答に基づく解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、随時、申し出ること。それ以外の講義中の録画・録音や撮影は認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	アクティブラーニング（グループディスカッション、レスポンスシート）を取り入れる。最終試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による論述形式とする。具体的な問題形式や試験時の参照物件等は、初回の講義時に説明する。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。提出課題は4回分をまとめて返却する。

科目名	英語コミュニケーションⅠ（FES02500）
英文科目名	English Communication I
担当教員名	バロズクリスチャン＊（ばろうずくりすちゃん＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを実施する。
2回	コミュニケーションとは何か？について説明する。
3回	第一言語と第二言語について説明する。
4回	第二言語習得における基本的概念について説明する。
5回	バイリンガル話者と第二言語話者の違いについて説明する。
6回	第二言語習得理論(SLA)の基礎について説明する。
7回	第二言語習得理論(SLA)の応用について説明する。
8回	インプットとアウトプットを用いた教育実践例について説明する。
9回	コミュニケーション・コンピテンスの基礎について説明する。
10回	コミュニケーション・コンピテンスの応用について説明する。
11回	第二言語習得における学習者要因の基礎について説明する。
12回	第二言語習得における学習者要因の基礎についてディスカッションを実施する。
13回	第二言語習得における学習者要因の応用について説明する。
14回	第二言語習得における学習者要因の応用についてディスカッションを実施する。
15回	コミュニケーション能力を向上させる英語教授法について説明する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の目的や内容、評価方法、授業の進め方について確認しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。（標準学習時間120分）
3回	ESL(English as a Second Language)とEFL(English as a Foreign Language)の違いに関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4回	言語距離と言語転移、中間言語、化石化に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。（標準学習時間120分）
6回	インプット仮説に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7回	アウトプット仮説に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。（標準学習時間120分）
9回	文法的能力、談話能力に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
10回	社会言語能力、方略的言語能力に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
11回	性格、年齢（臨界期仮説）に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
12回	英語コミュニケーションへの意欲、情意フィルター仮説に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
13回	英語学習の動機づけ（道具的動機づけと統合的動機づけ）に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
14回	学習スタイルと学習方略に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
15回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの授業内容の復習をすること。（標準学習時間60分）

講義目的	本授業では、生徒の英語コミュニケーション能力を高める英語科授業とは何かについて考えることができるようになる前提として必要な、英語コミュニケーションと第二言語習得に関する基礎的知識を学習する。（中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	（1）さまざまな言語理論について説明することができる。（A） （2）現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題を説明することができる。（A、D） （3）日常的な言葉を用いて効果的に英語で書いたり、スピーチしたりできる。（A）
キーワード	英語コミュニケーション、第二言語習得
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート【2回】50%（達成目標（1）（2）を確認）、最終評価試験50%（達成目標（1）（3）を確認）で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし（プリント、ワークシート、YouTubeビデオ、パワーポイントファイル、雑誌、記事などを使用する）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ、英語科教育法Ⅰ～Ⅵ
参考書	Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy (3rd Edition) by H

	. Douglas Brown
連絡先	Email: westyamal(at)yahoo.co.uk
授業の運営方針	授業中行うディスカッションやペアワークには積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	グループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
課題に対するフィードバック	レポートはコメントと共に返却する。 最終評価試験は、実施後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語コミュニケーションⅡ (FES02600)
英文科目名	English Communication II
担当教員名	バロウズクリスチャン* (ばろうずくりすちゃん*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを実施する。
2回	英語コミュニケーション能力を育てる英語教授法について説明する。
3回	文法訳読法について説明する。
4回	概念・機能法について説明する。
5回	直接アプローチについて説明する。
6回	体験学習、分析内容について発表する。
7回	ナチュラル・アプローチについて説明する。
8回	読解アプローチについて説明する。
9回	オーディオリングガル・アプローチについて説明する。
10回	体験学習、発表を実施する。
11回	コミュニカティブ・アプローチについて説明する。
12回	トータル・フィジカル・レスポンスについて説明する。
13回	コミュニティー言語学習法について説明する。
14回	沈黙式教授法について説明する。
15回	体験学習、コミュニカティブ・アプローチ、トータル・フィジカル・レスポンス、コミュニティー言語学習法、沈黙式教授法について発表を実施する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の目的や内容、評価方法、授業の進め方について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	文法訳読法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	概念・機能法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	直接アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	文法訳読法、概念・機能法、直接アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	ナチュラル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	読解アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	オーディオリングガル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	ナチュラル・アプローチ、読解アプローチ、オーディオリングガル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	コミュニカティブ・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	トータル・フィジカル・レスポンスに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	コミュニティー言語学習法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
14回	沈黙式教授法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	コミュニカティブ・アプローチ、トータル・フィジカル・レスポンス、コミュニティー言語学習法、沈黙式教授法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本授業では、生徒の英語コミュニケーション能力を高める英語科授業とは何かについて考えることができるようになる前提として必要な、英語コミュニケーションと第二言語習得に関する基礎的知識を学習する。(中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。)
達成目標	(1) さまざまな言語理論について説明することができる。(A) (2) 現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題を説明することができる。(A, D) (3) 日常的な言葉を用いて効果的に英語で書いたり、スピーチしたりできる。(A)
キーワード	英語コミュニケーション、第二言語習得
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート【2回】50%(達成目標(1)(2)を確認)、最終評価試験50%(達成目標(1)(3)を確認)で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし(プリント、ワークシート、YouTubeビデオ、パワーポイントファイル、雑誌、記事などを使用する)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ、英語科教育法Ⅰ～Ⅵ
参考書	Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy (3rd Edition) by H

	. Douglas Brown
連絡先	Email: westyamal(at)yahoo.co.uk
授業の運営方針	授業中行うディスカッションやペアワークには積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	グループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
課題に対するフィードバック	レポートはコメントと共に返却する。 最終評価試験は、実施後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際理解教育概論（FES02700）
英文科目名	Introduction to Understanding International Education
担当教員名	奥西有理（おくにしゆり）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2 回	文化とは？民族・人種とは？ホスト言語・移民言語、第一言語・第二言語・外国語、バイリンガル・モノリンガル・セミリンガルについて説明する。
3 回	アメリカの社会：人種のるつぼと民族のサラダボール、自由・主張・独立・交渉・競争について説明する。
4 回	アメリカの教育：機会の平等と結果の平等、アフーマティブ・アクション、クリティカル・シンキングについて説明する。
5 回	アメリカの国際理解教育：公民権運動、アメリカ平和部隊、異文化コミュニケーション論の発展、学校教育における多文化教育について説明する。
6 回	オーストラリアの社会：イギリス系移民と先住民、アジア系移民、白豪主義と多文化主義について説明する。小テストを実施する。
7 回	オーストラリアの教育：言語教育政策の推移(NPL / ALLP / NALSAS)、先住民の母語教育、エスニック・スクール、英語リテラシー教育、アボリジニ語と英語のバイリンガル教育について説明する。
8 回	オーストラリアの国際理解教育：言語教育を通じた他文化理解、LOTE教育について説明する。
9 回	マレーシアの社会：民族・文化共生の課題、ブミプトラ政策の経緯と効果、民族融和政策と国民統合、多元的アイデンティティの獲得について説明する。
10 回	マレーシアの教育：ポスト・ブミプトラ政策時代のグローバル人材育成と英語の位置づけ、学校教育(授業)における使用言語について説明する。
11 回	マレーシアの国際理解教育：早期英語教育と国語教育の重視、多様な言語力と多文化理解能力の育成、グローバル化社会の人材育成と英語教育について説明する。小テストを実施する。
12 回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育についてまとめ、意見を交換する。
13 回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育の日本との異同について考え、意見を交換する。
14 回	日本社会における多民族・多言語・多文化共生の課題：英語学習と習得が促進される社会的環境について考え、意見を交換する。
15 回	日本における国際理解教育の課題と展望について考え、意見を交換する。
16 回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、言語と文化に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
2 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第3回授業までに、アメリカの社会に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
3 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第4回授業までに、アメリカの教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
4 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第5回授業までに、アメリカの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
5 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第6回授業までに、オーストラリアの社会に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
6 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第7回授業までに、オーストラリアの教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
7 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第8回授業までに、オーストラリアの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
8 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第9回授業までに、マレーシアの社会に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
9 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第10回授業までに、マレーシアの教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
10 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第11回授業までに、マレーシアの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
11 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第12回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策に関して自分の意見をまとめておくこと。（標準学習時間120分）

1 2 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第13回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策と教育に関して自分の意見をまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第14回授業までに、日本における多民族・多文化共生の問題と英語教育の課題に関して自分の意見を英文でA4用紙半頁以内にまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第15回授業までに、日本における国際理解教育に関して自分の意見を英文でA4用紙半頁以内にまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	これまでの授業内容の重要項目に関して自分の意見を英文でA4用紙1頁以内にまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	英語圏であるアメリカおよびオーストラリア、および英語を教育上の主要言語として用いているマレーシアを取り上げ、これらの国の文化・社会について、学校教育および国際理解教育という観点から学ぶ。これらの国の社会における民族・文化・言語にまつわる問題に対し、どのような取り組みが行われてきたのかについて理解を深める。中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	(1)アメリカ、オーストラリア、マレーシアの社会を特徴づける基本概念について説明することができる。(A) (2)これらの国の学校教育の特徴や国際理解教育の特徴について説明することができる。(A) (3)日本社会について比較の視点を持って振り返り、民族・言語・文化の問題や学校教育の問題について説明することができる。(A)
キーワード	言語、文化、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、国際理解教育
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト20%(到達目標(1)を確認)、レポート課題40%(到達目標(1)(2)を確認)、期末テスト40%(到達目標(2)(3)を確認)で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。関連論文や学術記事等、ハンドアウト等の資料を適宜配布する。
関連科目	異文化理解、英語科内容論C
参考書	オーストラリアの言語教育政策ー多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存 / 青木麻衣子著 / 東信堂 / 978-4887138803、アメリカ多文化教育の再構築ー文化多元主義から多文化主義へ / 松尾知明著 / 明石書店 / 978-4750325545、英語化するアジアートランスナショナルな高等教育モデルとその波及 / 吉野耕作著 / 名古屋大 / 学出版会 / 978-4815807795、沈黙の言葉ー文化・行動・思考 / エドワード T.ホール著 / 南雲堂 / 978-4523260202
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	・授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加すること。 ・課題はmomocampusで提出する。使い方に精通しておくこと。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	・予習復習課題は採点し、コメントとともに返却する。 ・小テストはその場で採点し、解説する。 ・最終評価試験については、個別の答案に対してコメントを付した評価を研究室にて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な国際理解教育の講義を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	異文化理解 (FES02800)
英文科目名	Cross-cultural Understanding
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	文化とは何か？、異文化とは何か？、アメリカ文化理解の多文化理解への応用可能性について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
3回	世界の文化分布図、シミュレーション学習について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
4回	英語圏文化と英語文化：言語と文化のつながりと対応関係、英語コミュニケーションにおける主張性と論理性について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
5回	自己開示と相互発話について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
6回	対立とコンフリクト・マネージメントについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
7回	高コンテクストと低コンテクスト、非言語コミュニケーションについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
8回	クラックホーンとストロッドベックの価値志向について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。小テストを実施する。
9回	ホフステードの文化の次元 (1) 個人主義と集団主義について日米比較の観点から説明する。
10回	ホフステードの文化の次元 (2) 権力格差、男性らしさと女性らしさについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
11回	ホフステードの文化の次元 (3) 不確実性の回避、長期志向と短期志向について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
12回	異文化理解の手法：DIEによる事例分析 (シアトルのオフィスでの葛藤) について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
13回	アメリカ文化理解に基づいた行動実践について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。主張する・交渉する・褒める・励ます・クレームを言う・援助を頼む・話し合う、をテーマとしたロールプレイを実施する。
14回	日本の英語教育における異文化理解のアプローチ方法、実践方法、展望について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
15回	これまでの授業内容のおさらいをする。小テストを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	文化について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	シミュレーション学習について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	英語圏の異文化について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	自己開示と相互発話について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	コンフリクト・マネージメントについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	コミュニケーション・スタイルについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	クラックホーンとストロッドベックの価値志向について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	ホフステードの文化の次元：個人主義と集団主義について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	ホフステードの文化の次元：権力格差、男性らしさと女性らしさについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	ホフステードの文化の次元：不確実性の回避、長期志向と短期志向について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	DIEメソッドについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	アメリカ文化的行動に関して教科書の該当箇所を読んでおくこと。グループの学習サイクルについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	日本の英語教育と異文化理解の関係について自分の意見を箇条書きでまとめておくこと。(標準学習時間120分)
15回	これまでの授業で使用したハンドアウトを読んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、日本文化との対照性が認められるアメリカ文化を中心に提起、その考え方・価値観・発想・行動様式について体験的に学習することを通して、異文化理解の概念とメソドロジーについて理解することを目的とする。
達成目標	(1) 言語と文化のつながりについて説明することができる。(A) (2) 異文化接触と葛藤にまつわる心理学的現象の事例を挙げることができる。(A) (3) アメリカ文化との対比で日本文化を説明することができる。(A)
キーワード	文化、異文化、日米文化、英語コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト20%（到達目標(1)を確認）、レポート課題80%（到達目標(2)(3)を確認）で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	異文化トレーニング 一歩ダレス社会を生きる / 八代京子他著 / 三修社 / 978-4384012439
関連科目	国際理解教育概論、英語科内容論C
参考書	異文化理解入門 / 原沢伊都夫著 / 研究社 / 978-4327377342、文化と心理学 / D. マツモト著 / 北大路書房 / 978-4762822209
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	・ 授業には、必ずテキストを前もって読んでから参加すること。分からない語彙や表現については、辞書で調べておくこと。 ・ 授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加すること。 ・ 課題はmomocampusで提出する。使い方に精通しておくこと。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、テキストの内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	・ 予習復習課題は採点し、コメントとともに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な英文ライティング、英語プレゼンテーション、および異文化間コミュニケーションの指導を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	英語科内容論C（FES02900）
英文科目名	English as a Subject C
担当教員名	奥西有理（おくにしゆり）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価等について説明する。
2回	世界共通語としての英語：グローバル化と情報化時代、グローバル・リテラシー獲得のための英語教育、グローバル人材育成のために必要な英語教育の視点（IB, Bloom他）について説明する。
3回	世界共通語としての英語：グローバル化時代の効果的な英語教育について文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
4回	世界共通語としての英語：グローバル化時代の効果的な英語教育について個人発表とピア・フィードバックを実施する。
5回	世界共通語としての英語：グローバル化時代の効果的な英語教育についてフィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
6回	異文化理解と英語コミュニケーション：文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解（CLIL他）について説明する。
7回	異文化理解と英語コミュニケーション：文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解（CLIL他）について文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
8回	異文化理解と英語コミュニケーション：文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解（CLIL他）について個人発表とピア・フィードバックを実施する。
9回	異文化理解と英語コミュニケーション：文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解（CLIL他）についてフィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
10回	異文化理解と英語教育：日本文化特定のコミュニケーションの理解と英語コミュニケーションに与える影響について説明する。異文化理解を促進する英語教育の実施方法（個々の文化理解を促進するためのストーリーリーディングを通じた視点獲得方法等）について議論する。世界のESL/EFL教育について議論する。
11回	異文化理解と英語教育：関連した文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
12回	異文化理解と英語教育：関連した個人発表とピア・フィードバックを実施する。
13回	異文化理解と英語教育：フィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
14回	異文化理解実践の場としてのALTとの異文化間協働における課題について議論する。関連した英語論文について解説する。
15回	異文化理解のためのALTとの英語コミュニケーションの実践について意見交換を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
3回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
4回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
5回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
6回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
7回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
8回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
9回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
10回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
11回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
12回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
13回	発表資料を準備すること。（標準学習時間90分）
14回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
15回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	世界の多様な文化を持つ人々とコミュニケーションを図り、お互いの異文化理解を実現させて行ける人材を育成することに、英語教育が如何に貢献できるのかというテーマについて考えることを通して、グローバルな視点から英語教育を捉えることができるようになることを目的とする。
------	---

達成目標	(1)効果的な英語教育に関して英語で書かれた文献を調査し、内容について発表することができる。 (A) (2)異文化理解を目的とした英語教育の実施について考えを述べることができる。(B) (3)グローバル化と求められる人材の育成について、英語教育との関係で説明することができる。 (A,B)
キーワード	世界共通語としての英語、異文化理解と英語授業、ALTとの異文化間協働
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・授業における発表 50%（到達目標(1)(2)を確認） ・レポート課題 50%（到達目標(2)(3)を確認） で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	英語科内容論A、英語科内容論B、英語科教材分析・開発演習C
参考書	・英語教育と文化：異文化間コミュニケーションの要請 / 塩澤正他 / 大修館書店 / 978-4469142334 ・ケースで学ぶ異文化コミュニケーション / 久米昭元他 / 有斐閣 / 978-4641281080 ・Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom / Akira Tajino et al. / Routledge / 978-1138857650
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションの評価については、教員および学生からのコメントをフィードバックする。 ・レポートについては、コメントを付した評価を研究室にて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、英語教育についてグローバル教育の観点から実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	教職論 (FES03000)
英文科目名	Introduction to the Teaching Profession
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教職論の講義内容の概要、授業の目的及び履修に向けての心構えを説明するとともに、授業で使用するテキストの使い方、ノートの取り方などについても説明する。
2 回	公教育制度とその法体系について説明する。
3 回	教育の歴史と学校教育制度の成立について説明する。
4 回	学校教育の内容と学習指導要領について、その概要とこれからの課題について説明する。
5 回	学級経営と学習指導の原理及び方法について説明する。
6 回	生徒指導と進路指導の原理と実際について説明する。
7 回	教科外の教育である特別活動、特別の教科である道徳について説明する。
8 回	学校と地域の連携における教師の役割について説明する。
9 回	全体の奉仕者・教育公務員としての教員について説明する。
1 0 回	学校組織の一員としての教員と学校内の校務分掌について説明する。
1 1 回	教員の身分と服務及び職務について説明する。
1 2 回	生涯学習の観点から見たキャリアとしての教職について説明する。
1 3 回	専門職としての教員について説明する。
1 4 回	教育改革の動向とこれからの学校教育の課題について説明する。
1 5 回	教職の在り方について省察を深めることの意義について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、教職論の講義の概要や目的について確認しておくとともに、入手したテキストの「はじめに」と「目次」の部分を参照しておくこと。 (準備学習80分)
2 回	第1回の内容を振り返り、「教職論」の講義内容を確認するとともに、公教育という言葉の意義について、テキストなどを参考にして、その概要についてあらかじめ予備知識を得ておくこと。(準備学習90分)
3 回	公教育がどのような法体系によって制度化されているかの理解を深めておくこと。教育の歴史や学校教育が制度として成立する経緯についての関心を深めておくこと。 (準備学習100分)
4 回	教育の歴史の概要と学校教育制度が成立する経緯について復習しておくこと。学校教育ではどのような教育内容が指導されるのか、またそれらはどのような法律によって定められているのかについて関心を深めておくこと。(準備学習80分)
5 回	学校教育の内容と学習指導要領について、要点を整理しておくこと。各自の学校生活を振り返り、その中で学級がどのような場であったのかを想起し、どのような学級が生徒の学ぶ意欲を促進する集団であるのか、またどのような学習の仕方が生徒の成長をうながすことになるのかを考えておくこと。(準備学習80分)
6 回	学級経営の基本的な考え方や生徒の意欲を引き出す学習指導の方法について復習しておくこと。生徒指導や進路指導について各自の経験を思い起こし、どのような考え方で指導するのが生徒にとって好ましいのかを考えておくこと。(準備学習80分)
7 回	生徒指導や進路指導の基本的な考え方、方法について復習しておくこと。教科外の教育である特別活動や特別な教科である道徳について、その内容や問題について関心を持つておくこと。(準備学習100分)
8 回	特別活動や特別な教科である道徳の内容について復習しておくこと。学校と教師が生徒の健全な成長のためにどのように連携すればよいのか、また教師は其中でどのような役割を担えばよいのかを復習しておくこと。(準備学習80分)
9 回	学校と地域の連携における教師の役割について、自らの体験などを思い起こしながら、復習しておくこと。全体の奉仕者といわれる教員の公的な性格とその身分の位置づけについての関心を深めておくこと。(準備学習80分)
1 0 回	全体の奉仕者といわれる教員の公的な性格とその身分の位置づけについて復習しておくこと。さらに、教員は組織体としての学校の一員であり、それぞれが適切に校務を分掌することで学校が教育機関として機能することについて関心を持つておくこと。 (準備学習100分)

1 1 回	学校組織の一員としての教員と校務分掌の考え方について復習しておくこと。教員の身分と服務及び職務の内容とその在り方についての関心を深めておくこと。 (準備学習100分)
1 2 回	教員の身分と服務及び職務について復習しておくとともに、生涯学習の観点から見たキャリアとしての教職の在り方について関心を持っておくこと。(準備学習80分)
1 3 回	生涯学習の観点から見てキャリアとしての教職の在り方について復習しておくとともに、教員がいかなる意味で専門職といわれるのかについて関心を持っておくこと。 (準備学習80分)
1 4 回	教員が専門職といわれる意味について復習しておくとともに、教育がこれからどのような方向へ改革されていき、そのなかで学校教育はどのような課題を担うことになるのかについて関心をもっておくこと。(準備学習80分)
1 5 回	これからの学校教育の課題について復習しておくこと。自らの目指す教師像について考えておくとともに、最終評価試験にむけてこれまでの授業の内容を総合的に復習しておくこと。(準備学習100分)
1 6 回	授業内容の全体を復習するとともに、生徒の成長における学校と教師の役割について自らの考えをまとめておくこと。(準備学習120分)

講義目的	本講義は「学位の授与の方針」のEにもっとも強く関連する。中等教育の意義と役割を理解し、教育への強い使命感をもって教職に携わることが出来るようになることを目指すものである。具体的には、学校における教師という存在と教職の本質を中心に公教育における教職の意義や教員の役割、学校現場での教師の仕事などについて、歴史的・制度的・実践的な側面から理解することを通して、専門職としての教員に求められる資質・能力の基礎を培い、自らの教師像を明確にできるようになることを目指す。
達成目標	「学位授与の方針」のEに関連する次の三つを目標とする。 1. 学校教育における教師の役割とその職務内容について具体的に説明できる。 2. 学校教育における教育活動の内容と課題についての理解を深め、現実の教育課題と関係づけて説明できる。 3. 教師としての在り方を自己の将来と関連づけて探究し、めざす教師像を説明できる。
キーワード	教職・公教育・学校教育・専門職・地域との連携・教師像
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終試験に拠る評価（80点）と毎回の授業後に提出するコメントの内容による評価（20点）の合計100点。これによって達成目標の1・2・3を評価する。合計で60点以上を合格とする。
教科書	安彦忠彦ほか編『よくわかる教育学原論』（ミネルヴァ書房） このテキストは秋学期の「『教育学原論』（必修）」にも使用する。 受講生は必ず入手し、第1回目の講義から持参すること。
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
参考書	適宜、参考資料を配布する。
連絡先	A1号館901研究室（山中）
授業の運営方針	毎回の授業には必ずノート・テキストを持参し、板書内容を記録すること。 テキストについては授業の中で適宜参考にしていくので各自準備しておくこと。 毎回の授業終了前には5～10分程度の時間を取ってコメントを書く。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション 授業の中では、随時教員から質問を提示し、それに対して個々の学生が考えをまとめ、それらを複数の人数からなるグループの中でディスカッションし、全体に発表する機会を設けていく。
課題に対するフィードバック	授業終了後に提出するコメントのなかから、全員で共有することによって全体の理解が深まると思われるコメントを抽出・プリントし、次回の授業の冒頭で配布する。 最終評価試験の模範解答は試験終了後、1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については、随時その実情に応じた対応を考え、実施する。
実務経験のある教員	小学校教員及び小・中学校の校長経験を講義の中で生かしていく。
その他（注意・備考）	この科目は、教員免許状取得のための必修科目です。

科目名	教育学原論（FES03100）
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育学の研究対象と領域について説明する。
2 回	教育の意義と本質について説明する。
3 回	教育の理念について説明する
4 回	教育目的の類型と歴史的変遷について説明する。
5 回	教育学における人間論について説明する。
6 回	子どもの弱さから見た教育の必要性和可能性について説明する。
7 回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について説明する。
8 回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について説明する。
9 回	デューイの教育論と学校論について説明する。
1 0 回	学校の誕生と入社式儀礼の教育的意義について説明する。
1 1 回	義務教育思想の成立と発展について説明する。
1 2 回	教職と教員養成の歴史について説明する。
1 3 回	教育制度と学校教育について説明する。
1 4 回	日本の学校教育制度と教育課程について説明する。
1 5 回	人間形成における教育の意義について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスによってこの授業の概要を確認するとともに、テキストの全体構成を見ておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	教育学の研究対象や領域について復習しておくこと。教育とは何かについて考えることに興味を持っておくこと。（標準学習時間 8 0 分）
3 回	教育の意義とその本質について復習しておくこと。教育はどうあればよいのかなどの問題を中心に、教育の理念について考えることに興味を持っておくこと。（標準学習時間 8 0 分）
4 回	教育の理念に関してどのように考えればよいのか復習しておくこと。教育の目的についての考え方や、それが歴史的にどのような変遷をたどってきたかについて興味を持っておくこと、（標準学習時間 1 0 0 分）
5 回	教育目的が類型化されることや、それが歴史的に変遷をたどってきていることについて復習しておくこと。教育学では教育の対象で会える人間をどのような存在として考えるのかについて興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
6 回	教育学では人間をどのような存在として考えるのかという、人間論について復習しておくこと。さらに、人間にとって教育は必要なのか、また可能なのかなどの問題について興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
7 回	弱い存在としての子どもという視点からの教育のあり方を復習しておくこと。ルソーの子ども観と教育思想の特質について興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
8 回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について復習しておくとともに、ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
9 回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学についてその特質を復習しておくこと。これとの関連でデューイの教育論と学校論について興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
1 0 回	デューイの教育論と学校論について、ペスタロッチーとの違いを調べておくこと。人類社会はなぜ学校をつくったのかについて興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
1 1 回	入社式の儀礼が、学校の起源であることの意義を復習しておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
1 2 回	義務教育という考え方の歴史やその特質について復習しておくこと。教職と教員養成はそれぞれの国の仕組みの中で歴史的な背景を以て制度化されてきたことに興味を持っておくこと。（標準学習時間 1 0 0 分）
1 3 回	教職や教員養成の歴史的変遷について復習しておくこと。教育の制度やその中での学校教育の仕組

	みについて関心を持っておくこと。（標準学習時間100分）
14回	教育制度の多様性や国に拠る学校教育の特質などについて復習しておくこと。前回の授業と関連付けて日本の学校教育制度と教育課程の特質などについて関心を持っておくこと。（標準学習時間100分）
15回	日本の学校教育制度と教育課程について復習しておくこと。人間形成における教育の意義について考えておくこと。最終評価試験に向けてこれまでの授業の内容を復習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	最終評価試験に対する取り組みを振り返っておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	この講義は教育学への入門講義であり、教職を目指す学びの出発点に位置づくものである。教育という営みを対象に、思想的・歴史的・制度的な観点から考察する。成長発達の上にある子どもに対して、教育という名のもとに何がなされるべきか。このような問題関心のもとに人間形成の基本原則を学ぶ。
達成目標	「学位需要の方針」のBとDに関連する以下の三つを目標とする。 1 ヒトが人間にまで成長発達するための教育の本質を理解する。 2 人間形成の基本的な原理と教育論の歴史的展開を理解する。 3 児童・生徒の指導に必要な基礎的知見と教育の原理を修得する。
キーワード	教育学・教育の理念・人間形成
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験による評価（80点）および毎回の授業後に提出するコメントに拠る評価（20点）の合計100点。降格基準は60点。これによって達成目標を評価する。
教科書	安彦忠彦編『よくわかる教育学原論』（ミネルヴァ書房） このテキストは、教職論の講義でも使用する。
関連科目	教職論・教育史・学校経営・教育行政論
参考書	適宜参考資料をプリントして配布する。
連絡先	A1号館901研究室
授業の運営方針	毎回の授業には必ずノート・テキストを持参し、板書内容を記録すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション 授業では随時質問に対し、グループで考えをまとめてそれに基づいてディスカッションし、また、全体に発表する活動を採り入れる。
課題に対するフィードバック	授業終了後に提出するコメントの中から、全員で共有することによって全体の理解が深まると思われるコメントを抽出・プリントし、次回の授業で配布する。 最終評価試験後の模範解答は試験終了後1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については随時その実情に応じて対応を考え実施する。
実務経験のある教員	小学校教員及び小・中学校の校長経験を講義の中で生かしていく。
その他（注意・備考）	この科目は教員免許状崇徳のための必修科目である。

科目名	教育史【月1木1】（FES03200）
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。 教育の始まり。教育の原初形態について複数の視点から考察を試みる。
2回	古代・中世の教育。古代ギリシャ・ローマ及び中世ヨーロッパにおける教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。コメニウスの統一学校構想と教授法を中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子ども観(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代思想と子ども観(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
6回	近代思想と子ども観(3)。19世紀の西洋における教育について、フレーベルの幼児教育思想及びヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
7回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、資料作成・発表の協同学習を通して考察する。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育運動とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。当該教育の特質について、大学寮、綜芸種智院、武家文庫等を取り上げながら理解を図る。
10回	近世日本の教育。当該教育の特質について、寺子屋（手習所）、私塾、藩学、郷学を取り上げながら理解を図る。
11回	近代日本の教育(1)。当該教育の特質について、西洋型教育制度・教育内容の受容と整備の過程を中心に理解を図る。
12回	近代日本の教育(2)。当該教育の特質について、留学生と御雇教師を取り上げながら、西洋化と自立化の観点から理解を図る。
13回	近代日本の教育(3)。当該教育の特質について、大正期自由教育運動と昭和戦前期の主な教育法制を取り上げながら、理解を図る。
14回	近現代日本の教育。当該教育の特質について、戦後教育改革の理念と制度化過程を取り上げながら、理解を図る。
15回	現代日本における教育改革の変遷。現代における主な教育課題を取り上げながら、公教育に求められる役割について、教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。（標準学習時間160分）
2回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
3回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
4回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
5回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
6回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル及びヘルバルトの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
7回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論（または教育基礎論）及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと。（標準学習時間180分）

8回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
9回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
10回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
11回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
12回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
13回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
14回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
15回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、現代における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。（標準学習時間180分）
16回	参考文献等と配付資料全体を読み直してこれまでの学習全体を振り返るとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念と克服すべき課題を複数の観点から整理しておくこと（標準学習時間200分）。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目指す。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与）
達成目標	1) 教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ大切であるかを説明できる（B）。 2) 西洋における各時代の教育の特質について、いくつかの教育思想に触れながら説明できる（B）。 3) 日本における各時代の教育の特質について、主に教育法制の変遷と関連づけて説明できる（B）。
キーワード	教育の歴史、学校の歴史、教育思想、教育法制史、教育理念、教育観、教職観の変遷
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業各回の振り返り学習（提出課題）（40%、達成目標1～3）、最終評価試験の評定点（60%、達成目標1～3）とを総合し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は学習目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。
教科書	刊行物は使用しない。配付資料を適宜用いる。
関連科目	1 年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
参考書	曾我雅比兒・皿田琢司（編著）『現代教育の理論と実践』大学教育出版、2015年 佐藤環（編著）『日本の教育史』現場と結ぶ教職シリーズ、あいり出版、2013年 鈴木晶子・山名淳・駒込武（編著）『教育思想・教育史』教職教養講座第2巻、協同出版、2018年 斉藤利彦・佐藤学（編著）『近現代教育史』新版、学文社、2016年 鈴木理恵・三時眞貴子（編著）『教育の歴史・理念・思想』教師教育講座第2巻、協同出版、2014年 新井保幸・上野耕三郎（編）『教育の思想と歴史』新教職教育講座第1巻、協同出版、2012年 古沢常雄・米田俊彦（編）『教育史』教師教育テキストシリーズ、学文社、2009年 中学校社会科（歴史的分野）の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	○研究室：B2号館（旧13号館）3階東端 ○電子メール：salad@chem.ous.ac.jp（教育との連絡にはOUSメールを用いること） ○電話：086-256-9714（ダイヤルイン） ○オフィスアワー：水曜日4時限
授業の運営方針	○教職の特質に照らして自らの学業、読書習慣、言動、筆記の見直しを図ること。 ○専攻分野の学業と、それらの学びの支援に資する読書も励行すること。

	○授業時間外の連絡手段としてOUSメールを送受信できるようにしておくこと。 ○最終評価試験は、平素の振り返り学習の課題を、学則に定める出席回数分提出していることを受験要件とする。
アクティブ・ラーニング	○ライティング：各回の授業後、扱われた教育史または教育思想史上の事例の一つを取り上げ、現代における教育課題との関連を考えて記入する。 ○相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。 ○グループ別学習：話し合い、資料作成、発表等を含めることがある。
課題に対するフィードバック	○授業で課された提出物は、個別に点検し、必要に応じて添削する。学習目標に照らして共通に必要な事項については、口頭、板書、投影など何らかの方法により講評する。授業時間外に伝える必要が生じた場合には、掲示または電子メール（履修者のOUSメールアドレス宛で一斉送信）を用いることがある。 ○最終評価試験については、解答例または解説の書面を掲示または配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。 ○障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	C 1 号館（旧25号館） 7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	学習心理学（FES03400）
英文科目名	Psychology of Learning
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学習心理学の目的・方法・領域について説明する。
2回	学習心理学の理論について説明する。
3回	古典的条件づけの原理について説明する。
4回	オペラント条件づけの原理について説明する。
5回	学習と記憶のメカニズムについて説明する。
6回	知識獲得と学習の原理について説明する。
7回	技能の学習の原理について説明する。
8回	問題解決と学習の原理について説明する。
9回	社会的学習の原理について説明する。
10回	学習と認知発達の原理について説明する。
11回	学習の転移について説明する。
12回	学習と動機づけの原理について説明する。
13回	学習理論の教育場面への応用について説明する。
14回	学習理論の臨床場面への応用について説明する。
15回	学習心理学と21世紀型学びについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	授業の前に、学習心理学の目的・方法・領域について復習し、教科書などにより、学習心理学の理論について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業の前に、学習心理学の理論について復習し、教科書などにより、古典的条件づけに関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業の前に、古典的条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、オペラント条件づけに関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業の前に、オペラント条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と記憶のメカニズムに関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業の前に、学習と記憶のメカニズムに関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより知識獲得と学習の原理について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業の前に、知識獲得と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、技能の学習の原理に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業の前に、技能の学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、問題解決と学習の原理に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業の前に、問題解決と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、社会的学習の原理に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業の前に、社会的学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と認知発達の原理に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業の前に、学習と認知発達の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習の転移に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業の前に、学習の転移について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と動機づけの原理に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業の前に、学習と動機づけの原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の教育場面への応用に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業の前に、学習理論の教育場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の臨床場面への応用に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業の前に、学習理論の臨床場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習心理学と21世紀型学びについて予習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学習心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り組む資質を養うことを目的とする。そのために、学習心理学の最新の知見を学校での学習指導の実践と関係づけて講義する。初等教育学科の「学位授与の方針」B（小学校教育の意義と役割を理解し、教職へ関わることへの強い使命感を身につけている）に最も強く関連する科目である。
------	---

達成目標	①学習心理学の古典的理論から最新の理論について具体的に説明できる（B）。②「学習の基礎過程」「知識獲得と学習」「問題解決と学習」「技能の学習」「社会的学習」「発達理論と学習」「学習の転移」「学習の動機づけ」「学習理論の応用」など学習心理学の主要な研究領域について具体的に説明できる（B）。
キーワード	学習理論と学習指導
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標の①②に関しては最終評価試験で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	教育心理学
参考書	
連絡先	A 1 号館 9 F 森研究室
授業の運営方針	深い学びを促すために、毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての理解の深化を図る。
アクティブ・ラーニング	ライティング。毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての小レポートを課す。
課題に対するフィードバック	各回の小レポートに対するフィードバックは次回の授業で行い、最終評価試験のフィードバックとして、模範答案の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その回答のための時間を次回の授業の最初に設ける。

科目名	教育行政学【月4木4】（FES03500）
英文科目名	Education Administration
担当教員名	曾我雅比兒（そがまさひこ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題 1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2 回	2つの公教育思想－国家主義型（プロイセン王国フリードリッヒ大王）と自由主義型（フランス革命時のコンドルセ案）－を紹介する。
3 回	西欧諸国（英、仏、独、米）における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題 2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6 回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	授業の前半で確認テスト 1 をする。後半は日本国憲法のエデュケーション条項について概説する。
8 回	教育基本法を解説する。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題 3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10 回	中央教育行政の組織（内閣、文部科学大臣、文部科学省）とそれぞれの権限や機能を概説する。
11 回	地方教育行政の組織（首長、議会、教育委員会）とそれぞれの権限や機能を概説する。
12 回	学校の管理と運営 1－学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題 4「教科書の検定と採択」を課す。
13 回	学校の管理と運営 2－教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14 回	授業の前半で確認テスト 2 をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15 回	確認テスト 2 の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員のサービス、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政／改訂版／曾我雅比兒／大学教育出版／9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室：B8号館4階 曾我研究室、 直通電話：086-256-9447、 E-mail:soga@das.ous.ac.jp、 オフィスアワー：月～金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育行政学【月4木4】（FES03510）
英文科目名	Education Administration
担当教員名	曾我雅比兒（そがまさひこ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題 1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2 回	2つの公教育思想－国家主義型（プロイセン王国フリードリッヒ大王）と自由主義型（フランス革命時のコンドルセ案）－を紹介する。
3 回	西欧諸国（英、仏、独、米）における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題 2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6 回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	授業の前半で確認テスト 1 をする。後半は日本国憲法のエデュケーション条項について概説する。
8 回	教育基本法を解説する。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題 3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10 回	中央教育行政の組織（内閣、文部科学大臣、文部科学省）とそれぞれの権限や機能を概説する。
11 回	地方教育行政の組織（首長、議会、教育委員会）とそれぞれの権限や機能を概説する。
12 回	学校の管理と運営 1－学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題 4「教科書の検定と採択」を課す。
13 回	学校の管理と運営 2－教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14 回	授業の前半で確認テスト 2 をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15 回	確認テスト 2 の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員のサービス、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政／改訂版／曾我雅比兒／大学教育出版／9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室：B8号館4階 曾我研究室、 直通電話：086-256-9447、 E-mail:soga@das.ous.ac.jp、 オフィスアワー：月～金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育行政学【月4木4】（FES03520）
英文科目名	Education Administration
担当教員名	曾我雅比兒（そがまさひこ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題 1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2 回	2つの公教育思想－国家主義型（プロイセン王国フリードリッヒ大王）と自由主義型（フランス革命時のコンドルセ案）－を紹介する。
3 回	西欧諸国（英、仏、独、米）における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題 2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6 回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	授業の前半で確認テスト 1 をする。後半は日本国憲法のエデュケーション条項について概説する。
8 回	教育基本法を解説する。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題 3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10 回	中央教育行政の組織（内閣、文部科学大臣、文部科学省）とそれぞれの権限や機能を概説する。
11 回	地方教育行政の組織（首長、議会、教育委員会）とそれぞれの権限や機能を概説する。
12 回	学校の管理と運営 1－学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題 4「教科書の検定と採択」を課す。
13 回	学校の管理と運営 2－教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14 回	授業の前半で確認テスト 2 をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15 回	確認テスト 2 の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にすえる。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員のサービス、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政／改訂版／曾我雅比兒／大学教育出版／9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室：B8号館4階 曾我研究室、直通電話：086-256-9447、E-mail:soga@das.ous.ac.jp、オフィスアワー：月～金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育社会学 (FES03600)
英文科目名	Sociology of Education
担当教員名	松岡 律 (まつおかただし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	社会学という考え方・・・授業の内容・進行について説明する
2 回	社会化(1) 家庭と教育・・・社会化エージェントとしての親について解説する
3 回	社会化(2)-1 教師と学校・・・公教育制度の社会的役割について解説する
4 回	社会化(2)-2 教師と生徒の関係性・・・コミュニケーションの非対称性について解説する
5 回	社会化(3) 教育とジェンダー・・・日常に埋め込まれたコードについて解説する
6 回	教師という生き方・・・教師集団の特質について解説する
7 回	階層社会と学歴社会・・・メリトクラシーに隠された不平等について解説する
8 回	大学と大学生・・・全入時代と格差の拡大について解説する
9 回	教育とマス・メディア・・・商業主義との葛藤について解説する
10 回	教育問題(1) いじめ・・・いじめの原因は何かについて解説する
11 回	教育問題(2) 不登校・・・責任は誰にあるのかについて解説する
12 回	教育問題(3) 学校と安全・地域との関わりについて解説する
13 回	教育と社会(1) ニート・フリーター・・・社会と個人の関係性について解説する
14 回	教育と社会(2) 政治と教育・・・教育施策の変遷から見えるものについて解説する
15 回	まとめと展望・・・教育をめぐる大人の責任と子どもの成長について解説する

回数	準備学習
1 回	社会学に関する概説書を読んでおくこと。(標準学習時間：90分)
2 回	社会化という概念について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
3 回	学校の社会的役割について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
4 回	ヘゲモニーという言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間：90分)
5 回	ジェンダー問題について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
6 回	学閥について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
7 回	メリトクラシーという言葉について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
8 回	大学生の学力低下について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
9 回	メディア・リテラシーについて調べておくこと。(標準学習時間：90分)
10 回	自身といじめの関連について整理しておくこと。(標準学習時間：90分)
11 回	不登校の原因について考えておくこと。(標準学習時間：90分)
12 回	学校の安全管理義務について調べておくこと。(標準学習時間：90分)
13 回	ニートとフリーターの違いについて調べておくこと。(標準学習時間：90分)
14 回	政治が教育にどう関わってくるのか、調べて考えておくこと。(標準学習時間：90分)
15 回	これまでの講義ノートをよく見返しておくこと。(標準学習時間：90分)

講義目的	教育社会学は社会学の立場から「教育」をながめる学問である。通常、「教育」と聞けば真っ先に「学校」が思い浮かぶが、「教育」という現象は「学校生活」の限られた空間・時間だけでなく、家庭や身近な大人たちとの関わりの中で日常的に発生する、不断の社会的営為である。本講義では、教育にまつわる様々な事象を社会との関係性において捉え、そうした観点から受講生がこれまで過ごして来た学校生活を振り返り、また「教師になるとは何を意味するのか？」という根源的な問いも含めて幅広く理解して行くことを目的とする。 (中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Dに最も強く関与する)
達成目標	① 教育の社会的意義・教職の社会的役割について客観的に深く理解すること。(E,D) ② 受講者が自身の職業選択をめぐり、繰り返し問い直すことのできる視点を獲得すること。(E,D)
キーワード	社会学
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	毎回の小レポート(50%、達成目標①を確認)、および最終課題(50%、達成目標①②を確認)を総合評価する。
教科書	使用しない
関連科目	生徒・進路指導論
参考書	・荻谷剛彦 他著『教育の社会学 新版- 〈常識〉の問い方、見直し方』有斐閣アルマ、2010年
連絡先	A1号館904 松岡
授業の運営方針	講義スタイルですが、理解を確認するために頻繁に指名します。

	答えられるよう、問題意識をもって臨むように。
アクティブ・ラーニング	質問 授業中にその先の展開を予測できているか否かを確認するため不定期に指名し、応答を求める。
課題に対するフィードバック	模範解答例をLMS等で提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	学校経営（FES03700）
英文科目名	School Administration
担当教員名	金川舞貴子＊（かながわまきこ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等を説明する。
2回	現代の教職と学校：「教員」という職業の歴史の変遷を辿ることを通じて、教職が社会変化や国家制度・政策などと密接な関係を持ちながら、どのような意義や期待、課題などを有するのかを説明する。
3回	学校教育の発展と諸課題：戦後のわが国の学校教育について、制度的な観点から教育政策と学校現場の課題について説明する。
4回	学校教育を支える法制度：義務教育制度がどのように進展してきたのか、「教育を受ける権利」を保障する制度の一つとしての学校教育を支える様々な法律を説明する。
5回	近代公教育制度の成立と構成原理：わが国の公教育制度を支える原理、「教育の機会均等」、それを保障する「義務性」「無償性」「中立性」について説明する。
6回	教育行政の組織と運営：中央と地方の教育行政のしくみと働きを説明する。
7回	教育課程行政とカリキュラム開発：教育課程の法制度について教育権論争、教育課程の編成権、また学習指導要領の拘束性や改訂の歴史などを確認する。その上で、学校現場の創造性や組織性に基づくカリキュラム開発やマネジメントについて説明する。
8回	学校の組織と経営①～歴史的展開～：学校が組織となるために必要な営み、すなわち学校経営について、その必要性および歴史的展開について説明する。
9回	学校の組織と経営②～学校組織マネジメントの発想～：学校組織とその経営をめぐるトピックについて具体例をもとに理解を深め、学校経営改革をめぐる近年の動向について説明する。
10回	学校経営の理論的展開①～科学的管理法～現代化論～：学校経営についての考え方は、一般経営学の理論を参照しつつ、またその時々々の教育政策や教育課題と向き合う形で発展してきた。そこで、学校経営の諸理論が、学校の組織特性をどのように理解し、学校経営のモデルを提示してきたのかを検討する。
11回	学校経営の理論的展開②～組織文化～組織的知識創造経営～：第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに、学校経営の在り方を説明する。
12回	学校経営の現代的課題と学校組織の特徴：学校経営が現在直面している現代的課題、学校組織としての対応が求められる理由、その際、学校組織の特徴をいかに把握したらいいのかについて検討する。
13回	地域コミュニティの中の学校経営：地域連携の歴史と制度を概観し、学校と地域・保護者の連携という観点から、これからの中学校に求められる学校経営の課題を説明する。
14回	教員の専門性と学校の自律性：学校に配置される教職員等の多様性をそこにおける協働性の重要性について、中学校の組織特性を踏まえて検討する。
15回	学校評価と学校改善：学校評価制度を概観し、学校評価の意義、および学校改善に資する学校評価の在り方について、中学校の具体事例をもとに検討する。

回数	準備学習
1回	近代学校制度が成立して以降の小学校教員・中学校教員の教師像、求められてきた役割について予習すること。（標準学習時間60分、以下同じ）
2回	社会変化や制度・政策との関わりを押さえつつ、教職観の変遷について復習を行うこと。臨時教育審議会答申・教育改革国民会議の提言について予習すること。
3回	戦後のわが国の学校教育について、制度的観点から教育政策と学校現場の課題について復習を行うこと。2006年に改正された教育基本法について、旧法と比較しながら改正内容を予習すること。
4回	インクルージョン教育について復習を行うこと。
5回	現代公教育の構成原理について復習を行うこと。岡山市教育委員会の教育振興基本計画について読み、岡山市の重点的な政策について予習すること。
6回	文部科学省・教育委員会の意義や役割について復習を行うこと。第7回の授業までに教育課程の編成権、学習指導要領の変遷について教科書の該当箇所を予習すること。
7回	学校をベースとしたカリキュラム開発・カリキュラムマネジメントについて復習を行うこと。
8回	学校経営の基本的な考え方および必要性について復習を行うこと。
9回	学校経営改革の動向（組織マネジメント、新しい職）について復習を行うこと。学校経営の近代化論・現代化論について教科書の該当箇所を予習すること。
10回	授業で扱った学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を

	行うこと。また学校組織の一員としての自分の働き方について自身の考えを準備してくること。
1 1 回	第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。規制緩和・地方分権下の学校の変化について教科書の該当箇所を予習すること。
1 2 回	学校に継続的・組織改善が要求される中、学校組織をどのように捉えて改善の方向性をどのように考えたらよいのか、自分の考えをまとめること（復習）。学校と地域の連携が必要とされる背景について予習すること。
1 3 回	今日求められる教師の専門性について教科書の該当箇所を予習すること。
1 4 回	複数の学校評価資料を丁寧に読み比べることで、学校評価の目的やよりよい学校評価に求められるものについて事前に自身の考えをまとめておくこと。
1 5 回	学校改善に資する学校評価の在り方について復習を行うこと。

講義目的	「経営」と聞くと企業のもの、経営者や管理職がするものといった、どこか遠い世界のイメージが強いかもしれない。しかし、学校には「学校経営」なるものが強く求められており、教師として学校組織で働く上で「経営」は不可欠である。近代の学校というシステムにおいて、なぜ「経営」が必要とされるようになったのか、「学校経営」とは何で、どのような考え方が求められるのか。本講義では、これらの問いを中心に据えながら、近代公教育の成立を含め、学校教育システムの基礎的事項を学ぶ。さらに、現在の学校教育が直面する多様な課題を多面的に検討する中で、今後求められる学校経営の在り方、学校改善の方策を考えていく。
達成目標	①近代公教育の原理原則を理解し、学校経営・教育行政に関する基礎的知識を習得する。（国語教育コースE；英語教育コースB） ②わが国の教育改革の背景や課題を多角的に分析し、自分の考えを論理的に展開できる。（国語教育コースE；英語教育コースB）
キーワード	
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	課題提出（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で50%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
教科書	『教育の経営・制度』／田中智志・橋本美保〔監修〕浜田博文〔編著〕／一藝社／2014年／9784863590670
関連科目	
参考書	適宜紹介する。
連絡先	C1号館 6階教務課
授業の運営方針	・授業は板書やパワーポイント、および配布プリントを用いて行う。 （ただし、プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。） ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。 そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、教科書・ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業中に出した課題は、次回の授業内で解説する。最終評価試験は、試験終了後に解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業は講義と討議を中心に進めるため、学生の積極的な参加を求める。

科目名	教育課程論 (FES03800)
英文科目名	Educational Curriculum Studies
担当教員名	宮本浩治* (みやもところじ*), 尾島卓* (おじまたく*)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓*)
2 回	戦後日本のカリキュラム (教育課程) について説明する。 (尾島 卓*)
3 回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓*)
4 回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓*)
5 回	教科の指導と教科外活動の指導 について説明する。 (尾島 卓*)
6 回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓*)
7 回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義, その指導について説明する。 (尾島 卓*)
8 回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。 (尾島 卓*)
9 回	教育内容・教材と教科書(1) 一教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムーについて説明する。 (尾島 卓*)
10 回	教育内容・教材と教科書(2) 一学びの履歴としてのカリキュラム開発ーについて説明する。 (尾島 卓*)
11 回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。 (尾島 卓*)
12 回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治*)
13 回	学校経営目標とカリキュラム, カリキュラムを具現化する授業について説明する。 (宮本 浩治*)
14 回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (宮本 浩治*)
15 回	まとめをする。 (宮本 浩治*)

回数	準備学習
1 回	中学校学習指導要領の15～19頁、中学校学習指導要領解説編の10～11頁を読んでおくこと。
2 回	中学校学習指導要領解説編の97～100頁を読んでおくこと。
3 回	中学校学習指導要領解説編の100～106頁を読んでおくこと。
4 回	中学校学習指導要領解説編の44～55頁を読んでおくこと。
5 回	中学校学習指導要領解説編の60～66頁を読んでおくこと。

6回	中学校学習指導要領の116～117頁および中学校学習指導要領解説編の80～88頁を読んでおくこと。
7回	中学校学習指導要領の112～115頁および中学校学習指導要領解説編の23～28頁を読んでおくこと。
8回	7回配布の補助資料を読んでおくこと。
9回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
10回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
11回	第10回授業で配布する教育課程表をもとに、学校の特色を決定する要因を探ってくること。
12回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
13回	第12回授業で配布する資料を読み、学校教育目標の設定とカリキュラム開発の関係をまとめておくこと。
14回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を見ておくこと。
15回	これまでの授業ノートを読み返すこと。

講義目的	1.戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2.教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3.カリキュラム（教育課程）と授業実践の双方向性を理解する。 （国語教育コースEと中等英語教育コースBにもっとも強く関与）
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終評価試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合は不合格とする。
教科書	『中学校学習指導要領』／文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』／文部科学省
関連科目	特別活動の理論と方法、教育の方法と技術
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp（尾島卓）
授業の運営方針	講義のはじめに予習の成果をはかる小テストを行います。解答の出来不出来にかかわらず、採点後は解答を見直しましょう。 教科書等に基づいて専門的な知識や考え方について講義を行います。板書の内容も含めてメモを取りながら講義を聴いて下さい。また、内容によって受講者同士で情報交換を行うこともあります、課題に即して積極的に対話しましょう。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義時間最初に行う確認テストの採点は各自で教科書等を使って行って下さい。 講義期間中に課す小レポートは配布された用紙を使用して作成することとします。用紙配布時に提出期限と提出先も知らせますので、中止して下さい。 最終試験の模範解答は最終試験終了時に配布します。教科書等と付き合わせて出題意図を確認すると、より学習が深まるでしょう。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	課題（準備学習で示す）については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。

科目名	国語科教育法Ⅰ（FES03900）
英文科目名	Teaching of JapaneseⅠ
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	第1回：主に現場での国語科の授業開きの内容、意義、方法について説明する。
2回	第2回：国語科教育と国語教育の違いや、国語科学習指導要領の目標・内容・全体構造について説明する。
3回	第3回：国語科教育観の変遷に触れながら、国語科学習指導要領の改訂について説明する。
4回	第4回：国語科教育とPISA型読解力の関係について、PISAの実際の問題を扱いながら説明する。
5回	第5回：国語科教育と「主体的・対話的で深い学び」の関係について、アクティブ・ラーニングに言及しながら解説する。
6回	第6回：教科書教材の「批判読み」の実践を紹介しながら、「主体的・対話的で深い学び」について解説する。
7回	第7回：教科書と、学習指導要領や検定制度との関連について解説する。
8回	第8回：「国語」と「日本語」の違いについてDVD教材を視聴しながら解説する。
9回	第9回：共通語と方言についての授業での取り扱いや、国語（科）教育と方言の関係について解説する。
10回	第10回：言語事項の授業実践例や模擬授業化について採り上げ、説明する。
11回	第11回：音声言語の指導法や授業実践例について採り上げ、説明する。
12回	第12回：中学校での文学教材や説明的文章教材の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
13回	第13回：中学校で扱う文学教材を使って、作成の留意点を押さえながら、学習指導案の基本的な書き方について説明する。
14回	第14回：高校で扱う文学教材（小説、詩歌、古典）の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
15回	第15回：高校で扱う文学教材を使って、作成の留意点を押さえながら、学習指導案の基本的な書き方について、説明し、これまでの講義のまとめを行う。

回数	準備学習
1回	第1回：中学校・高校時代に受けた最も印象に残る国語の授業やその際の授業開きについて整理しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	第2回：国語科学習指導要領解説に目を通しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	第3回：国語科教育観について予習しておくとともに、紹介した文献に目を通しておくこと（標準学習時間60分）
4回	第4回：国語教育界で話題となった「贈り物問題」について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	第5回：「主体的・対話的で深い学び」や「アクティブ・ラーニング」とは何か調べておくこと。（標準学習時間60分）
6回	第6回：自身が使ってきた中学・高校の教科書を見返しながら「主体的・対話的で深い学び」とはどんな実践を指すのか考えておくこと。（標準学習時間60分）
7回	第7回：教科書検定制度について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	第8回：紹介しておいた文献に目を通しつつ「国語」と「日本語」の違いについて考えておくこと。（標準学習時間60分）
9回	第9回：紹介しておいた文献に目を通しつつ「共通語」と「方言」の持つ役割について考えておくこと。（標準学習時間60分）
10回	第10回：紹介しておいた文献に目を通しつつ、どんな授業ができるか考えること。（標準学習時間60分）
11回	第11回：紹介しておいた文献に目を通しつつ、どんな指導法があるか考えておくこと。（標準学習時間60分）
12回	第12回：中学校の国語科学習指導要領を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
13回	第13回：指定する文学教材について内容を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
14回	第14回：高等学校の国語科学習指導要領を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
15回	第15回：指定する文学教材について内容を予習し、これまでの授業内容をおさらいしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	国語科教員はどのようにして「ことば」に向き合うのか、「国語とは何か」を常に考える姿勢を持ち続ける必要がある。 その基本的な姿勢を身につけることや、授業デザインの基になる学習指導要領への理解を深めること、ひいては将来の「ことば」の専門家としての国語科教育の担い手になるために、国語科指導法の基礎を身につけることが目的である (中等教育学科国語教育コースの学位授与方針A, Cと深く関連している)。
達成目標	①国語科教育に関する基本的知識とスキルを持つことができる。(A, C) ②国語科学習指導要領について基本的な知識を持つことができる。(A, C) ③国語科教員を目指す者としてことばに対する問題意識を持つことができる。(A, C)
キーワード	教材研究、学習指導案、文学作品、小説、説明的文章、評論、古文、漢文、学習指導要領、国語、日本語、国語(科)教育、共通語と方言、主体的・対話的で深い学び。
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業中に課す課題、授業ごとの課題を50%(達成目標①③を確認)、最終レポート課題(達成目標①②③を確認)を50%により評価し、総計を60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領<平成29年告示>解説国語編/東洋館出版社/ 9784491034706 高等学校学習指導要領<平成30年告示>解説国語編/出版社未定 高等学校学習指導要領<平成22年告示>解説国語編/教育出版/9784316300214
関連科目	2年生の国語科教育法Ⅱ、3年生の国語科教育法Ⅲ・Ⅳと関連している。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・講義内容を補足するためにゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。 ・欠席については、公共交通機関の乱れ・忌引き・実習等に関しては配慮する(ただし、事前連絡があった場合に限る)。 ・グループでの学習が多くなるので、積極的に参加して協力する授業姿勢を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、ライティング。 課題についてディスカッションやグループワークを行ったり、その結果を発表したりする。また授業内で課題に対して自身の考えを記述することもある。
課題に対するフィードバック	提出課題については講義中に解説したり紹介しながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア)元中学校・高等学校勤務 イ)学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	特記なし。

科目名	国語科教育法Ⅱ（FES04000）
英文科目名	Teaching of Japanese II
担当教員名	札幌和男（ふだのかずお）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	第1回：主に小説を読むことについての授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
2回	第2回：小説の具体的教材をもとに、模擬授業を構想し、学習指導案としてまとめ、相互批評を行う。
3回	第3回：古文を読むことについて、授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
4回	第4回：古文の具体的教材をもとに、模擬授業を構想し、学習指導案としてまとめ、相互批評を行う。
5回	第5回：漢文を読むことについて授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
6回	第6回：漢文の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
7回	第7回：評論を読むことについての授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
8回	第8回：評論の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
9回	第9回：詩歌を読むことについての授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
10回	第10回：詩歌の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。その際に岡山県での学習指導案の書き方（中学校・高等学校）についても解説する。
11回	第11回：「聞くこと・話すこと」というテーマでの授業デザインや教材研究の方法について説明する。
12回	第12回：「インタビュー」をテーマとしてワークショップ的に授業を行う。
13回	第13回：「書く」ことの指導法として「聞き書き」の方法についてワークショップ的に授業を行う。
14回	第14回：「伝え合う」というテーマで、授業デザインや実践について説明する。
15回	第15回：これまでの講義内容を深化させてワークショップ的な授業実践の在り方について解説する。

回数	準備学習
1回	第1回：中学校・高校時代の小説を扱った授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。（標準学習時間60分）
2回	第2回：あらかじめ指定した小説教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
3回	第3回：中学校・高校時代の古文を扱った授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。（標準学習時間60分）
4回	第4回：あらかじめ指定した古文教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
5回	第5回：中学校・高校時代の漢文を扱った授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べ、どんな授業ができるか考えること。（標準学習時間60分）
6回	第6回：あらかじめ指定した漢文教材をどう授業化するか構想しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	第7回：中学校・高校時代の評論を扱った授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べ、どんな授業ができるか考えること。（標準学習時間60分）
8回	第8回：あらかじめ指定した評論教材をどう授業化するか構想しておくこと。（標準学習時間60分）
9回	第9回：中学校・高校時代の詩歌を扱った授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べ、どんな授業ができるか考えること。（標準学習時間60分）
10回	第10回：事前に各自、岡山県総合教育センターHPより「岡山型学習指導のスタンダード」「学習指導案の書き方」「中学校・高等学校国語学習指導案（例）」についてダウンロードして予習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	第11回：あらかじめ配布する文献を読んで授業の趣旨を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
12回	第12回：事前の課題に取り組むこと。（標準学習時間60分）
13回	第13回：「書くこと」に関する事前課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	第14回：「伝え合う」という意味を広くとらえ、自身ならどのような授業をデザインするか構想しておくこと。（標準学習時間60分）
15回	第15回：「主体的・対話的で深い学び」となるような授業実践にはどのような内容や工夫が必要とされるかまとめておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	生徒の考える意欲や興味ひいては「ことば」を引き出し、関心を抱く国語の授業を展開するには、入念な教材研究が必要となる。 「読む」だけでなく「書く・聞く・話す」の教材研究をどうやって進めるか、それをどう授業化するかの基本的な力を養うことが目的である。その重要な基本的な力として学習指導案を作成できることを目指す。 さらに教材の中から考えるに値する問いとは何かの重要性を理解することも目的としてある（中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針A、Cと深く関連している）。
達成目標	①教材観を養い、「読むこと」についての基本的な指導法を理解することができる。（A、C） ②学習指導案を書くことができる。（A、C） ③聞くこと、話すこと、書くことについての指導方法の一部（インタビューと聞き書きのスキル）を習得できる。（A、C）
キーワード	教材研究、作家研究、実践、学習指導案、文学作品、小説、説明的文章、評論、古文、漢文、四領域、聞き書き、インタビュー、教材観、模擬授業の構想、授業デザイン。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学習指導案、授業中に課す課題、授業ごとの課題を50%（達成目標①～③を確認）、最終レポートを50%（達成目標①～③を確認）により評価し、総計を60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領<平成29年告示>解説国語編/東洋館出版社/ 9784491034706 高等学校学習指導要領<平成30年告示>解説国語編/出版社未定 高等学校学習指導要領<平成22年告示>解説国語編/教育出版/9784316300214
関連科目	2年生の国語科教育法Ⅰ、3年生の国語科教育法Ⅲ・Ⅳと関連している。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・講義内容を補足するためにゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。 ・欠席については、公共交通機関の乱れ・忌引き・実習等に関しては配慮する（ただし、連絡があったことに限る）。 ・グループでの学習が多くなるので、積極的に参加して協力する授業姿勢を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、ワークショップ、ライティング。 授業担当者からの問いかけに対してディスカッションをしたり、グループワークで答えを考え出すことを行う。また授業内で課題に対して自身の考えを記述したり、ワークショップやプレゼンテーションを行いその内容について合評することもある。
課題に対するフィードバック	提出課題については講義中に解説したり紹介しながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	特記なし。

科目名	国語科教育法Ⅲ（FES04100）
英文科目名	Teaching of Japanese III
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	第1回：シティズンシップと国語科教育の関係について触れながら、文学作品の模擬授業を行っていきにあたり、授業デザインのポイントや考える視点について説明する。
2回	第2回：シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、小説教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
3回	第3回：シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、メディアリテラシー・言語・情報に関する文学・評論教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
4回	第4回：シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、科学・環境・社会といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
5回	第5回：シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、国際化・グローバル・文化といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
6回	第6回：シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、平和・人権・生命といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
7回	第7回：古典（上古～中世の古文）、笑いや芸能といったテーマの古典教材の模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
8回	第8回：古典（古文、擬古典文、芸能等）の教材に関する模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
9回	第9回：漢文に関する模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
10回	第10回：地域方言や音声言語等の言語事項に関する模擬授業を実施し、全員で検討して、振り返りを行う。
11回	第11回：新しい実践研究動向として国語科における実用的な文章について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
12回	第12回：新しい実践研究動向として国語科における法言語教育（条文・模擬裁判等）について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
13回	第13回：新しい実践研究動向として国語科における主権者教育について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
14回	第14回：科目横断的な、国語科における模擬授業のデザインについて解説する。
15回	第15回：教材の発掘や協同授業を念頭に置いて、臨床こくご学の理論に基づく授業デザインについて解説する。

回数	準備学習
1回	第1回：シティズンシップについて調べ、国語科教育との関連について考えておくこと。（60分）
2回	第2回：国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、小説の模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
3回	第3回：国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、模擬授業の構想を練り、メディアリテラシー・言語・情報に関する文学・評論教材の学習指導案を作成すること。（120分）
4回	第4回：国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、科学・環境・社会といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
5回	第5回：国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、国際化・グローバル・文化といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
6回	第6回：国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、平和・人権・生命といった現代的課題に関する文学・評論教材の模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
7回	第7回：古文に関する模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
8回	第8回：古典に関する模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）。
9回	第9回：漢文の模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）

10回	第10回：地域方言や音声言語等の言語事項に関する模擬授業の構想を練り、学習指導案を作成すること。（120分）
11回	第11回：実用的文章とは何か、予め調べておくこと。（60分）
12回	第12回：あらかじめ配布する資料を読んで授業の趣旨を理解しておくこと。（60分）
13回	第13回：あらかじめ指定した教材を読んで授業の趣旨を理解しておくこと。（60分）
14回	第14回：国語はどのような教科と横断的な授業ができるか模擬授業化の構想を練ること。（60分）
15回	第15回：国語科では、どのようなねらいでどのようなゲストとの協同授業が可能なのか、模擬授業化の構想を練ること。（60分）

講義目的	国語科教育法Ⅰ・Ⅱが「基本」編とすれば、この講義は「応用」編にあたる。国語の授業で扱う内容は少なからず社会と関連する。一方、現場においては教材内容を社会と切り離して取り上げる傾向が見られることもある。国語科は、市民として一人一人の思想や世界観の礎をつくる教科でもある。新しい学習指導要領にもあるように、今後は実社会とのつながりを意識した国語の授業が求められる。実社会とのつながりを意識し授業を創造していく「臨床こくご学」の理論や方法にも触れながら、「実社会（生活）」の中のことばに着目する国語科教員の素養を培う内容とする。本講義では学習指導案を作成した上で、模擬授業を行うことを中心に進めていき、参加者で相互に批評しながら、課題を共有し、現場での実践力を身に付けることを目指す（中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針A、Cと深く関連している）。
達成目標	①国語科の授業を実践できる基本的な力を身につける。（A、C） ②実社会とつながる授業の実践方法（協同授業や臨床こくご学の理論）について理解できる。（A、C） ③国語科（教育）を社会の中で捉えて、授業を構想する力をつける。（A、C）
キーワード	模擬授業、メディアリテラシー、教材研究、学習指導案、文学作品、小説、説明的文章、評論、古文、漢文、音声言語、実用的文章、条文、利用規約、模擬裁判、ディベート、シティズンシップ、主権者教育、臨床こくご学、言語文化、科目横断、相互評価。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	模擬授業の内容、授業前の学習指導案、授業中に課す課題、授業後の課題を50%（達成目標①③を確認）、最終レポートを50%（達成目標②③を確認）により評価し、総計を60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領<平成29年告示>解説国語編/東洋館出版社/9784491034706 高等学校学習指導要領<平成30年告示>解説国語編/出版社未定 高等学校学習指導要領<平成22年告示>解説国語編/教育出版/9784316300214 中学校国語2/光村図書/9784895287784 精選国語総合新訂版/大修館書店/9784469623192
関連科目	2年生の国語科教育法Ⅰ・Ⅱ、3年生の国語科教育法Ⅳと関連している。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・講義内容を補足するためにゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。 ・欠席については、公共交通機関の乱れ・忌引き・実習等に関しては配慮する（ただし、連絡があったことに限る）。 ・グループでの学習が多くなるので、積極的に参加して協力する授業姿勢を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問、ライティング プレゼンテーション（模擬授業）を行い、その内容について合評する時間を取る。その際、参加者は模擬授業者への質問を行ったり、内容についてディスカッションしたり、授業担当者からの問いかけに対してグループワークで答えを考え出すことを行う。また授業内で課題に対して自身の考えを記述することもある。
課題に対するフィードバック	提出課題については講義中に解説したり紹介しながらフィードバックを行う。 模擬授業に対するフィードバックはループリックによる相互評価と教員評価で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法

	について講義する。
その他（注意・備考）	特記なし。

科目名	国語科教育法Ⅳ（FES04200）
英文科目名	Teaching of Japanese Ⅳ
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第 1 回：国語科における試験作成や評価の方法について解説する。
2 回	第 2 回：中学校で扱う文学作品を使った教材研究・模擬授業の実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
3 回	第 3 回：高等学校で扱う小説を使った模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
4 回	第 4 回：中学校で扱う説明的文章を使った模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
5 回	第 5 回：高等学校で扱う評論を使った模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
6 回	第 6 回：中学校で扱う古文を使った模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
7 回	第 7 回：高等学校で扱う古文を使った模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
8 回	第 8 回：中学校あるいは高等学校で扱う漢文を使った模擬授業を実施し全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
9 回	第 9 回：伝統的言語文化や言語事項等に関わる模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
1 0 回	第 1 0 回：中学校あるいは高等学校で扱う詩あるいは短歌を教材とした模擬授業を実施し全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
1 1 回	第 1 1 回：アクティブ・ラーニング的手法を用いた話すこと、聞くことの模擬授業を実施し、全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
1 2 回	第 1 2 回：実用的文章を使った模擬授業を実施し全員で検討して、良かった点や改善点を振り返って共有する。
1 3 回	第 1 3 回：論拠・推論・多面的視座・批判力等養成に関わる模擬授業を法言語の視点から構想・検討し、解説を加える。
1 4 回	第 1 4 回：アクティブ・ラーニング的手法を用いた模擬授業を臨床こくご学の視点から構想・検討し、解説を加える。
1 5 回	第 1 5 回：協同授業を念頭に置いた、科目横断的な要素を持つ模擬授業を構想、実施したり、その意義について考えを深められるよう、解説を加える。

回数	準備学習
1 回	第 1 回：国語科における試験作成や評価の方法について、試験の作り方や評価に関する文献をあらかじめ読んでおくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	第 2 回：指定する文学作品の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間 1 2 0 分）
3 回	第 3 回：指定する小説の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間 1 2 0 分）

4回	第4回：指定する説明的文章の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
5回	第5回：指定する評論の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
6回	第6回：指定する古文（中学校）の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
7回	第7回：指定する古文（高等学校）の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
8回	第8回：指定する漢文の教材研究（作者、作品、授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
9回	第9回：伝統的言語文化や言語事項等に関わる授業実践の研究を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
10回	第10回：指定する詩あるいは短歌の教材研究（授業実践）を行い、授業デザインを考え、学習指導案を作成すること。（標準学習時間120分）
11回	第11回：話すこと、聞くことについてどのような授業が構想できるか、課題を準備しながら考えておくこと。（標準学習時間120分）
12回	第12回：実用的文章の教材研究（作品、授業実践）を行い、授業デザインを考えておくこと。（標準学習時間120分）
13回	第13回：論拠・推論・多面的視座・批判力等養成に関わる授業実践を、法言語の視点から行い、授業の構想を立てること。（標準学習時間60分）
14回	第14回：アクティブ・ラーニング的手法を用いた授業実践を、臨床こくご学の視点から行い、授業の構想を立てること。（標準学習時間60分）
15回	第13回：協同授業を念頭に置いた、科目横断的な要素を持つ授業実践の研究を行い、その現代的意義について考えておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	国語科教育法Ⅰ・Ⅱが基本、国語科教育法Ⅲが応用とすれば、国語科教育法Ⅳは「仕上げ」の内容である。Ⅰ～Ⅲで培った力をもとに多様な授業ができる実践力を身に付ける。授業を「受ける」のではなく「行う」立場から授業を捉え直し、学習指導案作成を通じて何のために何をどのように教えるのか明確にして模擬授業を行い、自己の授業を振り返る目を養いながら、他者の授業に対しても批評できる力や授業を見る眼を豊かに持つことができるようにする（中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針A、Cと深く関連している）。
達成目標	①作成した国語科学習指導案どおりに授業を実施することができる。（A、C） ②国語科としての課題に応じた適切な評価の方法を考案することができる。（A、C） ③自己の力量を客観的に捉えるとともに、他者の授業に対する的確な助言ができる。（A、C） ④多様な授業をデザインすることができる。（A、C） ⑤国語科授業において臨機応変の対応を心がけることができる。（A、C）
キーワード	模擬授業、教材研究、学習指導案、文学作品、小説、説明的文章、評論、古文、漢文、音声言語、実用的文章、伝統的言語文化、科目横断、相互評価。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	模擬授業の内容、授業前の学習指導案、授業中に課す課題、授業後の課題を50%（達成目標①③⑤を確認）、学期末レポートを50%（達成目標②④を確認）により評価し、総計を60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領<平成29年告示>解説国語編/東洋館出版社/9784491034706 高等学校学習指導要領<平成30年告示>解説国語編/出版社未定 高等学校学習指導要領<平成22年告示>解説国語編/教育出版/9784316300214 中学校国語2/光村図書/9784895287784 精選国語総合新訂版/大修館書店/9784469623192
関連科目	2年生の国語科教育法Ⅰ・Ⅱ、3年生の国語科教育法Ⅲと関連している。

参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・講義内容を補足するためにゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。 ・欠席については、公共交通機関の乱れ・忌引き・実習等に関しては配慮する（ただし、連絡があったことに限る）。 ・グループでの学習が多くなるので、積極的に参加して協力する授業姿勢を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問、ライティング ・プレゼンテーション（模擬授業）を行い、その内容について合評する時間を取る。その際、参加者は模擬授業者への質問を行ったり、内容についてディスカッションしたり、授業担当者からの問いかけに対してグループワークで答えを考え出すことを行う。また授業内で課題に対して自身の考えを記述することもある。
課題に対するフィードバック	提出課題については講義中に解説したり紹介しながらフィードバックを行う。 模擬授業に対するフィードバックはルーブリックによる相互評価と教員評価で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	特記なし。

科目名	英語科教育法Ⅰ（FES04300）
英文科目名	Teaching of EnglishⅠ
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科教育法とは何か、英語教育の実情について学習する （１）小学校、中学校、高等学校の教育現場 （２）グローバル人材育成とグローバル化に対応した英語教育改革実施計画
2回	英語教育の基本的問題を把握し、取り組みを理解する （１）英語授業の目的と指導目標 （２）英語教育の環境的要因、学習者の要因、教師の役割 （３）英語科授業デザイン（中期的・長期的な目標設定の重要性）
3回	学習指導要領の内容を理解する （１）学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）の特徴 （２）コミュニケーション能力とは何か （３）小・中・高が連携した英語教育に必要な要素
4回	英語で授業を行うための工夫とクラスルームイングリッシュを学習する （１）英語で授業を行うために （２）ビジュアル教材とICTの活用
5回	教材研究：教材を見る視点・教材を使う視点について考察する （１）教科書と文法指導 （２）教科書からコミュニケーション能力育成のための活動へ （３）Today's targetの設定とバックワードデザインによる授業づくり
6回	コミュニケーション能力を育成する活動について協議する （１）活用型学習の意義と展開 （２）プロジェクト型学習・帯学習・創作活動
7回	小学校英語活動・英語科の授業におけるコミュニケーション活動をもとに協議する （１）学習指導要領に基づく小学校での授業づくり （２）英語活動と英語科
8回	英語科授業におけるコミュニケーション活動の模擬授業の発表をもとに協議する （１）英語科授業におけるコミュニケーション活動の特徴、活動の発表
9回	高等学校でのコミュニケーション活動を中心とした模擬授業の発表をもとに協議する （１）コミュニケーション活動の特徴、活動の発表
10回	タスク中心の授業構成と5領域統合型の授業構成について模擬授業の発表をもとに協議する （１）タスクのつながり及び5領域統合を図るための工夫と模擬授業発表
11回	学習者要因：生徒・児童の発達段階に合わせて自律した学習者を育成するための支援について模擬授業の発表をもとに協議する （１）教師からの発信手段と生徒同士の学びあいの空間づくり
12回	家庭学習の支援に向けた教材作りを学習する （１）授業内の活動と家庭学習とする宿題のつながり （２）定期テストや学校行事などの中間目標を見通した英語科の課題設定
13回	英語科の評価について考察する （１）小学校・中学校・高等学校、それぞれの評価の特徴及び指導と評価の一体化
14回	英語授業づくりで大切なこと：クラスルームコミュニティをどう作り上げていくかを協議する （１）ALTとのチーム・ティーチング （２）指導力、教師力、授業力
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを実施する
16回	1回～15回の総括を説明し、最終評価試験の実施する

回数	準備学習
1回	グローバル人材育成のための国の取り組みについて説明できるように復習すること 第2回授業までに、小学校、中学校、高等学校での英語教育の目的について、自分の言葉で説明できるように準備をしておくこと（標準時間120分）
2回	英語授業の目的と指導目標について説明できるように復習すること 第3回授業までに、小学校、中学校、高等学校の教科書の特徴を簡潔に説明できるように準備をしておくこと（標準時間120分）
3回	小・中・高の学習指導要領の特徴についてそれぞれ復習すること

	第4回授業までに、英語で授業を行うための工夫とその理由を考えておくこと（標準時間120分）
4回	ビジュアル教材の利点とICTを活用した教材の利点について、それぞれ説明できるように復習すること 第5回授業までに、中学校の教科書の中からコミュニケーション能力育成のための活動を選び、その特徴を説明できるように準備しておくこと（120分）
5回	コミュニケーション活動も取り入れた文法指導について、授業の流れを説明できるように復習すること 第6回授業までに、教科書を参考にプロジェクト学習の例を調べ、その内容を説明できるように準備しておくこと（120分）
6回	帯学習の利点を説明できるように復習すること 第7回授業までに、小学校英語活動について調べておくこと（120分）
7回	発表のリフレクションをまとめること 第8回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと（120分）
8回	発表のリフレクションをまとめること 第9回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと（120分）
9回	発表のリフレクションをまとめること 第10回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと（120分）
10回	発表のリフレクションをまとめること 第11回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと（120分）
11回	自律した学習者を育成するための支援について、わかりやすく説明できるように復習すること 第12回授業までに、小・中・高の教科書から学習内容項目をひとつ選び、家庭学習用の宿題を考案してくること（120分）
12回	授業と宿題のつながりについて説明できるように復習すること 第13回授業までに、「指導と評価の一体化」について調べ、具体例を考案してくること（120分）
13回	小・中・高での評価の特徴について、説明できるように復習すること 第14回授業までに、英語授業を通して「育てたい生徒像」について項目を考え、その根拠をまとめてくること（120分）
14回	英語授業の中で自分が目指す「理想の教師像」についてまとめること 第15回授業までに、第1回から14回の中で作成した活動指導案、宿題プリント、発表時の画像、講義の記録などの資料をまとめておくこと（120分）
15回	ポートフォリオを完成し、第1回～15回までの学びを振り返り、系統立てて説明できるように理解を深めておくこと（120分）
16回	第1回～15回までに内容を理解し、復習しておくこと（180分）

講義目的	現在の日本の英語教育を理解するために、基本的な知識や授業実践について体得することを目的とする。 英語教師として授業をデザインするための実践的知識を理解し、指導技術を身に付け、それらの学びを基にして、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となって模擬授業を行う力を習得する。ディスカッションやポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師の礎を身に付ける。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）のAと深く関連している。
達成目標	1) 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を関連付けられる(A) 2) 教育現場での実践的な英語指導法を具体的に説明できる(A) 3) 学習指導要領をもとに、生徒に即した英語科活動デザインを応用することができる(A) 4) 模擬授業として授業発表することができる(A) ※（ ）内は中等教育学科（英語教育コース）の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語教育、学習指導要領、4技能5領域、授業デザイン、模擬授業、グローバル人材育成、アクティブラーニング、コミュニケーション能力、学習支援
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・定期試験による評価50%（達成目標1）、2を確認）、模擬授業による評価25%（達成目標3）、4を確認）、レポートによる評価25%（達成目標1）、2を確認）により評価し、統計が60%以上を合格とする。
教科書	中学校英語教科書『New Crown』（1、2、3年生用）／三省堂／978-4385705118、978-4385705125、978-4385705132 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編／文部科学省／978-4304051692
関連科目	英語科教育法Ⅱ／英語科教育法Ⅲ／英語科教育法Ⅳ
参考書	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法／酒井 英樹 他(著)／大修館書店／978-4-469-24622-3
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844

	E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー：火曜日 2・3限
授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションやペアワークの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・プレゼンテーションや模擬授業の場面では、作成した教材、配布したハンドアウト、発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・模擬授業を行う。 ・模擬授業では、各自が授業デザインを行った教案に基づいて授業発表し、その発表の自己評価・相互評価を行う。 ・現在教育現場で取り組まれている言語活動を体験し、その特徴についてグループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・課題は採点后、返却する。 ・発表及び模擬授業に対するフィードバックは、発表後のディスカッション・教員によるコメント ・ルーブリックによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	講義では模擬授業をはじめ、グループ活動、ペアワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	英語科教育法Ⅱ（FES04400）
英文科目名	Teaching of English II
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ALTとのチームティーチングについて理解する （１）日本の英語教育におけるALTの存在 （２）チームティーチングの意義とその役割：教室内でのALTの役割とJTEの役割
2回	学校におけるICTやビジュアル教材の活用について学習する （１）デジタル教科書の活用と視聴覚教材の効果 （２）学習指導案
3回	4技能5領域の指導（リスニング，リーディング）について理解する （１）何を聞かせるのか，何を読ませるのか （２）学習指導案
4回	4技能5領域の指導（スピーキング，ライティング）について理解する （１）何を話させるのか，何を書かせるのか （２）学習指導案
5回	授業デザインの手法について考察する （１）授業デザインと教案の書き方 （２）5領域を組み込んだ学習指導案の作成 （３）使用テキストと発表順の決定
6回	中学校・高等学校の文法指導について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
7回	中学校・高等学校の音読指導について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
8回	中学校・高等学校の教科書を用いた指導について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
9回	中学校・高等学校の教科書導入指導について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
10回	中学校・高等学校の英語指導・高等学校で用いられる単元別教材について考察する （１）Bloom's Taxonomyをもとにした教材
11回	中学校・高等学校の英語指導・TBLTについて理解する （１）Task-based language teaching
12回	中学校・高等学校のTBLTの授業について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
13回	中学校・高等学校の帯活動について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
14回	高等学校のディベートの指導について協議する （１）学生による模擬授業 （２）全体によるリフレクション及びディスカッション
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを実施する
16回	1回～15回の総括を説明し，最終評価試験の実施する

回数	準備学習
1回	授業内容の確認すること 第2回授業までに，ICTを使った英語活動を考案しておくこと（120分）
2回	ICTを用いた授業やビジュアル教材の利点と欠点を説明できるように復習すること 第3回授業までに，学習指導案の内容を説明できるように準備すること（120分）
3回	学習指導案を作成しておくこと 第4回授業までに，中学校，高等学校の教科書からスピーキングとライティング指導における特徴を説明できるように準備すること（120分）
4回	スピーキング指導とライティング指導における留意点を説明できるように，復習すること

	第5回授業までに、授業デザインで大切なことを調べ、説明できるように準備すること（120分）
5回	学習指導案の作成について復習すること 第6回授業までに、担当者は中学校または高等学校の授業発表の準備を行うこと（120分）
6回	発表授業のリフレクションをまとめること 第7回授業までに、担当者は中学校または高等学校の授業発表の準備を行うこと（120分）
7回	発表授業のリフレクションをまとめること 第8回授業までに、担当者は中学校または高等学校の授業発表の準備を行うこと（120分）
8回	発表授業のリフレクションをまとめること 第9回授業までに、担当者は中学校または高等学校の授業発表の準備を行うこと（120分）
9回	発表授業のリフレクションをまとめること 第10回授業までに、英語授業で用いるワークシート作りについて説明できるように準備を行うこと（120分）
10回	発表授業のリフレクションをまとめること 第11回授業までに、中学校・高等学校の英語授業での言語活動について調べる（120分）
11回	Bloom's Taxonomyについて説明できるように復習すること 第12回授業までに、中学校または高等学校でのスピーキングを中心とした授業発表の準備を行うこと（120分）
12回	Task-based Language teachingによる教材を作成し、発表の準備をすること 第13回授業までに、担当者は中学校または高等学校の授業発表の準備を行うこと（120分）
13回	発表授業のリフレクションをまとめること 第14回授業までに、担当者は中学校または高等学校の模擬授業の準備を行うこと（120分）
14回	発表授業のリフレクションをまとめること 第15回授業までに、1回から14回の中で作成した学習指導案、発表時の画像、リフレクション、講義の記録などの資料をまとめておくこと（120分）
15回	ポートフォリオを完成し、第1回～15回までの学びを振り返り、系統立てて説明できるように理解を深めること 実際に授業を行った手ごたえや改善点、他の授業者からの学びも含めて振り返りを行うこと（120分）
16回	第1回～15回までに内容を理解し、復習しておくこと（180分）

講義目的	現在の教育現場における英語教育実践の特徴を理解し、授業実践者としての視点とスキルを体得することを目的とする。聞くこと、読むこと、話すこと〔発表〕、話すこと〔やり取り〕、書くことの4技能5領域を総合的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を育む授業デザインを理解する。講義での学びを基にして、中学校・高等学校での授業案を作成し、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となって、模擬授業を行う力を習得する。互いにディスカッション行ったあと、ポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師としての礎を習得する。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）のAと深く関連している
達成目標	1) 中学校および高等学校の英語科において授業をデザインする中で必要とされる知識と授業実践力を関連付けられる(A) 2) 学んだ英語を模擬授業を行うための英語力に活用することができる(A) 3) 4技能5領域を統合的に織り交ぜた学習指導案を作成し、その妥当性について説明することができる(A) 4) 生徒の学習段階に応じた授業実践を模擬授業で発表することができる(A)
キーワード	英語教育、学習指導要領、4技能5領域、授業デザイン、模擬授業、チームティーチング、Assistnat Language Teacher、グローバル人材育成、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、学習支援
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・定期試験による評価50%（達成目標1）、2を確認）、模擬授業による評価25%（達成目標3）、4を確認）、レポートによる評価25%（達成目標1）、2を確認）により評価し、統計が60%以上を合格とする。
教科書	中学校英語教科書『New Crown』（1、2、3年生用）／三省堂／978-4385705118、978-4385705125、978-4385705132 高等学校英語教科書『UNICORN English Communication I』／文英堂／ASIN: 4578280047 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編／文部科学省／978-4304051692
関連科目	英語科教育法Ⅰ／英語科教育法Ⅲ／英語科教育法Ⅳ
参考書	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法／酒井 英樹 他(著)／大修館書店／978-4-469-24622-3
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844 E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー：火曜日 2・3限

授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションやペアワークの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイトなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・プレゼンテーションや模擬授業の場面では、作成した教材、配布したハンドアウト、発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・模擬授業を行う。 ・模擬授業では、各自が授業デザインを行った教案に基づいて授業発表し、その発表の自己評価・相互評価を行う。 ・現在教育現場で取り組まれている言語活動を体験し、その特徴についてグループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・課題は採点后、返却する。 ・発表及び模擬授業に対するフィードバックは、発表後のディスカッション・教員によるコメント ・ルーブリックによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	講義では模擬授業をはじめ、グループ活動、ペアワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	英語科教育法Ⅲ（FES04500）
英文科目名	Teaching of English III
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	海外の英語教育と日本の英語教育について理解する
2回	中学校での5領域を統合的に含んだ創作活動について考察する （1）4技能5領域をバランスよく取り入れた活動 （2）生徒の成長をサポートする授業展開
3回	中学校での4技能5領域を統合的に含んだ創作活動の実際とその工夫を考察する （1）中学校学習指導要領における活用型学習 （2）4技能5領域を高める効果的な発表活動
4回	高等学校学習指導要領における授業設定（思考力、判断力、表現力の育成）を学習する （1）英語表現と論理・表現
5回	論理的思考を育成する授業を理解する （1）英語科の授業を通して育成する論理的思考
6回	高等学校におけるライティングによる英語表現を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）ブックレポートの書き方とその指導（全国ブックレポートコンテスト）
7回	高等学校におけるライティングによる英語表現を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）エッセイの書き方とその指導（高校生エッセイコンテスト）
8回	高等学校におけるスピーキングによる英語表現を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）トピックの選定から評価まで
9回	高等学校におけるスピーキングによる英語表現を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）ディベートの指導と実践
10回	高等学校における多読指導と授業研究を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）多読指導のための教材選び
11回	中学校・高等学校におけるシャドーイング指導と授業研究を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）シャドーイングによる効果と指導
12回	教案から見る授業デザイン研究を協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）教案から見えるもの
13回	英語科の評価と授業研究について協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）指導と評価の一体化
14回	英語科のテスト作成と評価について協議する （1）学生による発表と授業研究 （2）テスト作成—その目的と評価
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを実施する （1）学生による発表と授業研究 （2）振り返り
16回	1回～15回の総括を説明し、最終評価試験の実施する

回数	準備学習
----	------

1 回	授業内容の確認 第 2 回授業までに、海外の英語教育と日本の英語教育の相違点を説明できるように復習すること（120分）
2 回	4 技能 5 領域を統合的に用いた創作活動を説明できるように復習すること 第 3 回授業までに、学習指導案の内容を説明できるように準備すること（120分）
3 回	紹介された授業例を参考に、オリジナルの創作活動を作成すること 高等学校における思考力・判断力・表現力を高める授業例を準備すること（120分）
4 回	中学校学習指導要領の目標を説明できるように復習すること 第 5 回授業までに、「論理的思考」について大切なことを調べ、説明できるように準備すること（120分）
5 回	英語科の授業で論理的思考を育成するための手法について説明できるように復習すること 第 6 回授業までに、ブックレポートについて調べておくこと。また担当者は発表の準備を行うこと。（120分）
6 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 7 回授業までに、英語で書くエッセイについて説明できるように調べておくこと。また担当者は発表の準備を行うこと。（120分）
7 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 8 回授業までに、スピーチ作成における留意点について説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
8 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 9 回授業までに、ディベートの特徴について説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
9 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 10 回授業までに、英語授業で行う多読のとくちょうについて調べておくこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
1 0 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 11 回授業までに、英語学習におけるシャドーイングの効果を説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
1 1 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 12 回授業までに、英語授業の教案作成における留意点を説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
1 2 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 13 回授業までに、英語科における評価の観点について説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
1 3 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第 14 回授業までに、テストづくりの留意点を説明できるように準備を行うこと。また担当者は発表の準備を行うこと（120分）
1 4 回	中学校・高等学校での英語科における評価について復習をすること 第 15 回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと。また、1 回から 14 回の中で作成した学習指導案、発表時の画像、リフレクション、講義の記録などの資料をまとめておくこと（120分）
1 5 回	ポートフォリオを完成し、第 1 回～15 回までの学びを振り返り、系統立てて説明できるように理解を深めること 実際に授業を行った手ごたえや改善点、他の授業者からの学びも含めて振り返りを行うこと（120分）
1 6 回	第 1 回～15 回までに内容を理解し、復習しておくこと（180分）

講義目的	日本の英語教育について海外のものと比較しながら、新学習指導要領をもとに、現在の英語教育実践の特徴を理解し、授業実践者としての視点とスキルを体得することを目的とする。そして、5 つの領域を統合的に高めていける授業デザインについてを理解する。また、講義の内容を踏まえて、中学校・高等学校での授業案を作成し、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となって、模擬授業を行う力を身に付ける。模擬授業後は互いのディスカッションとポートフォリオによる振り返りを通して、自律し学び続ける教師としての礎を習得する。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）の A と深く関連している。
達成目標	1) 中学校および高等学校の英語科において授業をデザインする中で必要とされる知識と授業実践力を関連付けられる(A) 2) 学んだ英語を模擬授業を行うことのできる英語力に応用することができる(A) 3) 4 技能 5 領域を統合的に織り交ぜた学習指導案を作成し、その妥当性について説明することができる(A) 4) 生徒の学習段階に応じた授業実践を模擬授業で発表することができる(A)
キーワード	英語教育、学習指導要領、4 技能 5 領域、授業デザイン、模擬授業、チームティーチング、Assistnat Language Teacher、グローバル人材育成、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能

	力, 学習支援
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・定期試験による評価50%（達成目標1）, 2)を確認）, 模擬授業による評価25%（達成目標3）, 4)を確認）, レポートによる評価25%（達成目標1）. 2)を確認）により評価し, 統計が60%以上を合格とする。
教科書	中学校英語教科書『New Crown』（1, 2, 3年生用）／三省堂／978-4385705118, 978-4385705125, 978-4385705132 高等学校英語教科書『UNICORN English Communication I』／文英堂／ASIN: 4578280047 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説／文部科学省／978-4304051692
関連科目	英語科教育法Ⅰ／英語科教育法Ⅱ／英語科教育法Ⅳ
参考書	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法／酒井 英樹 他(著)／大修館書店／978-4-469-24622-3
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844 E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー：火曜日 2・3限
授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションやペアワークの場面では, 特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は, 成績評価の対象としない場合もあるので, 絶対に行わないようにすること。 ・プレゼンテーションや模擬授業の場面では, 作成した教材, 配布したハンドアウト, 発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・模擬授業を行う。 ・模擬授業では, 各自が授業デザインを行った教案に基づいて授業発表し, その発表の自己評価・相互評価を行う。 ・現在教育現場で取り組まれている言語活動を体験し, その特徴についてグループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・課題は採点后, 返却する。 ・発表及び模擬授業に対するフィードバックは, 発表後のディスカッション・教員によるコメント・ルーブリックによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので, 配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして, 現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	講義では模擬授業をはじめ, グループ活動, ペアワーク, プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	英語科教育法Ⅳ（FES04600）
英文科目名	Teaching of English Ⅳ
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	様々な教育現場と英語授業の実践を考察する （１）教育現場での英語授業分析①
2回	理想の授業と実際の授業との距離を縮めるための手法を考察する （１）教育現場での英語授業分析② （２）学習指導案（日本語）構成の確認
3回	教育実習に向けて、英語による学習指導案を作成する （１）英語による学習指導案の作成について
4回	教育実習に向けて、英語・日本語による学習指導案から授業展開を考察する （１）学習指導案に基づく授業実践
5回	教育実習に向けて、中学校でのデジタル教科書の使用を検討する （１）デジタル教科書を用いた実践について （２）デジタル教科書の利点と欠点
6回	教育実習に向けて、高等学校でのデジタル教科書の使用を協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）アナログ教材とのバランス
7回	教育実習に向けて、様々なICTを用いた授業展開を協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）パワーポイントを用いた英語活動
8回	教育実習に向けて、英語による授業実践について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）ティーチャートークの意義と英語で授業をするためのサポート
9回	教育実習に向けて、教材開発について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）言語活用活動作り，プリント作り，英語科通信
10回	教育実習に向けて、国際交流と英語教育について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）教育実践と国際理解教育，多文化共生教育，及び国際開発教育
11回	教育実習に向けて、これからの英語教育と英語教師に求められる力について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）海外及び日本の動向から
12回	教育実習に向けて、自主研修型教師について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）自主研修型教師とは：教師同士のつながり
13回	教育実習に向けて、教材作りと授業での活用について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）効果的な教材の工夫
14回	教育実習に向けて、生徒に合わせた学習指導について協議する （１）学生による発表と授業研究 （２）ペアワークやグループワークの効果
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを実施する （１）学生による発表と授業研究 （２）振り返り
16回	1回～15回の総括を説明し，最終評価試験の実施する

回数	準備学習
1回	授業内容を確認すること 第2回授業までに，参観した英語授業について発表できるように復習すること（120分）
2回	参観した英語授業について，その特色を説明できるように復習すること 第3回授業までに，日本語による学習指導案を作成すること（120分）
3回	英語による学習指導案の様式について，説明できるように復習すること 第4回までに，英語による学習指導案を作成すること（120分）

4 回	英語または日本語による学習指導案を作成すること 第5回授業までに、現在英語科で扱われているデジタル教科書について調べ、説明できるように準備すること（120分）
5 回	デジタル教科書の特性について説明できるように復習すること 第6回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと。（120分）
6 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第7回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと。（120分）
7 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第8回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
8 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第9回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
9 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第10回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
10 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第11回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
11 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第12回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
12 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第13回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
13 回	発表授業のリフレクションをまとめること 第14回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと（120分）
14 回	中学校・高等学校での英語科における評価について復習をすること 第15回授業までに、1回から14回の中で作成した学習指導案、発表時の画像、リフレクション、講義の記録などの資料をまとめておくこと（120分）
15 回	ポートフォリオを完成し、第1回～15回までの学びを振り返り、系統立てて説明できるように理解を深めること 実際に授業を行った手ごたえや改善点、他の授業者からの学びも含めて振り返りを行うこと（120分）
16 回	第1回～15回までに内容を理解し、復習しておくこと（180分）

講義目的	英語科教育法Ⅳでは、英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを礎にしながら、昨今、実際の教育現場で展開されている様々な英語教授法を学んだり、著名な英語教師の授業を見たりすることから、英語授業のカギとなる要素を体得する。同時に、海外や日本の教師教育における研究にも触れ、教職に就いた後も自ら研修を重ねていく教師としてのあり方について理解する。教育実習に向けて、英語を教える英語科教師としてだけでなく、授業を通して生徒たちの人としての成長にも寄り添える教師として必要な教師力を習得する。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）のAと深く関連している。
達成目標	1)実際の授業実践の観察から、その特徴や工夫点を学び、それらを参考にしながら、自らの授業における知識と授業実践力を関連付けられる(A) 2)学んだ英語表現を実際の模擬授業に応用することができる(A) 3)4技能5領域を統合的に織り交ぜた授業をデザインし、その妥当性について説明することができる(A) 4)自己研修を重ねていく教師としての資質を身につけ、その方策について述べる(A)
キーワード	英語教育、学習指導要領、4技能5領域、授業デザイン、模擬授業、ティームティーチング、Assistnat Language Teacher、グローバル人材育成、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、学習支援
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・定期試験による評価50%（達成目標1）、2を確認）、模擬授業による評価25%（達成目標3）、4を確認）、レポートによる評価25%（達成目標1）、2を確認）により評価し、統計が60%以上を合格とする。
教科書	中学校英語教科書『New Crown』（1、2、3年生用）／三省堂／978-4385705118、978-4385705125、978-4385705132 高等学校英語教科書『UNICORN English CommunicationⅠ』／文英堂／ASIN: 4578280047 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編／文部科学省／978-4304051692
関連科目	英語科教育法Ⅰ／英語科教育法Ⅱ／英語科教育法Ⅲ
参考書	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法／酒井 英樹 他(著)／大修館書店／978-4-469-24622-3
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844 E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー：火曜日 2・3限

授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションやペアワークの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイトなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・プレゼンテーションや模擬授業の場面では、作成した教材、配布したハンドアウト、発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・模擬授業を行う。 ・模擬授業では、各自が授業デザインを行った教案に基づいて授業発表し、その発表の自己評価・相互評価を行う。 ・現在教育現場で取り組まれている言語活動を体験し、その特徴についてグループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・課題は採点后、返却する。 ・発表及び模擬授業に対するフィードバックは、発表後のディスカッション・教員によるコメント ・ルーブリックによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	講義では模擬授業をはじめ、グループ活動、ペアワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	道德教育の理論と方法 (FES04700)
英文科目名	Theory and Approach of Moral Education
担当教員名	野島淑子* (のじまよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、学校における道德教育、「道德の時間」の意義について確認し、31年度からの「道德の時間」の教科化についての経緯にも触れたい。そして、学校教育活動における道德教育実践の紹介、教員としての心構えや願い、講義内容の紹介を行う。また、今まで体得している自身の道德性について再考する機会とする。講義における約束事や認定評価について説明する。
2回	人間の道德性の発達を調査実証して理論的に確立したコールバーグの「道德性認知発達理論」について学習する。コールバーグのジレンマ資料で実践を試み、自らの道德性に向き合う。さらにグループセッションを通して他者の思考判断に触れることで、自らの価値体系を鑑みる機会とする。一般に他律から自律へと発達する人間の道德性発達過程における環境（学校及び家庭や地域等）による影響力の大きさ、自らの体験に照らした価値把握について考え、学校における道德教育の意義を理解する。
3回	現在、日本の文化や日本人の思考に共通する源を理解するためには、日本古来の人々の精神的拠り所は何であったかを知り、学問的思考を確立した近代の教育体系や社会状況と道德教育の歴史を紐解くことによって理解することができる。近代道德の歴史と課題①「近代から太平洋戦争まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
4回	挙国一致の戦時体制の中で、多くの若者を死に追いやった反省を踏まえて戦後、基本的人権の尊重を柱に社会情勢はめまぐるしい変化をとげ、人々の生活や価値観は大きく代わり、今や世界の先進国日本として大きく飛躍発展した。戦後70年、学校教育、特に道德教育がいかなってきたか、そして「修身科」のトラウマを越えて設定された「道德の時間」が「道德科」として教科化されるに至った経緯を知ることによって、道德教育について理解を深める。道德教育の歴史と課題②「戦後から現在まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
5回	学校における道德教育の要となる「道德の時間」が設置されてから約60年、紆余曲折を経てこの度、領域から教科として「道德科」が新設された。現在の学校現場における道德教育及び「道德の時間」の現状と課題について理解し、道德教育の歴史を振り返りながら、教師として子どもたちになすべきことは何か、自分はどうかありたいか、どうあるべきか考える。「中学校学習指導要領解説 道德編」を基に、改訂版も踏まえて、学校における道德教育と「道德の時間」の目標について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
6回	日々の人間の行動の判断基準となる道德的価値は何か、生育歴の中で培った価値観は人それぞれである。人間が社会集団の中で生きて行かなければならない存在であるならば、それらの価値は何らかの形で社会規律に影響を受ける。よりよく生きるための基盤となる道德性の窓口となる「内容項目」について理解を深め、自己の構築してきた道德的価値を再確認する。「内容項目と指導の観点①」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Aの視点、Bの視点について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ担当の価値項目について自分の体験を踏まえ、自主作成した掲示を下に考えを発表する。
7回	「内容項目と指導の観点②」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Cの視点、Dの視点について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ担当の価値項目について自分の体験を踏まえ、自主作成した掲示を下に考えを発表する。
8回	学校における道德教育の組織体制や道德学習計画等についてその実際を学ぶ。道德教育は、学校教育活動全体を通して行われ、「道德の時間」はその要となる。そのため「道德の時間」との関連を表した「全体指導計画」及び「道德の時間」の「道德年間指導計画」は実践の基になる。そして、「道德の時間」を運営指導するための拠り所となる「道德学習指導案」について解説する。他教科とは異なる指導形態となる道德の時間は、毎時間の学習指導案は不可欠であり、指導者の価値観や生徒理解、また指導工夫や準備が大切になってくる。毎日の多忙な業務の中で、道德の時間のための準備時間は負担になる現状もある。道德教育の課題について知り、「道德の時間」の教科化に向けていかにあるべきか主体的に考える。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
9回	学校におけるすべての教育活動との関連において、道德教育の目標、「道德の時間」の目標及び授業の観点について解説する。道德の時間は、「ねらい」とする道德的価値を如何に自覚させるかにある。そのため資料の選択の工夫、さらに授業を展開するための「道德学習指導案」作成の仕方を解説する。指導者の発問と生徒の反応が主体となる授業展開は他教科の形式とはやや異なる。価値について生徒にしっかり考えさせなければならない。資料の具体例を基にして、「学習指導案の作

	り方とその工夫（「ねらい」を達成するための工夫と観点）について学習する。
10回	「道徳学習指導案の作り方の工夫（資料分析と学習指導案）」について学習する。道徳的価値の把握には心に響く資料が不可欠であるが、資料はあくまで手段であり、資料の解釈に終わってはならない。資料の最も適したねらいとする価値を定め、どのような構成で展開していくか事前に考えておかなければならない。そのためにまず資料分析を行う必要がある。題材資料でグループ討議をしながら資料分析を行い、資料中の登場人物の心情や行動について理解を深め学習指導案作成の演習をする。ねらいとする価値、展開における発問構成をグループワークにより意見を出し合いまとめる。授業展開を想定して発問構成についての意図をグループ毎に発表する。互いに道徳学習指導案の作成技能を高める。
11回	前時の添削した「資料分析」及び「学習指導案」を基に自身で検討する。学習指導案は指導者の価値観や願いが表れたものでないと「ねらい」に迫ることは出来ない。実際に授業が出来る学習指導案を作成するには、主人公が価値を把握した過程を生徒に自分と重ねて追体験させることが望ましい。次の提示資料でグループワークによる演習を行い道徳学習指導案作成のノウハウを習得する。どのような発問が生徒の反応を引き出せるか、グループワークにより意見交換を図りながら、生徒に取って考えやすい発問を自問自答しながら深めていく。作成した学習指導案は提出する。
12回	それぞれが選択した資料を持ち寄りグループ内で検討する。他者が心を動かされた資料を知ることにも参考になる。グループ内で協議して選択した一つの資料を基に、資料分析及び学習指導案を作成する。展開における発問構成、発問の内容など基本的な部分をグループワークで意見交換をしながら集約していく。その過程で自己の考えや展開方法を深めていく。予想される生徒の反応や指導上の留意点等は、各自の考えや価値感を鑑みながらそれぞれ独自の学習指導案を完成させる。
13回	道徳学習指導案があれば「ねらい」を達成する授業展開が出来るわけではない。自分で作成することに意義があり、その上で「道徳授業の工夫と観点」を学習する。道徳の授業は、生徒が教師の構成した発問に感じたり考えたりしたことを発表することで成り立つ。資料中の人物が価値を把握する過程、行動、心情を自分と重ねて考えられるように、補助発問や切り返しの発問など臨機応変の対応が求められる。教師の願いと共に生徒受容の姿勢も大切なことである。また、資料内容の理解を深めるための「ねらい」を考えやすくする視覚的な場面絵や板書の工夫、さらに授業体型は大切な要素となる。グループで討議し考える。
14回	グループ代表1名をによる模擬授業を行う。代表者自身の作成した道徳学習指導案をもとに模擬授業を体験する。授業者にとっては頭で考えた授業展開と実際の授業との違いや気づきを体験することの意義は大きい。一方仲間による模擬授業を通して、生徒の立場と教師の視点で授業に参加することは大変有意義なことである。授業後授、授業者の感想や互いの授業評価を発表し合い、それぞれ参考にしたいことや課題を共有することで道徳授業への理解と意欲を高めることができる。
15回	まとめる。道徳の時間は、学校の道徳教育の要としての位置づけがある。よって道徳の時間だけでなく事前・事後の指導、他の教育活動との関連も図る必要がある。また、よりよい人間関係を構築する学級経営を軸に家庭・地域との連携協力の工夫や手段も大きな要素である。次年度から「道徳科」として検定教科書を用いての授業が実施されることになり、新たに評価が必要になってくる。生徒に取って励みになる評価が問われている。道徳の時間は、生徒と教師が互いによりよい生き方を求めて同じ土俵で学び合う時間であることを再確認する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	{予習} 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」p1～P7までを読んでおくこと。そして、改訂の基本方針や要点を理解し、自身の感想や、考えをまとめておくこと。自身が学んできた「道徳の時間」を思い出し、学校における道徳教育とは何か、また、子どもの発達段階において、自分は何時どのようにして社会性（道徳性）を体得してきたのか振り返ってみること。そして、学齢期の子どもたちの道徳性育成と将来の社会的自立に向けて、教師としてどのような支援が必要であるか考えておくこと（標準学習時間180分）。
2回	{復習} コールバーグの提唱した「道徳性認知発達理論」の学びと理解を通して、人の成長段階における道徳性の発達・取得は年齢より環境によって大きく影響されることから、日々自らが行動の判断としている道徳的価値基準はどうか、現在自分がどのような価値体系（自分が大切にしている価値観：アンケートの結果を見て）を持っているかについて自己と対話しておくこと。（標準学習時間90分） {予習} 日本の綿々と受け継がれてきた文化習慣や精神構造に目を向けておくこと。明治以後の歴史については浅い知識に留まっている傾向がある。さらに教育の観点から歴史を紐解くことも少ない。明治から世界大戦前の人々の生活や考え方について資料があれば触れておくこと（標準学習時間90分）。
3回	{復習} 急速な富国強兵の国家建設のために、国民としての自覚と使命感の育成に道徳「修身科」が大きく関わり、子ども達を戦争へと駆り立て、多くの若者の命が失われた敗戦は今なお道徳教育に影を落としている。今後の道徳教育について、どうあればよいかな自分なりの考えを構築すること。（標準学習時間120分） {予習} 過酷な敗戦を乗り越え、戦後日本の高度成長期における社会情勢や人々の価値観の変異を国際的な視点から理解しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	{復習} 子ども達を戦争に向かわせた戦前の「修身科」は、戦後も長く学校現場に影を落とし、道

	徳教育が定着しなかった状況について考え、自分が記憶にある教えやしつけ、または自分が受けてきた学校における道德教育、「道德の時間」を振り返り、教科化となる「道德の時間」について自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間90分） {予習} 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」P8～P17までを読み、道德科の目標についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
5回	{復習} 教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」p.1～17を再度読み、生徒を指導する教師の視点で、道德教育、及び「道德の時間」についての理解を深め、課題についてさらに自分の見解をまとめておくこと。（標準学習時間30分） {予習} 教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」P19～P43を読み内容項目についてまとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を基に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと（標準学習時間150分）。
7回	{復習} 他者の考えや感想等の発表を聞くことを通して、自身の価値観について再確認すること。Cの視点からDの視点までの13項目の内容項目について、自身の中にある道德的価値を見つめ、「道德の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し指定された期限までに提出すること。（標準学習時間120分） {予習} 教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」p.70～82を読み、学校における指導計画についてまとめておくこと。（標準学習時間60分）。
9回	{復習} 一つの資料には、通常いくつかの価値が含まれている。その資料で最も有効に考えさせることが出来る価値は何かを見極めることも指導者にとっては授業の善し悪しを決めることにつながる。提示された資料を自身の判断で考えてみる。（標準学習時間60分） {予習} 道德の時間の目的は、生徒が大切だと思う価値を自身の中に如何に取り込むことができるかにある。その価値を獲得した人物を通して、その価値の大切さに触れることである。道德学習指導案は、資料中の人物の人間関係、及び環境を十分理解しておく必要がある。資料分析の例を見ながら考えておくこと。（標準学習時間 60分）
10回	{復習} グループ討議によってまとめた発問構成、及び他のグループの発表を参考に、自身で考えた資料分析により、学習指導案を完成させ提出すること。（標準学習時間180分）
11回	{復習} グループで討議により理解は深まるが、発問構成は同じでも全く同じ学習指導案にはならない。自身が授業展開するための留意点を含め独自の学習指導案を完成させ次時に提出すること。（標準学習時間150分） {予習} 道德授業は、価値を把握させるための手段となるが、どのような資料が適しているかの選択ができることも大切である。自身が生徒の把握させたい価値、そのための最も適する資料を各自選択してくる。各自が選んだ資料を持ち寄ること。次時にグループでさらに一つの資料に絞り道德学習指導案を作成することとする。見本の学習指導案や添削返却された学習指導案を参考にして、自学しておくこと。（標準学習時間30分）
12回	{復習} グループで討議検討した指導過程を参考に独自の考えで学習指導案を完成させ次時に提出すること。（標準学習時間 120分） {予習} 他者の選択した資料についても展開を考えてみる。様々な資料や学習指導案に触れておくことは大切なことである。完成させた学習指導案が実際に授業展開できるか、シュミレーションする。生徒に取って難しい言葉や反応しにくい発問構成になっていないか、深く考えさせることができる発問かどうか検討しておくこと。（標準学習時間60分）
13回	{復習} 展開過程だけでなく、導入、終末、場面絵や板書計画など実際に授業展開する上で大切なことについて復習しておくこと。場面絵も含めて独自の板書計画を完成させ次時に提出すること。（標準学習時間120分） {予習} 道德の授業において大切なことは、資料の読み取りに終わることなく、自己の問題としてとらえ、「ねらい」とした価値を今後どのようにこれからの自分に生かしていけるかである。教師の観点、留意点がしっかりしていないと授業はねらいとする方向には行かないことがある。シュミレーションをしながら模擬授業の細案を考えること。（標準学習時間60分）。
14回	{復習} 模擬授業の授業者自身の感想や反省を聞くことは、大変参考になると同時に体験をすることで客観的な見方が出来る。模擬授業から得られた気づきや課題を元に自身の作成した学習指導案でどのような授業展開ができるかシュミレーションをしてみる。（標準学習時間90分） {予習} 道德の時間が教科化されることにより、検定教科書や評価の問題が課題となっている。「中学校学習指導要領 特別の教科 道德編」P109～118を読み、評価についての理解をしておくこと。
15回	日本人の学問に対する興味関心についての歴史的背景から日本人の精神活動や思考過程について考え、一般庶民の子ども達の教育が確立した日本の教育制度についても学んできた。教育が、日本の社会的経済的な発展の歴史と大きく関わり、過酷な敗戦は学校における道德教育に現在も影響を与えている。道德の時間の「教科化」を迎えるに当たり、道德の時間の指導や方法のスキルを通して、授業が出来ることが本講義の目標であるが、「温故知新」を胸に、教師として子ども達のよりよい生き方を支援する立場で、信念を持って道德教育に携わってくれることを願います。最終評価試験に向けて、復習しておくこと。

講義目的	学校教育の中で、教師の役割と責任は大きい。学校教育法の改定では、人格の形成の重要性と共に学校教育活動において、「知・徳・体」を備えた生徒の育成が求められている。近年の急激な社会
------	---

	情勢の変化の中で価値の多様化が進み、それは子どもたちにも影響し社会問題化している。深刻な いじめ問題と共に子どもたちの心の教育が問われている。特に、自我に目覚め、自らの生き方を模 索している生育期における道德教育の意義は大きい。学校教育の現状と課題を概観し、学校におけ る道德教育の基本的立場とその要となる「道德の時間」との関連について理解を深め、「道德の時 間」の充実を図るための方法と工夫を学ぶ。よりよく生きていくために、日々の行動の判断基準と なる道德性を育てるためにはどうすればよいか。「道德の時間」を展開するための「道德学習指導 案」作り方の演習を通して、「ねらい」とする道德的価値について考え、自覚させる観点と方法を 身につける。「道德の時間」の教科化実施に向けて、作成した道德学習指導案による模擬授業など の体験を通して実践への意欲を高める。また、誰しも願うよりよく生きるための道德性は、子ども たちに限らず教師にとっても生涯の課題である。「道德の時間」は、共に学び求めていくという姿 勢で、教師を目指す自身の道德性についても問い直す機会とする。 (国語教育コースEと英語教育コースBにもっとも強く関与)
達成目標	①学校における道德教育の現状と課題、日本が歩んできた道德教育の歴史について理解し説明する ことができる (J)。 ②全学校教育活動における道德教育の位置づけと目標、その要となる「道德の時間」の目標を達成 するための方策を示した「全体計画」を理解した上で、「道德の時間」の指導の方法や工夫を理解 し説明することができる (J)。 ③手段として用いる資料は、あくまで価値を自覚させるためのツールであることを理解し、資料を 読み取る力や感性を高め、また道德的価値の内容 (内容項目) についても自己の道德性を鑑みて理 解し、それらを表現することができる (J)。 ④自らが心に響く資料を用いて授業展開するための「道德学習指導案」を作成することができる (J)。 ⑤作成した学習指導案で実践した模擬授業を通してスキル養い、道德授業の実践意欲を高めること ができる (J)。 ⑥自身が担当した内容項目の価値、作成した学習指導案の構成、及び討議での学びを理解し、工夫 して発表することができる (J) ⑦「道德の時間」を有効にするためには、学級経営が基本であること、学校組織や家庭・地域の協 力が必要であることを踏まえて、人間関係構築の大切さを理解し説明することができる (J)。 ⑧次代を担う子どもたちを育てる教師としての使命感と責任感をもち、それらを表現することがで きる (J)。
キーワード	「よりよく生きて行くための基盤となる道德性」 ・ 「知・徳・体」を備えた生徒像 ・ 道德性 (価値 2 2 の内容項目) ・ 生きる力、子供の社会化
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	・ 毎時講義内容の感想意見レポート、内容項目まとめレポート、演習により作成した資料分析、道 徳学習指導案等の評価 (40%; 達成目標①～④ の評価) ・ 課題発表、グループ学習での発表 及び意欲態度、模擬授業への取り組みの評価 (10%; 達成目標⑤～⑦の評価) ・ 最終評価試験 (100点) の (50%; 達成目標①～⑧の評価) により成績を評価し、以上の総計で得点率60%以上 を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編／文部科学省／教育出版／9784316300849
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・ 「学校道德教育入門」 / 渡邊弘編 / 東洋館出版 ・ 「道德教育論」 / エミール・デュルケム (麻生誠・山村健訳) / 講談社学術文庫 ・ 「中学校道德教育の基本的課題」 / 金井 肇 / 明治図書出版 ・ 「心のノート」を生かす道德授業 / 金井 肇編 / 明治図書出版 ・ 「私たちの道德 中学生版」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・ 4 回欠席までは認定試験の受験資格はあるが、原則公欠の欠席も含む。但し病気等やむを得ない 場合は届け出ること。 ・ 各講義でのレポート、及び課題レポート、演習による学習指導案等は、提出日を厳守すること。 ・ 後半グループによる演習を行うが、欠席の場合連絡ができる体勢を保つこと。 ・ 30 分以上の遅刻や早退は理由を届け出ること、無断の場合は欠席扱いとする。 ・ 講義資料は講義開始時に配付する。欠席者に対しては後日の配布をするので申し出ること。 ・ 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	講義人数にも拠るが、4～5人のグループを編成し、固定席とする。 講義終了10分～15 分はグループ意見交換と個人レポートを提出する。また、講義内容によってグループ発表を行い全 員の共有とする。 道德性「内容項目」については、解説を読み、担当の項目について各自黒板 提示と口頭発表をする。 後半はグループ演習とする。グループワーク、ディスカッションによ って、道德学習指導案等が自分で作成出来るようにする。
課題に対するフィードバック	・ 課題とした内容項目レポート、各講座で演習作成した道德学習指導案、資料分析、板書計画等に ついては、それぞれ次時に添削・点検し各自に返却する。 ・ 最終評価試験のフィードバックとして、Mono-campusに模擬解答の提示と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供してい ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	元 中学校教員。 理科担当が主であるが、道徳教育に長期に関わり、自校だけでなく他校の教員の研修や指導を行ってきた。それを元に、道徳教育の理論や「道徳の時間」の重要性だけでなく、実際に道徳授業ができるためのスキルや工夫、及び方法を十分体得できるよう授業を行いたい。学校現場に入ると自身の専門教科や生徒指導、その他の雑務の多さで、道徳の時間の指導が対処的になりやすい。教科化の実施に当たり、自信を持って生徒の育成に臨んで欲しい。
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法 (FES04800)
英文科目名	Theory and Approach of Special Activities
担当教員名	松田智子* (まつだともこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	本講義では、学校教育課程における特別活動の教育的意義、教師の役割および基本的な指導の在り方について理論的かつ実践的に講義を行うものである。
準備学習	指定テキスト及び該当の学習指導要領の解説書頁を事前に読んでおくこと。また、理解しにくい語句等について調べておくこと。
講義目的	本講では、特別活動についての基礎的知識を習得し、学校教育の中でどのように展開するのか、どのような意義を持ち、どのような課題があるのか、生徒にどのような力を備えさせるべきかを学習する。特に、特別活動の内容の中で、その中核的な役割を果たしている「学級活動」を具体的に指導できる学級担任としての実践的力量を習得する。(中等教育学科のディプロマポリシー 国語教育コース：A,E 英語教育コース：Bに最も強く関与する。)
達成目標	①特別活動の意義と役割、目標を理解する。②特別活動の内容と特質を理解する。③学級担任としての学級づくり(学級経営)の視点から生徒の発達特性や社会文化の変化について理解する。④特別活動の具体的な活動を理解する
キーワード	学級経営、望ましい人間関係、合意形成と意思決定、なすことにより学ぶ、集団と個人、公共性、自己実現
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	配点は、毎回の講義中に課す小レポート50%(達成目標②③を確認)、授業への準備20%(達成目標④を確認)、授業中の発表(達成目標①④を確認)30%の割合で評価する
教科書	ERP出版/コードISBN978-4-907104-43-6/2018年/ 800円 特別活動の指導法―各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通して― 著者 松田智子、新川靖、林真太郎 学習指導要領、特別活動編 解説書(中学校と高等学校)文部科学省
関連科目	教育課程論、総合的な学習の指導法、道徳教育の理論と方法
参考書	特になし
連絡先	奈良学園大学 tomatsuda@naragakuen-u.jp
授業の運営方針	授業の初めと終わりには起立して、授業中の規律を大切にする。席は指定制とする。授業運営をサポートするSAを決める。毎回教科書を持参しているかのチェックを行う。
アクティブ・ラーニング	特別活動の3領域および学校行事の5領域において、学校現場で今日課題となっている具体的な事例を毎回指導者側から提示して、グループでディスカッションをして、発表を行う。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対しての、全体的な傾向及び指導者の見解については、毎回の授業の初めにコメントをする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	兵庫県宝塚市立良元小学校・教諭9年、宝塚市立宝塚第一小学校・教諭1年、芦屋市立宮川小学校・教諭6年、芦屋市立三条小学校・教諭4年、芦屋市立潮見中学校・校長2年、学級担任や管理職を経験したので、具体的な学校現場の課題が実感できるので、それをディスカッションのテーマとしてアクティブラーニングを行う。
その他(注意・備考)	

科目名	教育の方法と技術（FES04900）
英文科目名	Educational Approach and Techniques
担当教員名	尾島卓＊（おじまたく＊）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学校教育の制度化と教育方法への自覚
2回	教えることの「技術」と「思想」について解説する
3回	学級で教えることの思想と実践について解説する
4回	他者と出会い多様に学ぶことについて解説する
5回	参加としての学びとケアについて解説する
6回	教育評価のあり方をふまえた学習指導案の作成について解説する
7回	子どもの実態に応じた教材研究・教材解釈について解説する
8回	発問づくりの方法と集団思考の展開について解説する
9回	視聴覚教材の活用と板書の技術について解説する
10回	学習促進としての評価の技法について解説する
11回	学力基盤としての学習規律の形成と学習集団の創造について解説する
12回	子ども理解と学級経営の方法について解説する
13回	情報モラルを育み学びを拡張するICTの活用について解説する
14回	人間を「人間にする」教室空間の構成について解説する
15回	教科指導を充実させる学校図書館の利用

回数	準備学習
1回	教科書を準備し目次を読んでおくこと。（標準学習時間60分、以下同じ）
2回	教科書9～20頁を読んでおくこと
3回	教科書21～40頁を読んでおくこと
4回	教科書41～57頁を読んでおくこと
5回	教科書59～73頁を読んでおくこと
6回	教科書75～91頁を読んでおくこと
7回	教科書93～108頁を読んでおくこと
8回	教科書109～121頁を読んでおくこと
9回	教科書123～136頁を読んでおくこと
10回	教科書137～149頁を読んでおくこと
11回	教科書167～181頁を読んでおくこと
12回	教科書183～202頁を読んでおくこと
13回	教科書203～217頁を読んでおくこと
14回	教科書219～232頁を読んでおくこと
15回	教科書151～165頁を読んでおくこと

講義目的	本講は、現行中学校学習指導要領の「指導計画の作成等にあたって配慮すべき事項」に列挙されている事項に関連する教育方法を取り上げ、その思想と技術を理解することを目標とする。特に、戦後我が国において普遍化されてきた教育方法の科学性と教育技術が対象とする生徒の発達における多様性について理解を深めることに重点がある。
達成目標	（１）これまでに学んだ教職科目の知識をもとに教授－学習過程の基本的構造を説明することができる。（国語教育コースE；英語教育コースB） （２）現行学習指導要領において求められる新たな授業像について説明することができる。（国語教育コースE；英語教育コースB） （３）上述の新たな授業を構想・実践するための基本的な教育方法について説明することができる。（国語教育コースE；英語教育コースB）
キーワード	学習指導要領、教育技術、教育方法、授業研究
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ポートフォリオ50％、小レポート20％、最終レポート30％により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。但し、ポートフォリオにおいて基準点を設け、得点が50点満点中、30点以下の場合は不合格とする。
教科書	教師教育講座第9巻 教育方法技術論／深澤広明編著／協同出版／9784319106783
関連科目	教育課程論
参考書	中学校学習指導要領
連絡先	

授業の運営方針	事前にテキストを読んでおくこと。この過程で生まれた疑問は積極的に講義のなかで提出すること。また講義中で行う話し合い活動では、課題に即した主体的な参加を期待している。
アクティブ・ラーニング	講義の中で何回は、テキスト各章末にある課題に取り組むことにする。
課題に対するフィードバック	小レポートの評価は期末レポート前に行う。なお評価の観点は課題提出時に説明するので注意すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生徒・進路指導論 (FES05000)
英文科目名	Student/Career Guidance and Counseling
担当教員名	松岡 律 (まつおか だし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション・・・中等教育における生徒・進路指導の特性を理解する。
2 回	生徒理解の重要性と困難性・・・生育環境と思春期危機について理解する
3 回	学校内における問題と指導・・・生徒－生徒、生徒－教師関係について理解する。
4 回	学校外における問題と指導・・・校外における指導について理解する。
5 回	保護者との関係性・・・思春期親子を取り巻く状況を考える。
6 回	教育課程としての生徒・進路指導・・・組織づくり、計画・意識の共有について理解する。
7 回	学校－地域連携の構築と生徒・進路指導・・・地域のサポートのあり方について理解する。
8 回	学級経営と生徒・進路指導・・・個別指導と学級経営との相補的關係を理解する。
9 回	個別面談による指導の実際・・・指示的指導・非指示的指導の利点と問題を理解する。
10 回	関係諸機関との連携・・・教師の限界（守備範囲）を知る。
11 回	理想自己像と実社会との調停・・・職場体験学習機会の利用について理解する。
12 回	中学校における指導の実例とポイント・・・「介入」と「受容」のバランスを理解する。
13 回	高校における指導の実例とポイント・・・「進学か就職か」適正と可能性を見きわめる。
14 回	教育相談の限界を知る・・・学校× 家庭× 社会の関係性から理解する。
15 回	まとめ・・・生徒指導と進路指導の一体性を理解する。

回数	準備学習
1 回	小学校との違いについて考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	心身の発達と家庭環境について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	生徒と教師の関係性はどうか考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	教師の行う校外指導にどんなものがあるか整理しておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	保護者との協調・トラブルについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	学校組織としての指導のあり方はどうか考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	どのような形の地域サポートがあり得るか、考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	集団指導と個別指導の特徴について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	自身が経験した生徒指導面談について整理しておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	教師の職分について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	キャリア教育の意義について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	中学生特有のトラブルについて考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	指導のポイントは何か、考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	社会における学校の位置づけについて考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
15 回	これまでの講義の内容をおさらいしておくこと。(標準学習時間 60 分)

講義目的	中等教育段階では、生徒の身体発達と精神発達とのずれに由来する指導上の困難が多く発生する。身体的成長の分、問題がより深刻になることも少なくない。またこの時期は、進学や就職など、以降の人生をある程度方向づける重要な時期でもある。それゆえ中等段階における指導は、学校生活への適応だけでなく、大人社会への出立を支援する意図をもって行われる必要があり、教師は生徒の心の状態を常に理解し将来のキャリア形成に資する助言を適切に行えるよう配慮せねばならない。 本講義では、思春期の生徒にどう対応すればいいのか、また自己実現に向けたサポートはどうあるべきかについて考えていく。 (中等教育学科の学位授与方針：国語教育コースE、英語教育コースDに最も強く関与する)
達成目標	① 発達に応じた生徒への対応や学習指導との関連を理解する。(E,D) ② 青年期特有の心の問題や家庭との連携について理解する。(E,D) ③ キャリア開発に向けた中等段階における効果的な指導の在り方について深く理解する。(E,D)
キーワード	生活指導、キャリア教育
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の小レポート(50%、達成目標①②を確認)、および最終課題(50%、達成目標③を確認)を総合評価する。
教科書	使用しない
関連科目	教育社会学

参考書	・関根正明『生徒指導担当教師のための教育相談基礎の基礎』学事出版 ・柳井修『キャリア発達論』ナカニシヤ出版
連絡先	A1号館904 松岡
授業の運営方針	講義形式ですが、理解を確認するための指名・発問を行います。 毎回課題意識をもって臨むように。
アクティブ・ラーニング	質問 授業のその先の展開を理解・予測しているか、不規則に指名し応答を求める。
課題に対するフィードバック	模範解答例をLMS等で提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法【月2木2】（FES05100）
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論（1）精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論（2）行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論（3）来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論（4）認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法（1）観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法（2）面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法（3）心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応（1）学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応（2）高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと（標準学習時間30分）。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】観察法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】観察法を試してみること（標準学習時間150分）。
11回	【予習】面接法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと（標準学習時間150分）。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】心理テストについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。

講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものかが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	①相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 ②適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 ③カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の①、②）と最終評価試験80%（達成目標の①、②、③）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践／曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著）／大学教育出版／ISBN978-4-86429-370-9／
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておく と便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもら う場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法【月3木3】（FES05110）
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論（1）精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論（2）行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論（3）来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論（4）認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法（1）観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法（2）面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法（3）心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応（1）学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応（2）高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと（標準学習時間30分）。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】観察法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】観察法を試してみること（標準学習時間150分）。
11回	【予習】面接法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと（標準学習時間150分）。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】心理テストについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものかが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	①相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 ②適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 ③カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の①、②）と最終評価試験80%（達成目標の①、②、③）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践／曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著）／大学教育出版／ISBN978-4-86429-370-9／
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておく と便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもら う場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育現場観察実習（FES05200）
英文科目名	Observation Training for Middle Schools
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）、笹山健作（ささやまけんさく）、河原修一（かわはらしゅういち）、山崎桂子（やまさきけいこ）、地村彰之（ぢむらあきゆき）、香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）、原田省吾（はらだしょうご）、坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	教職に向けた学修を開始するにあたり、中・高の教育現場をあらためて観察し、これまでの学習者の視点から教師の視点への「視点の転換」及び「教職への動機づけ」を主たる目的としている。 事前指導では、実習先である学校の教育の特徴や周辺地域の様子について調査し、観察のポイントを整理する。自分の課題を持って参加する基礎を固め、事前に質問できるようにしておく。 現場観察実習当日は午前中の1時間目に学校長の講話を聴き、2・3時間目には国語と英語に分かれて観察する。4時間目は全員で観察からの気づきや学びについて意見交換をしたり、授業者からの説明を受けたり質疑を行う。 観察実習では事前の演習で各自設定したテーマに基づき、生徒の学習や活動の実態を観察する。 事後指導では、観察記録をもとに各自が考察をまとめ、相互に意見交換して教育現場への理解を深める。
準備学習	自身が観察に赴く実習先である学校の特徴、特色ある教育活動や周辺地域の様子についてよく調べておくこと。 参加実習における自身の目標（観察のポイント）を立てておくこと。 スケジュールをよく理解しておくこと。 学校教育と生徒の発達段階の関係について調べ、考えておくこと。 発達の観点から、生徒の年齢的特徴を丁寧に観察できるようにしておくこと。 （標準学習時間120分）
講義目的	中等教育の特徴や生徒の発達段階について、教育現場である学校を実際に訪れ、中等教育の特徴や中学校・高等学校の教員の仕事、生徒の学習の様子、友達とのかかわり方等について観察すること で、4年次の教育実習のための貴重な経験知を得ることを目標とする。 （中等教育学科国語教育コースのディプロマポリシーE、英語教育コースのディプロマポリシーBに最も強く関与する）。
達成目標	教員の職務および学校運営について客観的に理解できる。（国語教育コースE、英語教育コースB） 教師の視点を持つことができる。（国語教育コースE、英語教育コースB） 教職への意識を深めることができる。（国語教育コースE、英語教育コースB）
キーワード	観察、教育実習、教職
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	観察実習の記録（30%）、振り返りレポート（70%）により評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習（中・高）、教育実習事前・事後指導、教職論
参考書	適宜紹介する。
連絡先	札埜 研究室 A1号館9階 fudano@ped.ous.ac.jp 坂本 研究室 A1号館10階 sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	事前指導、現場観察実習、事後指導での課題全てに取り組み、実習記録やレポートを期限内に提出すること。 グループでの活動が主となるので、協調性を持って、積極的に議論に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 観察した内容やレポート内容を討論課題として取り上げ、ディスカッションやグループワークを通じて課題内容を深め、グループごとに意見を発表していく。
課題に対するフィードバック	課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	原田省吾・笹山健作・河原修一・札埜和男・坂本南美 ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	実習時の時間、服装、態度等に細心の注意を払うこと（問題のある者は実習に参加させない）。

	実習受け入れ校の事情により、実習内容に変化の生ずる場合がある。
--	---------------------------------

科目名	教育実習事前・事後指導 (FES05300)
英文科目名	Pre and Post Guidance for Teaching Practice
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 笹山健作 (ささやまけんさく), 河原修一 (かわはらしゅういち), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 原田省吾 (はらだしょうご), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	3 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	教育実習の内容と実習日誌の作成要領について説明する。(全教員) (全教員)
2 回	教育実習について、教科指導や生徒指導の面から説明する。(全教員) (全教員)
3 回	教育実習における実際の授業での準備や教材研究、授業の進め方などについて解説する。(全教員) (全教員)
4 回	国語科の国語表現分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・河原) 英語科の英語学分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・地村) (河原 修一, 地村 彰之)
5 回	国語科授業の指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・河原) 英語科授業の指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・地村) (河原 修一, 地村 彰之)
6 回	国語科授業の指導案作成・模擬授業を行い振り返りを行う。(国語教育コース・河原) 英語科授業の指導案作成・模擬授業を行い振り返りを行う。(英語教育コース・地村) (河原 修一, 地村 彰之)
7 回	国語科の古文分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・山崎) 英語科の英米文学分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・香ノ木) (山崎 桂子, 香ノ木 隆臣)
8 回	国語科授業の指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・山崎) 英語科授業の指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・香ノ木) (山崎 桂子, 香ノ木 隆臣)
9 回	国語科の古典授業の指導案作成・模擬授業を行い振り返りを行う。(国語教育コース・山崎) 英語科の英米文学授業の指導案作成・模擬授業を行い振り返りを行う。(英語教育コース・香ノ木) (山崎 桂子, 香ノ木 隆臣)
10 回	国語科の評論分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・札埜) 英語科の英文法分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・坂本) (札埜 和男, 坂本 南美)
11 回	国語科の小説分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コース・札埜) 英語科の英作文分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(英語教育コース・坂本) (札埜 和男, 坂本 南美)
12 回	国語科の古文漢文分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。(国語教育コ

	ース・札埜) 英語科のリーディング分野に関して、指導案作成・模擬授業を行い実習への準備を行う。（英語教育コース・坂本） （札埜 和男,坂本 南美）
1 3 回	実習に向けた課題について確認する。（全教員） （全教員）
1 4 回	教育実習の成果の確認と自己評価を行う。（全教員） （全教員）
1 5 回	成果の発表と今後の課題についての協議を行う。（全教員） （全教員）

回数	準備学習
1 回	あらかじめ教育実習録を読んでおくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	これまで学んだ教科指導や生徒指導について知識を整理しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	教育法で学んだ知識・技能を復習しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	指定する国語表現の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英語学の教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
5 回	指定する国語の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英語の教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
6 回	指定する国語科作品の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英語科作品の教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
7 回	指定する古文教材の研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英米文学教材の研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
8 回	指定する古典教材の研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する文学教材の研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
9 回	指定する国語（古文）教材の研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英語（文学）教材の研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 0 回	指定する評論の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英文法の教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 1 回	指定する小説の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定する英作文の教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 2 回	指定する古文漢文の教材研究をしておくこと。（国語教育コース） 指定するリーディングの教材研究をしておくこと。（英語教育コース） （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 3 回	教育実習に向けて模擬授業を通して気づいた自身の課題を整理しておくこと。 （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 4 回	教育実習録を読み返して自身の成果と課題を抽出しておくこと。 （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）
1 5 回	発表の準備と課題についての自身の考えをまとめておくこと。 （いずれも標準学習時間 1 2 0 分）

講義目的	教育実習の事前学習と、事後学習からなる授業である。事前指導では、教育実習の意義や教育実習に必要な心構え及び、実習を通じて何を学ぶのかについての理解を深める。
------	--

	事後指導は教育実習を通じて学んだことの振り返りを通じて、自己の課題を確認し、中等教育の教員としての自覚を高めることを目標とする。 (中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針E、中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針Bと深く関連している)
達成目標	・教育実習の意義や教育実習に必要な心構え及び、実習を通じて何を学ぶのかについての理解を深めることができる。(国語教育コースE、英語教育コースB) ・教育実習を通じて学んだことの振り返りを通じて、自己の課題を確認し、中等教育の教員としての自覚を高めることができる。(国語教育コースE、英語教育コースB)
キーワード	教育実習、実習記録(日誌)、学習指導案、模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各担当者からの課題、模擬授業、最終課題レポートにより評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教職論、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育現場観察実習、教職実践演習(中・高)
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	札埜 研究室 A1号館9階 fudano@ped.ous.ac.jp 坂本 研究室 A1号館10階 sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	模擬授業、指導案作成、事前と事後での課題全てに取り組むこと。 模擬授業はグループでの活動が主となるので、協調性を持って、積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション プレゼンテーション(模擬授業)を行い、その内容について合評する時間を取る。その際、参加者は模擬授業者への質問を行ったり、内容についてディスカッションしたり、授業担当者からの問いかけに対してグループワークで答えを考え出す作業をする。
課題に対するフィードバック	課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを行う。 模擬授業に対するフィードバックはルーブリックによる相互評価と教員評価で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	原田省吾・笹山健作・河原修一・札埜和男・坂本南美 ア)元中学校・高等学校勤務 イ)学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	特記なし。

科目名	教育実習Ⅰ（FES05400）
英文科目名	Teaching PracticeⅠ
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）、奥西有理（おくにしゆり）、笹山健作（ささやまけんさく）、河原修一（かわはらしゅういち）、山崎桂子（やまさきけいこ）、地村彰之（ぢむらあきゆき）、香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）、奥野新太郎（おくのしんたろう）、原田省吾（はらだしょうご）、坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	4年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	教員免許取得に必修の授業科目であり、4年次前期に実施する。 実習校のオリエンテーション（説明と見学）、教科（国語または英語）の授業参観と研究協議、道徳の授業参観と研究協議、総合的な学習の時間の授業参観と研究協議、特別活動の授業参観と研究協議などを行う。 実習生は参観する各教科等の指導の目的と内容等について教育実習校教員の講評を受ける。 これらの活動の成果を整理して発表と質疑応答を行い、実習校の指導教員及び大学の教育実習担当教員から総括的な講評を受け、実習の成果を報告書にまとめる。
準備学習	実習校のオリエンテーションに参加し、指導教員と綿密に連絡を取り合いながら、担当する教科の教材研究をしておくこと。 実習校の教育方針や特徴、周辺地域の環境について理解しておくこと。 指導教員の指示に応じて道徳や総合的な学習、特別活動の内容についても下調べしておくこと。 （標準学習時間180分）
講義目的	中等教育における各教科の専門性に於いて、実習に際して求められる十分な知識・技能を着実に身に付ける。 （中等教育学科国語教育コースの学位授与方針C・E、中等教育学科英語教育コースの学位授与方針A・Bと深く関連している）。
達成目標	中等教育における各教科の専門性に於いて、実習に際して求められる十分な知識・技能を着実に身に付けることができる。 （中等教育学科国語教育コースC・E、中等教育学科英語教育コースA・B）
キーワード	授業参観、研究協議、国語教育、英語教育、知識・技能、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、教育実習録（実習日誌）、国語表現、古文、漢文、国語教科指導法、英語学、英米文学、異文化理解、英語教科指導法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	教育実習校側の資料、実習生の取組の状況（教育実習録等）及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員による協議を経て 総計が60%以上を合格とする。
教科書	実習校の指定した教科書による。
関連科目	教育現場観察実習、教育実習事前・事後指導、教育実習Ⅱ、教育実践演習（中・高）、教職論、教育学原論、生徒・進路指導論、教育学演習（教育心理学）、教育学演習（教育社会学）、国語科教材分析・開発演習A、国語科教材分析・開発演習B、国語科教材分析・開発演習C、英語科教材分析・開発演習A、英語科教材分析・開発演習B、英語科教材分析・開発演習C、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、英語科教育法Ⅰ～Ⅳ
参考書	実習校の指示した参考書による。
連絡先	原田 研究室 A1号館9階 harada@ped.ous.ac.jp 笹山 研究室 A1号館9階 sasayama@ped.ous.ac.jp 河原 研究室 A1号館9階 kawahara@ped.ous.ac.jp 山崎 研究室 A1号館9階 yamasaki@ped.ous.ac.jp 奥野 研究室 A1号館9階 okuno@ped.ous.ac.jp 札埜 研究室 A1号館9階 fudano@ped.ous.ac.jp 地村 研究室 A1号館10階 jimura@ped.ous.ac.jp 香ノ木研究室 A1号館10階 konoki@ped.ous.ac.jp 奥西 研究室 A1号館10階 okunishi@ped.ous.ac.jp 坂本 研究室 A1号館10階 sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	実習校の指導教員の指示に従い、学校での教育活動に積極的に参加する姿勢を持って臨むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 教科等の授業参観での気づきをディスカッションしたり、指導教員の指示する課題についてグループワークを通じてを深めたり、グループごとに意見を発表していく。
課題に対するフィードバック	課題については実習中に解説したり助言したりしながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	原田省吾・笹山健作・河原修一・札埜和男・坂本南美 ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法

	について講義する。
その他（注意・備考）	実習の内容や時間は教育実習校の指導の様態、生徒の実態に応じて変動する。 実習時の時間、服装、態度等に細心の注意を払うこと（問題のある者は実習に参加させない）。 履修するには1年あるいは2年次終了時の全履修科目のGPAが1.6に達していなければならない。 教育実習開講期までに修得した科目のうち、教員免許状取得に必要な科目について教職履修カルテを作成し、所定の要領により提出する必要がある。 3年次秋学期修了までに次の科目を修得済みまたは履修中であることが必要となる（「教科に関する科目」から12単位以上。「教職に関する科目」の必修科目（教科教育法以外）のうち、教職論・教育学原論・教育心理学を含む10単位以上。「教職に関する科目」の教科教育法科目から4単位以上。「教育実習事前・事後指導」を履修中であること）

科目名	教育実習Ⅱ (FES05500)
英文科目名	Teaching Practice II
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 奥西有理 (おくにしゆり), 笹山健作 (ささやまけんさく), 河原修一 (かわはらしゅういち), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう), 原田省吾 (はらだしょうご), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	4 年
単位数	3.0
授業形態	実験実習
授業内容	教員免許取得に必修の授業科目であり、4 年次前期に実施する。 各教科、学級活動等、学校生活に関わる実地の指導に必要な実習を行う。教育実習生は中・高等学校の教育課程を構成する教育内容及び活動に関する指導のねらいと計画、指導方法等について、実習校の指導教員から指導を受け、記録する。 これらをもとに参観記録をまとめ、実地の指導に必要な留意事項等について実地指導教員を交えて研究協議を行う。 実習校のオリエンテーション (説明と見学)、教科 (国語または英語) の模範授業の観察と記録、授業参観と記録と研究協議、国語または英語の授業実習 (うち研究授業 1 時間) と研究協議、学級活動の指導実習と研究協議、学級経営・学校行事・生徒会活動への参加と省察などを行う。 事前準備を経て実地の指導に臨み、その成果を記録・省察することによって各自の課題を明らかにするとともに、実習生相互で課題を共有し、その改善策を検討する。 最終段階においては、各教科と活動の総括的実地指導及び研究授業に取り組む。授業研究会では実習校教員及び大学教員が指導助言し、各実習生の発表及び質疑応答について講評する。実習生はこれらをもとに報告書を作成し、教育実習を総括する。
準備学習	実習校のオリエンテーションに参加し、指導教員と綿密に連絡を取り合いながら、担当する教科の教材研究や学習指導案の作成、模擬授業をしておくこと。 指導教員の指示に応じて学級の様子、学級経営の方針、学校行事や生徒会活動の内容についても下調べしておくこと。 (標準学習時間 180 分)
講義目的	中等教育における各教科の専門性に応じた、実習に求められる十分な知識・技能を着実に身に付ける。 中等教育における学級経営の基本的な実践力を身に付けることができる。 (中等教育学科国語教育コースの学位授与方針 C・E、中等教育学科英語教育コースの学位授与方針 A・B と深く関連している)。
達成目標	中等教育における各教科の専門性に応じた、実習に求められる十分な知識・技能を着実に身に付ける。 中等教育における学級経営の基本的な実践力を身に付けることができる。 (中等教育学科国語教育コース C・E、中等教育学科英語教育コース A・B)
キーワード	模範授業、授業参観、研究授業、実地授業、学級活動、学級経営、学校行事、生徒会活動、研究協議、国語教育、英語教育、知識・技能、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、教育実習録 (実習日誌)、 国語表現、古文、漢文、国語教科指導法、英語学、英米文学、異文化理解、英語教科指導法
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	教育実習校側の資料、実習生の取組の状況 (教育実習録等) 及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員による協議を経て総計が 60 % 以上を合格とする。
教科書	実習校の指定した教科書による。
関連科目	教育現場観察実習、教育実習事前・事後指導、教育実習Ⅰ、教育実践演習 (中・高)、教職論、教育学原論、生徒・進路指導論、教育学演習 (教育心理学)、教育学演習 (教育社会学)、国語科教材分析・開発演習 A、国語科教材分析・開発演習 B、国語科教材分析・開発演習 C、英語科教材分析・開発演習 A、英語科教材分析・開発演習 B、英語科教材分析・開発演習 C、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、英語科教育法Ⅰ～Ⅳ
参考書	実習校の指示した参考書による。
連絡先	原田 研究室 A 1 号館 9 階 harada@ped.ous.ac.jp 笹山 研究室 A 1 号館 9 階 sasayama@ped.ous.ac.jp 河原 研究室 A 1 号館 9 階 kawahara@ped.ous.ac.jp 山崎 研究室 A 1 号館 9 階 yamasaki@ped.ous.ac.jp 奥野 研究室 A 1 号館 9 階 okuno@ped.ous.ac.jp 札埜 研究室 A 1 号館 9 階 fudano@ped.ous.ac.jp 地村 研究室 A 1 号館 10 階 jimura@ped.ous.ac.jp 香ノ木 研究室 A 1 号館 10 階 konoki@ped.ous.ac.jp 奥西 研究室 A 1 号館 10 階 okunishi@ped.ous.ac.jp 坂本 研究室 A 1 号館 10 階 sakamoto@ped.ous.ac.jp

授業の運営方針	実習校の指導教員の指示に従い、学校での教育活動に積極的に参加する姿勢を持って臨むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 実地授業や研究授業を行い、授業での気づきをディスカッションしたり、指導教員の指示する課題についてグループワークを通じてを深めたり、研究協議で意見を発表する。
課題に対するフィードバック	課題については実習中に助言したり解説したりしながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	原田省吾・笹山健作・河原修一・札幌和男・坂本南美 ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	実習の内容や時間は教育実習校の指導の様態、生徒の実態に応じて変動する。 実習時の時間、服装、態度等に細心の注意を払うこと（問題のある者は実習に参加させない）。 履修するには1年あるいは2年次終了時の全履修科目のGPAが1.6に達していなければならない。 教育実習開講期までに修得した科目のうち、教員免許状取得に必要な科目について教職履修カルテを作成し、所定の要領により提出する必要がある。 3年次秋学期修了までに次の科目を修得済みまたは履修中であることが必要となる（「教科に関する科目」から12単位以上。「教職に関する科目」の必修科目（教科教育法以外）のうち、教職論・教育学原論・教育心理学を含む10単位以上。「教職に関する科目」の教科教育法科目から4単位以上。「教育実習事前・事後指導」を履修中であること）

科目名	教職実践演習（中・高）（FES05610）
英文科目名	Practical Seminar for Teaching Profession (Middle)
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）、奥西有理（おくにしゆり）、森敏昭（もりとしあき）、松岡律（まつおかただし）、笹山健作（ささやまけんさく）、河原修一（かわはらしゅういち）、山崎桂子（やまさきけいこ）、地村彰之（ぢむらあきゆき）、香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）、原田省吾（はらだしょうご）、坂本南美（さかもとなみ）、札埜和男（ふだのかずお）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教職の意義や教員の役割・使命、職務内容等についての理解を深める。（山中） （山中 芳和）
2回	学習指導と評価についての理解を深める。（森） （森 敏昭）
3回	社会性、対人関係能力、問題行動等についての理解を深める。（松岡） （松岡 律）
4回	教育実習記録をもとに、生徒指導の視点からワークショップを通じて生徒への対応の仕方について検討する。（原田） （原田 省吾）
5回	教育実習記録をもとに、学級経営の視点からワークショップを通じて生徒への対応の仕方について検討する。（笹山） （笹山 健作）
6回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、国語表現教材等の指導力に関する理解を深める（国語教育コース・河原） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英語学教材等の指導力に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・地村） （河原 修一、地村 彰之）
7回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、国語表現教材等の学習指導の基本的事項に関する理解を深める。（国語教育コース・河原） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英語学教材等の学習指導の基本的事項に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・地村） （河原 修一、地村 彰之）
8回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、古文教材等の指導力に関する事項について理解を深める（国語教育コース・山崎） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英米文学教材等の指導力に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・香ノ木） （山崎 桂子、香ノ木 隆臣）
9回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、古文教材等の基本的な授業技術に関する事項について理解を深める。（国語教育コース・山崎） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英米文学教材等の基本的な授業技術に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・香ノ木） （山崎 桂子、香ノ木 隆臣）
10回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、漢文教材等の指導力や基本的な授業技術に関する事項について理解を深める（国語教育コース・奥野） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、異文化理解等の指導力や基本的な授業技術に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・奥西） （奥西 有理）
11回	国語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、漢文教材等の指導力や基本的な授業技術に関する事項について理解を深める（国語教育コース・奥野） 英語科の内容に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、異文化理解等の指導力や基本的な授業技術に関する事項について理解を深める。（英語教育コース・奥西）

	(奥西 有理)
1 2 回	国語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、国語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(国語教育コース・札幌) 英語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(英語教育コース・坂本)
	(札幌 和男,坂本 南美)
1 3 回	国語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、国語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(国語教育コース・札幌) 英語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(英語教育コース・坂本)
	(札幌 和男,坂本 南美)
1 4 回	国語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、国語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(国語教育コース・札幌) 英語科の指導力に関して、講義・グループ討論・模擬授業を通じて、英語教科指導法の観点から学習指導の基本的事項および学級経営等に関する事項について理解を深める。(英語教育コース・坂本)
	(札幌 和男,坂本 南美)
1 5 回	これまでの講義の学習のまとめとして、自己評価レポートを作成する。(山中・森・松岡)
	(山中 芳和,森 敏昭,松岡 律)

回数	準備学習
1 回	教職の意義や教員の役割・使命、職務内容等についての書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	学習指導と評価について書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	社会性、対人関係能力、問題行動等について書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	教育実習記録を見返し、生徒指導に関する事項を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	教育実習記録を見返し、学級経営に関する事項を整理しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	指定する国語表現の教材研究をしておくこと。(国語教育コース) 指定する英語学の教材研究をしておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	指定する国語表現教材の授業デザインを考えておくこと。(国語教育コース) 指定する英語学教材の授業デザインを考えておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	指定する古文教材の研究をしておくこと。(国語教育コース) 指定する英文学教材の研究をしておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間 1 2 0 分)
9 回	指定する古文教材の授業デザインを考えておくこと。(国語教育コース) 指定する英文学教材の授業デザインを考えておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間 1 2 0 分)
1 0 回	指定する漢文教材の研究をしておくこと。(国語教育コース) 指定する異文化理解教材の研究をしておくこと。(英語教育コース)

	(いずれも標準学習時間120分)
11回	指定する漢文教材の授業デザインを考えておくこと。(国語教育コース) 指定する異文化理解教材の授業デザインを考えておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間120分)
12回	指定する国語教育の教材研究をしておくこと。(国語教育コース) 指定する英語教育の教材研究をしておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間120分)
13回	指定する国語教育の教材の授業デザインを考えておくこと。(国語教育コース) 指定する英語教育の教材の授業デザインを考えておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間120分)
14回	指定する国語教育の教材の学習指導案を作成しておくこと。(国語教育コース) 指定する英語教育の教材の学習指導案を作成しておくこと。(英語教育コース) (いずれも標準学習時間120分)
15回	自己評価レポートを作成するにあたり、どのようなレポートにするか下書きをしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	教職課程、介護等体験、教育実習を通じて身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情、人権感覚等をより確かなものにするために、教職課程の集大成として行う。 生徒や同僚らと円滑なコミュニケーションをとることのできる社会性や対人関係能力、発達段階に応じた指導や学級経営、生徒指導等の実践的指導力の基礎が身につけていることを確認することである (中等教育学科の学位授与の方針C、Eと深く関連している)		
達成目標	①円滑なコミュニケーションをとることのできる社会性や対人関係能力が身につけていることを確認できる。(E) ②発達段階に応じた指導が身につけていることを確認することができる。(C) ③学級経営の実践的指導力の基礎が身につけていることを確認することができる。(E) ④生徒指導の実践的指導力の基礎が身につけていることを確認することができる。(E)		
キーワード	使命感、教育的愛情、人権感覚、社会性、対人関係能力、発達段階に応じた指導、学級経営、生徒指導、実践的指導力、模擬授業、教育実習、学習指導、評価、国語教育、英語教育、国語表現、古文、漢文、国語教科指導法、英語学、英米文学、異文化理解、英語教科指導法		
試験実施	実施しない		
成績評価(合格基準60点)	各担当者からの課題、自己評価レポートにより評価し、総計が60%以上を合格とする。		
教科書	なし。		
関連科目	教職論、生徒・進路指導論、教育学演習(教育心理学)、教育学演習(教育社会学)、国語科教材分析・開発演習A、国語科教材分析・開発演習B、国語科教材分析・開発演習C、英語科教材分析・開発演習A、英語科教材分析・開発演習B、英語科教材分析・開発演習C、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、英語科教育法Ⅰ～Ⅳ、教育実習事前・事後指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育現場観察実習		
参考書	必要に応じて指示する。		
連絡先	山中 研究室	A1号館9階	yamanaka@ped.ous.ac.jp
	森 研究室	A1号館9階	mori@ped.ous.ac.jp
	松岡 研究室	A1号館9階	matsuoka@ped.ous.ac.jp
	原田 研究室	A1号館9階	harada@ped.ous.ac.jp
	笹山 研究室	A1号館9階	sasayama@ped.ous.ac.jp
	河原 研究室	A1号館9階	kawahara@ped.ous.ac.jp
	山崎 研究室	A1号館9階	yamasaki@ped.ous.ac.jp
	奥野 研究室	A1号館9階	okuno@ped.ous.ac.jp
	札埜 研究室	A1号館9階	fudano@ped.ous.ac.jp
	地村 研究室	A1号館10階	jimura@ped.ous.ac.jp
	香ノ木研究室	A1号館10階	konoki@ped.ous.ac.jp
	奥西 研究室	A1号館10階	okunishi@ped.ous.ac.jp
	坂本 研究室	A1号館10階	sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・履修カルテを活用し、これまでの学修を多角的に分析して省察する。 ・1回から5回までは教職科目担当者と中学校教員経験者が全体に対して講義を行う。6回から14回はコース毎に分かれ、教科内容を中心にこれまでの学修を振り返り、討論等を行う。15回は教職教員3名がまとめを行う。		
アクティブ・ラーニング	ワークショップ・ロールプレイ 実習記録の事例を討論課題として取り上げ、ワークショップやロールプレイ(模擬授業や生徒指導		

	場面等)を通じて最適な指導の在り方を考える。
課題に対するフィードバック	課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	原田省吾・笹山健作・河原修一・札幌和男・坂本南美 ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	特記なし。

科目名	教育学演習（教育史）（FES05700）
英文科目名	Pedagogical Seminar (History of Education)
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育学における教育史研究の意義と方法について説明する。
2回	教育史研究の領域と基礎文献について説明する。
3回	教育史の諸問題について概説する。
4回	個別テーマの検討（1）儒学の教育思想と日本における展開について分析する。
5回	個別テーマの検討（2）貝原益軒の和俗童子訓の内容を検討する。
6回	個別テーマの検討（3）貝原益軒の教育論の近世的意義について考察する。
7回	個別テーマの検討（4）国学の教育思想と近世的展開について説明し、討議する。
8回	個別テーマの検討（5）近世日本の子ども像について説明し、討議する。
9回	個別テーマの検討（6）幕末における教育近代化への胎動について説明し、討議する。
10回	個別テーマの検討（7）欧米教育の受容と近代学校の成立について説明し、討議する。
11回	個別テーマの検討（8）欧米の新教育運動と大正期の教育改革について説明し、討議する。
12回	個別テーマの検討（9）教育実践記録を歴史的視点から分析考察する。
13回	個別テーマの検討（10）戦後民主教育の思想について説明するとともに、討議する。
14回	個別テーマの検討（11）戦後民主教育の思想について説明するとともに討議する。
15回	日本の教育の歴史的特質についてこれまでの内容を踏まえて討議する。
16回	各自が選択したテーマについて調査した結果をもとに発表会を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（準備学習時間30分）
2回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
3回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習するとともに、その際使用したテキストの関連部分を復習しておくこと。（標準学習時間45分）
4回	日本の近世という時代の特徴についてその概要を調べておくこと。（標準学習時間30分）
5回	江戸時代の代表的な儒学者についてその概要を調べておくこと。（標準学習時間45分）
6回	江戸時代の代表的な儒学者の中で、貝原益軒の特徴を考えておくこと。（標準学習時間45分）
7回	国学という学問の特質と、儒学との違いについて考えておくこと。（標準学習時間45分）
8回	子どもという存在の特質について考えておくこと。（標準学習時間30分）
9回	幕末という時代の特徴について考えておくこと。（標準学習時間30分）
10回	明治初期の教育近代化へ向けての動きに関心を持っておくこと。（標準学習時間30分）
11回	明治の末から大正にかけての教育の歴史に関心を持っておくこと。（標準学習時間30分）
12回	教育実践を記録することの意義について考えておくとともに、その分析への関心を持っておくこと。（標準学習時間45分）
13回	戦後の教育の特質を戦前との比較の視点から考える事への関心を持っておくこと。（標準学習時間45分）
14回	学習指導要領の基本的な特徴について復習しておくこと。（標準学習時間45分）
15回	これまでの授業内容を復習し、日本の教育の歴史的特質についてあらかじめ考えておくこと。（標準学習時間45分）
16回	これまでの授業の各回の内容をまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本授業は「学位授与の方針」のBにもっとも強く関連する。 ・教育に拠る人間形成の様相を歴史的に考察し、その特質を理解する。
------	---

	・教育の歴史的研究に必要な史料の分析方法を修得する。 ・教育の歴史に関する問題意識を深め、これからの教育のあり方を考える姿勢を培う。
達成目標	「学位授与の方針」のBに関連する次の内容を目的とする。 ・人類の歴史とともにある教育の営みは、時代や地域の違いに応じて多様に展開してきたことを説明できる。 ・教育に関する思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を具体的に説明できる。 ・教育のあり方を歴史的視点を踏まえて説明できる。
キーワード	教育学、教育史、資料の分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の演習内容のまとめと最終回での発表内容をもとに総合的に評価する。合格基準は60点とする。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
関連科目	教職論、教育学原論、教育史
参考書	『子どもの教育の歴史』（名古屋大学出版会）
連絡先	A1号館901研究室
授業の運営方針	この授業は演習科目であるので、授業の中では随時アクティブラーニングの方法を採り入れていく。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、調査活動
課題に対するフィードバック	授業終了後にコメントを提出し、次回の授業の中でその中のいくつかを共有することにより全体の理解を深める。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については随時其の実情に応じて対応を考え実施する。
実務経験のある教員	国公立学校の教員および管理職経験を講義の中で生かしていく。
その他（注意・備考）	この科目は、演習科目であるので、共同討議や意見交換を重視するため、積極的な取り組みが求められる。

科目名	教育学演習（教育社会学）（FES05800）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Sociology of Education)
担当教員名	松岡 律（まつおかただし）
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	イントロダクション：人間の行為と意味について理解する。
2 回	正常と異常・社会的禁忌について理解する。
3 回	社会的ラベリングと予言の自己成就について理解する。
4 回	様々な社会的規範について理解する。
5 回	社会的正義と権力について理解する。
6 回	共同体と国家について理解する。
7 回	国民国家とグローバル化・移民について理解する。
8 回	社会と教育の関係について理解する。
9 回	グループ学習1：テーマに応じた文献を渉猟・講読する。
10 回	グループ学習2：講読ならびにグループワークを通じて理解を深化する。
11 回	グループ学習3：理解・解釈・成果を発表・共有する。
12 回	教育社会学の研究スタイルおよび動向を理解する。
13 回	個人研究(1) 各自の研究関心を明確化する。
14 回	個人研究(2) 進捗状況と課題をまとめる。
15 回	個人研究(3) 各自の成果を発表・共有する。

回数	準備学習
1 回	教科書第1～2章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
2 回	教科書第3～4章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
3 回	教科書第5章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
4 回	教科書第7～8章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
5 回	教科書第10～11章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
6 回	教科書第12～13章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
7 回	教科書第14～15章を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
8 回	指定文献を熟読すること。(標準学習時間 60 分)
9 回	何をテーマにするか熟慮しておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	文献の解釈を明確にし、書き起こしておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	指定された文献を熟読しておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	指定以外の文献も読んでおくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	複数の文献を組み合わせて論を構成すること。(標準学習時間 60 分)
15 回	何が明らかになったか、2000字以上でまとめておくこと。(標準学習時間 180 分)

講義目的	本演習の目的は、教育およびそれを取り巻く現代社会の様々な状況について、社会学的視点から分析的に理解・判断できるようになる力を身につけることにある。 この力は今後の学修のみならず、日常生活や実社会を生き抜く力の基礎となるものである。 (中等教育学科の学位授与方針B・E(国語)、B・D(英語)に最も強く関与する)
達成目標	①専門的文献を読解する力の基礎を身につけること。(B・B) ②自己を相対化する視点を身につけること。(E・D) ③データの読み方の基礎を身につけること。(B・B)
キーワード	社会学、教育、人間
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間レポート30%（到達目標①②を確認）、最終レポート70%到達目標②③を確認）により評価し、計60%以上を合格とする。
教科書	『社会学のエッセンス -- 世の中のしくみを見ぬく 新版』 / 有斐閣アルマ / 友枝 敏雄ほか / ISBN 978-4-641-12338-0
関連科目	教育社会学
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館904研究室
授業の運営方針	前半は教科書の輪読形式で進行する。 後半は各自の関心に基づいて渉猟した文献についての発表を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、質問

グ	発表内容について深く理解できているかを確認するための質疑応答やディスカッションを毎回行う。
課題に対するフィードバック	各発表について、授業中その場で指摘を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育学演習（教育心理学）（FES05900）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Educational Psychology)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育心理学の論説論文および研究論文を読む際の留意点について説明する。
2回	論説論文講読演習（1）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
3回	論説論文講読演習（2）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
4回	論説論文講読演習（3）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
5回	論説論文講読演習（4）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
6回	論説論文講読演習（5）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
7回	論説論文講読演習（6）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
8回	論説論文講読演習（7）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
9回	研究論文講読演習（1）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
10回	研究論文講読演習（2）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
11回	研究論文講読演習（3）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
12回	研究論文講読演習（4）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
13回	研究論文講読演習（5）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
14回	研究論文講読演習（6）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
15回	研究論文講読演習（7）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理・復習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	教育心理学に関係する論説論文および研究論文の内容を正しく理解し、発表・議論を通して卒業論文の作成に不可欠な批判的思考力・創造的思考力を育成する。「学位授与の方針」のB（小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている）に強く関連する科目である。
------	---

達成目標	①教育心理学に関する論説論文の内容を具体的に説明できる（D）。②教育心理学に関する論説論文の内容について批判的に議論することができる（B）。③教育心理学に関する研究論文の内容について批判的に議論することができる（B）。
キーワード	教育心理学の論説論文 教育心理学の研究論文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業での発表・議論の内容30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標の①に関しては授業での発表・議論の内容、②③に関しては最終評価試験で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	教育心理学
参考書	日本教育心理学会の機関誌である『教育心理学研究』
連絡先	A 1 号館 9 F 森研究室
授業の運営方針	教育心理学の論説論文および研究論文の内容について発表・議論を通して「主体的・対話的で深い学び」が成立することを目指している。
アクティブ・ラーニング	ライティング、プレゼンテーション。教育心理学の論説論文および研究論文の内容の発表・議論を通して、教育心理学の理論と研究方法についての「主体的・対話的で深い学び」がなされることを目指している。
課題に対するフィードバック	最終試験のフィードバックとして、模範答案の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。

科目名	国語科教材分析・開発演習A (FES06000)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials A
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	現代文の演習について、概説し、演習プランおよび演習の仕方を示す。
2回	現代文の演習について、引続き概説し、演習担当者を決める。
3回	演習発表者はレジメを配付し、発表し、質疑応答に対応する。発表後、教員がコメントする。
4回	第3回に同じ。
5回	第3回に同じ。
6回	第3回に同じ。
7回	第3回に同じ。
8回	第3回に同じ。
9回	第3回に同じ。
10回	第3回に同じ。
11回	第3回に同じ。
12回	第3回に同じ。
13回	第3回に同じ。
14回	第3回に同じ。
15回	第3回に同じ。さらに、教員が演習全体を総括して、コメントする。

回数	準備学習
1回	「国語科内容論A」を復習すること。(標準学習時間60分)
2回	演習プランに示された概要について、興味・関心のある項目について調べてみる。(標準学習時間60分) 演習発表者は、レジメを作成し、事前に教員に相談すること。(標準学習時間90分)
3回	演習発表者はレジメを作成し、事前に教員に相談すること。(標準学習時間90分)
4回	第3回に同じ。
5回	第3回に同じ。
6回	第3回に同じ。
7回	第3回に同じ。
8回	第3回に同じ。
9回	第3回に同じ。
10回	第3回に同じ。
11回	第3回に同じ。
12回	第3回に同じ。
13回	第3回に同じ。
14回	第3回に同じ。
15回	第3回に同じ。

講義目的	中学校・高等学校の国語科授業（主として現代文）における教材を研究し、開発する方法を身につける。あるテーマに即した教材を選び、教材を研究するために、文献を参照したり、作者の履歴を調べたり、辞書で語義を確認したりする準備活動の大切さを実感的に理解する。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針（DP）のAと強く関連している。
達成目標	1. 適切な教材を選ぶことができる。 2. 参考文献を調べることができる。 3. 作者の略歴を調べることができる。 4. 辞書や文法書を参照することができる。 5. 教材を分析する方法を知り、解釈し、鑑賞することができる。 6. 聞き手の立場に配慮しながら、教材の背景、内容、主旨を説明することができる。
キーワード	参考文献、解釈、鑑賞
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	発表準備資料作成、発表、ディスカッション参加（質疑応答など）100%（達成目標1～6を確認）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	用いない。
関連科目	「国語科内容論A」
参考書	『日本近代文学大事典』／日本近代文学館／講談社／ISBN4-06-200927-7 『資料による近代日本文学』／長谷川泉ほか／明治書院／3091-10159-8305

連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールkawahara@ped.ous.ac.jp） オフィスアワー 木曜日 3時限
授業の運営方針	中学校・高等学校の国語科授業の実践に応用できる（教員になってからも自己研修ができる）演習を試みる。
アクティブ・ラーニング	演習発表後の質疑応答からさらにディスカッションにつなげる。
課題に対するフィードバック	演習発表資料の作成の際の助言のポイントを参加者全員にも伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供しますの で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア）元栃木県立高等学校勤務 イ）教師になったとき、教室現場での対応について言及する。
その他（注意・備考）	国語辞典（電子辞書可）を持参すること。

科目名	国語科教材分析・開発演習B (FES06100)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials B
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして授業の進め方、授業内容、成績評価の方針について説明する。教科書の古文教材をプリントして配布する。
2回	古文理解の要諦である歴史的仮名遣い・万葉仮名について説明する。各自の希望により、演習の担当日時・教材を決める。
3回	古文理解の要諦である上代特殊仮名遣い・ハ行転呼現象について説明する。
4回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
5回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
6回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
7回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
8回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
9回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
10回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
11回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
12回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
13回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
14回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。
15回	教材分析演習（担当者が発表し、質疑応答）を行う。総まとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	歴史的仮名遣い・万葉仮名について調べておくこと。【標準学習時間120分】
3回	上代特殊仮名遣い・ハ行転呼現象について調べておくこと。【標準学習時間120分】
4回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
5回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
6回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
7回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
8回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
9回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
10回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
11回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
12回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
13回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
14回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
15回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】

講義目的	古文教材を分析する力と、新たな教材として開発していく力を身につける。高校の『国語総合』『古典A』『古典B』の教科書の中から定番教材を取り上げ、一人ずつの演習形式で分析を行う。本科目は中等教育学科(国語教育コース)の学位授与の方針のC、Dと強く関係している。
達成目標	①古文の教材研究が一通りできる。(C、D) ②教材としての理解を深め、古文の授業で効果的に指導できる。(C、D)

キーワード	古文、教材分析、教材研究、教材開発、教材観
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習〈資料作成・発表・質疑応答〉(70%)〈到達目標①②を確認〉、レポート(30%)〈到達目標①②を確認〉により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、日本文学概論、日本文学史、日本文学Ⅰ(古典)、国語科内容論B
参考書	授業時に指示する。
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:月曜2・3限(秋学期)
授業の運営方針	・演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。 ・活発な質疑応答を授業参加度として評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習後は訂正した演習資料を再提出させ、コメントを付して返却する。 レポートはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	古語辞書(電子辞書可)を毎回持参すること。

科目名	国語科教材分析 開発演習C (FES06200)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials C
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	この授業の内容とねらいについて説明する。 演習資料の作り方について説明する。 演習の担当分けを行う。
2回	学習指導要領の分析と討論を通じて、国語科の漢文に求められているものについて考える。
3回	現行教科書の比較分析を通じて、漢文教材の現状と傾向について考える。
4回	国語教育として「漢文」が生徒に教えうるものについて考える。
5回	漢文法の効果的な教授法を探る。
6回	絵や音声、ICTを用いた漢文教授法の可能性を探る。
7回	現行教材を用いた演習発表。(学生発表)
8回	現行教材を用いた演習発表。(学生発表)
9回	現行教材を用いた演習発表。(学生発表)
10回	宋代以後の漢詩文の教材可能性について検討する。
11回	日本漢詩文の教材可能性について検討する。
12回	新教材を用いた演習発表。(学生発表)
13回	新教材を用いた演習発表。(学生発表)
14回	新教材を用いた演習発表。(学生発表)
15回	全体のまとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、演習で読みたい作品を考えてくること。(標準学習時間30分)
2回	中高の学習指導要領(国語)を読んでくること。(標準学習時間120分)
3回	中高の現行教科書に収録される漢文教材を調べてくること。(標準学習時間90分)
4回	配布されたワークシートを仕上げてくること。(標準学習時間60分)
5回	中高の漢文の授業における活動項目を書き出してくること。(標準学習時間40分)
6回	「ICT活用教育」で学んだ内容を踏まえ、漢文の授業におけるICTの活用例を考えてくること。(標準学習時間60分)
7回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
8回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
9回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
10回	宋代以後の漢文作品で教材として使えるようなものを探してくること。(標準学習時間120分)
11回	日本漢詩文で教材として使えるようなものを探してくること。(標準学習時間120分)
12回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
13回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
14回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること(標準学習時間120分)
15回	授業の内容を振り返ってくること。(標準学習時間60分)

講義目的	この演習は、中学校・高等学校の国語科授業において取り上げられる漢文教材の開発を目的とする。中学校における漢文教育は、故事成語や唐詩、『論語』などを学ぶ。内容としては、レ点や一二点などの返り点、唐詩の形式などを学ぶものである。また高等学校ではより複雑な漢文法を学び、教材也多岐にわたる。本演習では、新たな教材を開発するために、これまでの傾向を押さえながらも、新たな教材と教授法を考える。また、同時に、空海や菅原道真など日本漢文や、これまであまり顧みられてこなかった宋代以後の詩文教材の教材可能性を検討する。 この科目は中等教育学科国語教育コース学位授与の方針のうち、A、Eと深く関連する。
達成目標	(1) 漢文作品を精読することができる。(A、B、E) (2) 大漢和辞典など様々な工具書を活用して調べ物ができる。(A、C) (3) 作品の読解を他者に詳細に解説できる。(A、C、E) (4) 漢文の教授法を作品に即して提案できる。(E)

	(5) 国語科における漢文の位置付けや、漢文教育の課題について説明できる。(A、E)
キーワード	漢文教育、漢文学、中国学、古代漢語、日本漢詩文、日本漢学、精読、訓詁、工具書
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題30%(達成目標4、5を確認)、発表40%(達成目標1、2、3を確認)、最終課題30%(達成目標3、4を確認)により総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	漢文学概論、漢文学Ⅰ、漢文学Ⅱ、国語科内容論C
参考書	漢文教育の理論と指導／鎌田 正／大修館書店／1972年：漢文教育の諸相／田部井 文雄／大修館書店／4-469-23237-8：漢文教育五十年／清田 清／角川書店／1974年：新釈漢文大系／明治書院：中国文明選／朝日新聞社：吉川幸次郎全集／筑摩書房：学習指導要領解説(中学国語、高校国語)その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno★ped.ous.ac.jp [★→@] 086-256-9444(研究室) オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	演習科目であるため、授業中の発表を最重視する。発表を放棄した場合、最終課題の提出は認めない。 演習発表では、すでにある訳注の丸写しは認めない。必ず自分で辞書を引き、自分で調べること。予習必須。 他人の発表時には必ず質問をすること。
アクティブ・ラーニング	この授業はアクティブラーニングの一形態として、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業中に解説・ディスカッションをする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	漢和辞典必携。

科目名	英語科教材分析・開発演習 A (FES06300)
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials A
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	英語学と英語科教材分析・開発について学習する。
2 回	英語散文(小説) (1) : 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
3 回	英語散文(小説) (2) : 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
4 回	英語散文(エッセイなど) (1) : 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
5 回	英語散文(エッセイなど) (2) : 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
6 回	英米詩 (1) : 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
7 回	英米詩 (2) : 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
8 回	戯曲 (1) : 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
9 回	戯曲 (2) : 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
10 回	教材作成の実践 (1) : 作品を選定する。
11 回	教材作成の実践 (2) : 選んだ作品について論点を発表する。
12 回	教材作成の実践 (3) : 選んだ作品に基づいた教案の発表する。
13 回	教材作成の実践 (4) : 修正した教案で模擬授業をする。
14 回	教材作成の実践 (5) : ディスカッションをする。
15 回	教材作成の実践 (6) : 最終教案の回覧とディスカッションをする。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認、2 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 10 回目の授業までに作品の選定について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 11 回目の授業までに選んだ作品についての論点の準備を行うこと。(標準学習時間120分)
11 回	10 回目の授業内容の整理を行うこと。 12 回目の授業までに選んだ作品に基づいた教案の準備を行うこと。(標準学習時間120分)
12 回	11 回目の授業内容の整理を行うこと。 13 回目の授業までに修正した教案による模擬授業の準備を行うこと。(標準学習時間120分)
13 回	12 回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 4 回目の授業までに最終的なディスカッションの準備を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに最終教案の回覧とディスカッションの準備を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	教材分析・開発演習について理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	英語で書かれた各ジャンルの英語テキストを英語学（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の視点から分析し、英語教材として有用な英語テキスト開発を試みる。中等教育の現場で活用することができる英語散文（小説）、英語散文（エッセイなど）、英米詩、戯曲などの英語科教育教材を受講者自らが開発できるように、英語学の立場から動機づけを与える。受講者が自分なりの教材を選定し、その教案を作成し、模擬授業の形式を用いて全員の前で発表する。その直後に行う合評会にて、さらに効果的な英語科教材のあり方について議論する。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のA、Cと強く関連している。
達成目標	1) 中等英語教育において必要とされている英語科教材を英語学（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の立場から分析することができる。（A,C） 2) 英語学の基礎能力を活用して教材分析を行い、実際の教育現場で教材として利用することができる。（A,C） 3) 毎回の授業で英語の疑問点や問題点について、質問を考え解決する方法の提案ができる。（A,C）
キーワード	音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・教材分析及び教材作成の実践等の評価 50%（達成目標1）2）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）3）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語教材分析と教材作成が具体的に視覚化できるようになること。
教科書	英単語の語源図鑑／清水健二・すずきひろし／かんき出版／978-7612-7345-3
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史、英語探究、英語内容論
参考書	英語学リーダー／河井迪男編注／英宝社／4-269-61025-5
連絡先	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
授業の運営方針	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
アクティブ・ラーニング	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説を加え、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進捗など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
課題に対するフィードバック	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	辞書（電子辞書可）を持参すること。
その他（注意・備考）	予習・復習をしっかりとすること。辞書を必ず持参すること。

科目名	英語科教材分析・開発演習B（FES06400）
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials B
担当教員名	香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	現行の英語科教科書に使われている、文学作品を素材にした教材を実例として分析する。（中学校）
2回	現行の英語科教科書に使われている、文学作品を素材にした教材を実例として分析する。（高等学校）
3回	第1回、第2回の講義での作品の分析結果に基づいての討議、その結果の発表により、成果を共有する。
4回	事前課題で提示された作品群から、指導案を作成するための作品を選ぶ。その際に必要な視点（英米圏の文化）について、各自で作品中の疑問点をもとに討議し、発表する。
5回	各自で指導案の素案を事前に準備し、小グループで議論し、修正する。結果を提出する。
6回	指導案の素案の返却結果に基づき、模擬授業に向けての指導案を修正する。
7回	修正した指導案に基づき、10分程度の短時間で模擬授業を実行する。
8回	模擬授業の内容について、小グループで議論する。その際、議論の対象とする模擬授業は、そのグループ以外のメンバーのものとする。
9回	模擬授業についての議論をふまえて指導案を再び修正し、担当者に提出する。
10回	指導案の返却結果に基づき、小グループで討議する。
11回	小レポートの返却結果に基づき、模擬授業の指導案を修正する。
12回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。担当者は短いコメントをする。
13回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。前回の模擬授業を行った学生の様子を参考にすること。担当者は短いコメントをする。
14回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。担当者は短いコメントをする。（3）
15回	文学作品を教材とする意義について、小グループで議論し、その結果を小レポートにまとめて担当者に提出する。

回数	準備学習
1回	中学校英語科で文学作品が使われている事例を調べておくこと。（標準学習時間60分）
2回	高等学校英語科で文学作品が使われている事例を調べておくこと。（標準学習時間60分）
3回	第1回、第2回の講義での発表内容を振り返っておくこと。（標準学習時間60分）
4回	事前配付資料を熟読して、作品を選んでおくこと。
5回	指導案の素案を作成すること。（標準学習時間90分）
6回	指導案について、よかった点／悪かった点を振り返っておくこと。（標準学習時間30分）
7回	模擬授業の展開について考えておくこと。（標準学習時間60分）
8回	前回の模擬授業の内容をよく吟味しておくこと。（標準学習時間60分）
9回	これまでの議論や自身の調査に基づいて指導案を修正すること。（標準学習時間90分）
10回	自身の指導案について、内容を把握すること。（標準学習時間60分）
11回	自身の指導案について、内容を把握すること。（標準学習時間60分）
12回	自身の指導案について、内容を把握すること。（標準学習時間60分）
13回	自身の指導案について、内容を把握すること。（標準学習時間60分）
14回	自身の指導案について、内容を把握すること。（標準学習時間60分）
15回	自身の指導案のみならず、グループ内メンバーの指導案についても、内容をよく吟味しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	中等教育の現場で文学作品が扱われている現状を把握したのち、担当者が事前に複数の文学作品（短篇小説、詩）を列挙し、そのなかから受講者は任意のひとつを選択し、それをもとに教材を作成し、模擬授業を行いつつ指導案を作成する。適宜、担当教員が作品についての解説や解釈の方法論を講義するものの、このクラスは「アクティブ・ラーニング」の手法を中心として進め、受講者が積極的に参加する形式で行う。文学作品を教育現場の応用する際の基本的知識を身につけることが目的となる。（中等教育学科英語教育コース卒業認定・学位授与の方針A, Bに強く関与する。）
達成目標	中等教育における英語科の授業で文学作品を素材として扱ううえで、 1. 作品の選定とテーマの設定 2. ディスカッションの導き方 3. 試験やレポート課題の設定

	といった諸点について理解したうえで、指導することができる。(A, B) 4. 受講者が独自の視点から自作の教材を指導案として作成できる。(A, B)
キーワード	英語文学 英語教育
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	模擬授業40%、指導案40%、小レポート20% の総計で60%以上を合格とする。 評価の観点：模擬授業の内容、ディスカッションの結果に基づく指導案の改善の度合いを重視する。模擬授業に対する受講生たちのコメントも、評価項目である。 指導案は、作品に対するテーマの適切な設定と、自身の見解を導き出しつつ、生徒に教える一連の流れを評価する。
教科書	使用しない。ハンドアウトを配付する。
関連科目	英米文学概論、英米文学史、英米文学講読、英語科内容論B
参考書	適宜、解釈についての参考図書を紹介する。
連絡先	A1 10階 香ノ木研究室
授業の運営方針	・自由な発言を期待するが、他者を傷つけるような発言とならないように留意することを求めます。 ・作品の解釈が、模擬授業でいかに生徒に効果的に伝わるかという内容面と、文法等の語学面との双方を常に意識して、模擬授業を進めることを要求します。
アクティブ・ラーニング	作品の解釈のためのディスカッションを、積極的に取り入れる。
課題に対するフィードバック	提出物は、次回の授業時に必ずコメントと共に返却する。 指導案は、作品の的確な解釈と明快な説明、そして語学面という3点を基に評価する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、随時、申し出ること。 自分の行う模擬授業の録音や録画は許可する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語科教材分析・開発演習C (FES06500)
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials C
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価等について説明する。
2回	英語科教育における「異文化理解」とは：異文化接触と異文化理解、文化絶対主義と文化相対主義、文化一般的異文化理解と文化特定の異文化理解、英語の論理と異文化間コミュニケーション、論理的思考力の育成について解説する。
3回	英語教科書におけるリーディング教材について異文化理解の視点から分析を実施する。
4回	英語教科書におけるライティングおよびスピーキング教材について異文化理解の視点から分析を実施する。
5回	クリティカル・リーディングに関して教材比較分析を実施する。
6回	ロジカル・ライティングとロジカル・スピーキングに関して教材比較分析を実施する。
7回	英語教科書の中の世界の多様な文化について教材分析を実施する
8回	英語教科書の中の異文化接触と異文化理解について教材分析を実施する。
9回	カルチャー・アシミレーターに関して教材比較分析を実施する。
10回	ロール・プレイに関して教材比較分析を実施する。
11回	クリティカル・リーディングに関して教材開発を実践する。
12回	ロジカル・ライティング、ロジカル・スピーキングに関して教材開発を実践する。
13回	カルチャー・アシミレーター（英語版）に関して教材開発を実践する。
14回	開発教材に関してグループ発表とピア・フィードバックを実施する。
15回	教材開発を通して異文化理解の向上に英語科教育が果たす役割についてまとめ、ディスカッションを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
3回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
4回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
5回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
6回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
7回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
8回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
9回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
10回	配付資料を読んでおくこと。英語教材の問題を解いておくこと。（標準学習時間90分）
11回	教材づくりの準備をすること。（標準学習時間120分）
12回	教材づくりの準備をすること。（標準学習時間120分）
13回	教材づくりの準備をすること。（標準学習時間120分）
14回	プレゼンテーションの準備をすること。他のプレゼンテーションの内容について要点をまとめておくこと。（標準学習時間120分）
15回	他のプレゼンテーションの内容について要点をまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	英語科教育における異文化理解に関連した基礎的知識を概観し、異文化言語である英語や世界の多様な文化の問題が、中学校・高等学校の英語教科書においてどのように扱われているのかについて、多角的視点から捉えることができるようになることを目指す。異文化理解を促進する意図で開発された既存の教材との比較分析も行い、異文化理解を促進する英語教育教材を開発することを目的とする。
達成目標	(1)中学校・高等学校の英語教科書の中で取り扱われている多様な文化について複眼的視点から説明することができる (A) (2)異文化理解の視点を組み入れた英語教育教材を作ることができる。 (A,C) (3)英語という言葉の持つ異文化性に気づき、論理的思考力育成を意図した英語教育教材を作ることができる。 (A,C)
キーワード	異文化間コミュニケーション能力の育成、論理的思考力の育成、クリティカル・リーディング、ロジカル・ライティング、ロジカル・スピーキング、カルチャー・アシミレーター、ロール・プレイ、異文化理解のための英語教育教材の開発
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60	・レポート課題（教材分析）50%(到達目標(1)を確認)

点)	・作品（教材開発）50%(到達目標(2)(3)を確認)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	英語科内容論C、英語科教材分析・開発演習A、英語科教材分析・開発演習B
参考書	異文化間コミュニケーションワークブック / 八代京子他 / 三修社 / 978-4384018516 英語ロジカル・ライティング講座 / ケリー伊藤 / 研究社 / 978-4327452438
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの評価については、教員および学生からのコメントをフィードバックする。 ・レポートについては、コメントを付した評価を研究室にて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、英語教育についてグローバル教育の観点から実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	情報リテラシー（FES06600）
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	松岡律（まつおかただし）,大熊一正（おおくまかずまさ）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業オリエンテーション及び岡山理科大学におけるICT機器（学習管理システム含む）の使い方を説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
2 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(1) Microsoft Wordを利用した自己紹介新聞の作り方の概要を説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
3 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(2) Microsoft Wordにおいて書式と罫線の使い方を説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
4 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(3) Microsoft Wordにおいてオブジェクトを利用する操作について説明する。 （課題提出1） （松岡 律,大熊 一正）
5 回	Microsoft Excelの操作（1） 表計算の基本的な操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出2） （松岡 律,大熊 一正）
6 回	Microsoft Excelの操作（2） グラフ・オブジェクトの操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出3） （松岡 律,大熊 一正）
7 回	WordとExcelの連携 データ・オブジェクトの共有方法について説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出4） （松岡 律,大熊 一正）
8 回	インターネットの基礎(1) インターネットの歴史とメールの仕組みについて説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
9 回	インターネットの基礎(2) Web情報検索の基礎的な知識について説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
10 回	情報モラル ネット社会のルールとメディア・リテラシーについて説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
11 回	最終課題課題作成（1） 最終課題として、学修教材を作ることの意義とその方法について説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
12 回	最終課題作成（2） 教材の視覚的レイアウトについて説明する。 （松岡 律,大熊 一正）
13 回	最終課題作成（3）

	教材作成におけるキャプション利用と画像の加工方法について説明する。 (松岡 律,大熊 一正)
1 4 回	最終課題作成 (4) 作成した教材をメディア・リテラシー的観点から再考する。 (松岡 律,大熊 一正)
1 5 回	最終課題作成 (5) 作成した教材のプレゼンテーション方法とその評価方法を説明する。 (松岡 律,大熊 一正)

回数	準備学習
1 回	キーボードやマウスの使い方など、Windowsの基本的操作を理解しておくこと。 U S Bメモリー等、必要なものを準備しておくこと。 (標準学習時間30分)
2 回	Microsoft Wordの基本的操作を確認しておくこと。 自己紹介の内容を考えておくこと。 (標準学習時間30分)
3 回	書式設定と罫線の利用方法を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
4 回	文字列とオブジェクトの位置関係および調整方法について理解しておくこと。 (標準学習時間30分)
5 回	Microsoft Excelの基本操作を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
6 回	グラフの作成法およびアレンジ方法について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
7 回	アプリ間でのデータのやり取りについて、確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
8 回	インターネットの歴史について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
9 回	効率的なweb検索について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 0 回	著作権について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
1 1 回	小中学校の授業で配る想定教材プリントについて構想を練っておくこと。 (標準学習時間30分)
1 2 回	見やすいプリントに必要な条件について考えておくこと。 (標準学習時間30分)
1 3 回	画像処理ソフトを使った画像の加工に挑戦しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 4 回	教材プリントに投影されている作者の意図、特徴について考察しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 5 回	教材のポイントをまとめておくこと。 (標準学習時間30分)

講義目的	コンピューター操作に習熟するために、ワード、エクセル等のアプリケーションを駆使して様々な課題作成を行い、グラフィカルな教材を効果的に作成する基本的技法を身につけると同時に、インターネットの歴史、電子メールやweb情報検索の基礎、および情報モラル、メディア・リテラシー等に関する知識の習得を通じ、情報のトータルな理解を目指す。 (学位授与の方針にもっとも強く関与)
達成目標	(1) コンピューターやOSの基本的仕組みを説明できる。(C) (2) ワープロ、表計算ソフトの基本的な操作ができる。(C) (3) ネットワークの基本的知識や情報モラルを身につける。(C) (4) 1～3 の知識・技能を用いて効果的な教材等を作成できる。(C)
キーワード	情報モラル, Microsoft Office
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出1～4 :計50% (達成目標(1)～(3)の達成度を評価)、 最終課題(50%) (達成目標(1)～(4)の達成度を評価)、 により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない

関連科目	ICT活用教育
参考書	できるWord 2016 Windows 10/8.1/7対応/田中 亘/インプレス/9784844339205 できるExcel 2016 Windows 10/8.1/7対応/小舘 由典/インプレス/9784844339199
連絡先	松岡研究室(A1号館9階) E-mail:matsuoka (アットマーク)ped.ous.ac.jp 大熊研究室(C9号館4階) E-mail:ohkuma (アットマーク) ice.ous.ac.jp オフィスアワーはmylogを参照してください。
授業の運営方針	基本的に実習形式をとる。 受講者それぞれのスキルと関心に基づいた質問およびそれに対する教員サイドからの応答によって 進行していくため、受講者の意欲的な参加が大前提となる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	模範解答例について、授業の都度提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	配布資料は、適宜授業中に配布する。また、必要に応じて課題に対するフィードバックを行う。

科目名	I C T活用教育（FES06700）
英文科目名	Education Utilizing ICT
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）, 津田秀哲＊（つだひでのり＊）, 坂本南美（さかもとなみ）, 榊原道夫（さかきはらみちお）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	I C T活用教育の概要について説明する。 ICTとは何かについて利用面と技術面を重点に学修する。また、教育への応用の有用性と問題点について講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
2回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどインターネットについて全般的、基本的な事項を重点に講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
3回	インターネット上のコンテンツ利用における注意点特に著作権について講義する。また教育に利用できる教材の紹介する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
4回	教育の情報化について解説し、教育現場で必要とされているICT 活用能力について解説する。新学習指導要領実施に向けた自治体間でのICT 環境整備の格差とその問題点について解説する。 （津田 秀哲＊）
5回	教育現場でのICT活用実践事例を紹介しながら、効果的な活用方法について解説する。書画カメラ等を使った効果的な教材提示とそうでない例を挙げながら解説する。 （津田 秀哲＊）
6回	学校現場におけるセキュリティ管理と情報モラル教育の進め方について解説する。 ・学級担任が扱う個人情報の種類と情報の扱いの留意点について解説する。 ・デジタルデータ管理の留意点について解説する。 ・情報モラル教材の体験を行い、その活用方法などについて解説する。 （榊原 道夫）
7回	授業で活用できる既存のデジタル教材について紹介する。 デジタル教科書の歴史、新学習指導要領実施とタブレット端末、デジタル教科書の可能性について解説する。 教育現場でのデジタル教科書の活用事例を紹介し、効果的な活用方法を解説する。 （津田 秀哲＊）
8回	電子黒板（タッチディスプレイ型、プロジェクター型）、デジタル教科書を実際に操作する。学校現場における表計算ソフトの活用事例を紹介し、その実用性について説明する。 （高原 周一, 坂本 南美）
9回	評価のためのI C T活用事例を紹介する。 表計算ソフトを用いた成績処理の実習を行い、効率的で充実した評価に向けたI C Tの活用について検討する。 （津田 秀哲＊）
10回	プレゼンテーションソフトを用いた授業について紹介し、実践的に授業で扱える教材を作成する。 （坂本 南美）
11回	学生がプレゼンテーションソフトを用いた活動を発表し合い、リフレクションをもとにディスカッションを行う。 （坂本 南美）
12回	教材研究や授業における効果的なICTの導入・活用について、プレワークをもとにディスカッションを行う。

	ンする。ディスカッションを踏まえ、ICTを用いた国語・英語の授業案を作成する。 (高原 周一,坂本 南美)
1 3 回	オンライン学習ツールのアプリを紹介し、授業中だけでなく、学習者が家庭学習として活用できる活動をワークショップ形式で理解する。 (坂本 南美)
1 4 回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけについて説明する。プログラミング的思考とは何かを概説する。小・中学校で導入されているプログラミング教育の現状を紹介する。スクラッチ等のプログラミングツールの使用方法を説明し、実際に簡単なプログラムを作ってみる。 (高原 周一)
1 5 回	プログラミングを完了させる。グループで作品を見せ合い、さらにはグループ内で評価の高い作品を全体で共有する。 授業でのICT活用事例について紹介する。 ・動画の活用, リアルタイムの映像のスクリーンへの投影 ・電子黒板とタブレットの連動 (高原 周一)

回数	準備学習
1 回	ICT、ICT利用、ICT利用と教育などのキーワードよりインターネット上の記述内容について調べておくこと。また、図書館等で関連する図書を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどを調べておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	著作権について全般的に調べておくこと。特にGNUライセンスを詳しく調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	自分の出身県や教授受験を考えている自治体のICT環境整備状況を調べ、他の自治体と比べ問題点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	1時間の授業を想定し、どの場面で書画カメラを使うと効果的な学習指導ができるか授業の略案を作成すること。 (標準学習時間120分)
6 回	学校現場におけるセキュリティ管理と情報モラル教育について図書館等で調べておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	自分が使用しているスマホ等のアプリで学習に活用できるアプリを5つ以上調べておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	デジタル教科書の特徴、効果的な活用方法について復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
9 回	Excelの操作方法を復習し、よく用いられる関数について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 0 回	学習用アプリを用いた授業について具体的な活動を復習すること。 パワーポイントの使用方法について復習しておくこと。 (標準学習時間120分)
1 1 回	プレゼンテーションソフトを用いた授業教材を発表できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間120分)
1 2 回	中高の国語科・英語科を想定し、ICT導入によるメリットとデメリットをワークシートに書き出して、授業前日までに提出すること。 (標準学習時間60分)
1 3 回	オンラインで学習できるアプリについて調べ、その特徴と効果について議論できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間120分)
1 4 回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけ、および「プログラミング的思考」とは何かについて調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 5 回	小・中学校で導入されているプログラミング教育の実例について調べておくこと。 電子黒板とタブレットを連動させて行われている授業の実例を調べておくこと。 (標準学習時間60分)

講義目的	本授業では、ICT技術の急速な進展と社会への波及効果を見据えながら、教育現場で教員がICTを活用する能力及び児童、生徒がICTを様々な学習の場面で活用できるように指導できる能力を養う。
------	--

	この講義は中等教育学科各コースの学位授与の方針Cに最も強く関与する。
達成目標	(1) ICT活用教育の意義、学習指導要領における扱い、教育現場での普及状況について説明できる。(C) (2) ICT活用教育を進める上で必要となるセキュリティ管理、情報モラル教育の進め方について説明できる。(C) (3) 児童・生徒のICT活用学習を指導する際の注意点を説明できる。(C) (4) ICT活用教育で使われる代表的なデジタル教材および機器を活用できる。(C) (5) 教育評価にICTを活用できる。(C) (6) 初歩的なICT活用教材（プログラミング含む）を作成することができる。(C)
キーワード	ICT活用教育、セキュリティ管理、情報モラル教育、デジタル教材・機器、プログラミング教育、ICT活用事例
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	個人に提出させるレポート50%（到達目標1～3を確認）、教材等の成果物50%（到達目標4～6を確認）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	情報リテラシー
参考書	
連絡先	高原周一 A1号館3階319 E-Mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp 坂本南美 A1号館10階1008 E-Mail: sakamoto[アットマーク]ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は教室で紙媒体で配布するが、必要に応じてweb上にもアップロードする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実験・実習 グループ内で作品をプレゼンテーションし批評し合うという形のアクティブラーニングを実施する。表計算ソフトを使った課題作成やプログラミング等の実習を行う。
課題に対するフィードバック	レポートについては授業の中でコメントすることによりフィードバックを行う。教材等の成果物に対しては優秀な作品を全体に紹介したり、改善すべき点を指摘することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	津田秀哲：26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。 坂本南美：元公立中学校勤務。学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	特別支援教育論（FES06800）
英文科目名	Special Needs Education
担当教員名	吉利宗久＊（よしとしむねひさ＊）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。特別支援教育の歴史と基本的仕組みを解説する。
2 回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校の目的等を中心に解説する。
3 回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校への就学手続き等を中心に解説する。
4 回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を特別支援学級の視点から解説する。
5 回	5 回 通常の学校における特別支援教育の制度と現状を通級による指導の視点から解説する。
6 回	視覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
7 回	聴覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
8 回	知的障害者教育の実態と基礎について解説する。
9 回	肢体不自由者教育の実態と基礎について解説する。
1 0 回	病弱者教育の実態と基礎について解説する。
1 1 回	言語障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 2 回	自閉症・情緒障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 3 回	発達障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 4 回	特別支援教育をめぐる新たな動向（インクルーシブ教育を中心に）について解説する。
1 5 回	特別支援教育をめぐる新たな動向（個別の教育支援計画を中心に）について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認と復習 第2回目授業までに参考書などにより、特別支援教育の基礎に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
2 回	特別支援教育の歴史や新しい動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第3回授業までに参考書などにより、特別支援学校への就学に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
3 回	特別支援学校の目的や種別を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第4回授業までに参考書などにより、特別支援学級に関し予習を行うこと。（標準学習時間180分）
4 回	特別支援学級の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第5回授業までに参考書などにより、通級による指導に関し予習を行うこと。（標準学習時間180分）
5 回	通級による指導の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第6回授業までに参考書などにより、視覚障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	視覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第7回授業までに参考書などにより、聴覚障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	聴覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第8回授業までに参考書などにより、知的障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	知的障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第9回授業までに参考書などにより、肢体不自由教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）

9回	肢体不自由教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第10回授業までに参考書などにより、病弱教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	病弱教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第11回授業までに参考書などにより、言語障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	言語障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第12回授業までに参考書などにより、自閉症・情緒障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	自閉症・情緒障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第13回授業までに参考書などにより、発達障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	発達障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第14回授業までに参考書などにより、インクルーシブ教育の動向に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
14回	インクルーシブ教育の動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第15回授業までに参考書などにより、個別の教育支援計画に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	個別の教育支援計画の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと これまでの講義を振り返りながら、障害者問題に関する情報収集を心がけること。(標準学習時間120分)
16回	試験に備えて、1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	特別支援教育に関する基礎的な理論の理解を意図し、歴史的な変遷、法制度の内容、障害種別に基づく指導法の原則について教授する。 中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針Eに関連する科目である。 中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	特別支援教育の基礎を理解するとともに、障害のある子どもに関する支援の動向を把握する。(国語教育コースE、英語教育コースD)
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育、障害
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小レポート(50%)、最終評価試験(50%)により評価する。
教科書	新しい特別支援教育のかたち—インクルーシブ教育の実現に向けて/培風館/ISBN-13: 978-4563052492
関連科目	障害関係科目
参考書	講義中に適宜アナウンスする。
連絡先	yositosi@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	特別支援教育の基本的な内容を扱う。日常的な関連情報の収集を希望する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッションや演習的内容も設定する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどを活用して質問を受け付け、次回回答する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 適宜相談を受け付ける。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	E S D理論と実践 (FES07100)
英文科目名	Theory and and Practical Approach to ESD
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	E S D創設の経緯や意義について解説する。
2 回	持続可能な社会づくりに関わる問題を抽出・選択し、それらの特性について考察する。
3 回	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力や態度について考察する。
4 回	持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす視点について解説する。
5 回	E S Dの視点に立った学習指導を進める上での留意事項について解説する。
6 回	E S Dの視点に立った学習指導の枠組みについて解説し、その実践例を紹介する。
7 回	総合的な学習の時間とE S Dの関連について解説する。
8 回	探究的な学習とE S Dの関連について解説する。
9 回	学社連携におけるE S Dの意義や内容について解説する。
1 0 回	E S Dにおける多様な主体の協働 (マルチ・ステークホルダー) について解説する。
1 1 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。〈その1 ; 教材の選定〉
1 2 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。〈その2 ; 教材の分析〉
1 3 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。〈その3 ; 指導計画の作成〉
1 4 回	E S D化された指導計画を発表・共有し、改善点等について考察する。
1 5 回	試験 (ペーパーテスト) を実施し、授業の達成目標を自己評価する。

回数	準備学習
1 回	【予習】E S Dとは何かについて、インターネットや文献等から調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S D創設の経緯と意義を理解し、E S Dの概要を説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
2 回	【予習】持続可能な社会につながる全世界的な問題のうち、教材として取り上げてみたいものについて調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりに関わる問題の特性を説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
3 回	【予習】学習指導要領で重視されている「生きる力」を構成する資質・能力について復習し、口頭で説明できるようにしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S Dで重視する能力や態度について説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】「システム」から連想されることや意味することをインターネットや文献等から調べて整理しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりの視点を理解し、活用できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】「地域の魅力を発見しよう」の学習を展開する場合の指導方法を考え、まとめておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dを進める上での留意事項を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
6 回	【予習】これまでの学習内容 (能力・態度、構成概念) を再確認して理解しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みを理解し、説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
7 回	【予習】各自の小・中・高等学校での「総合的な学習の時間」の内容を思い出して整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】総合的な学習の時間の趣旨を理解し、E S Dとの関連が説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
8 回	【予習】各自の「総合的な学習の時間」を探究的なものにするための構想を描いておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の過程を理解し、授業計画を構想できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
9 回	【予習】自身が受けてきた学校教育の中で、実社会とのつながりを意識した経験を整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの視点から、学校教育と社会教育の共通点・相違点、相互関連性を整理しておくこと (標準学習時間90分)。

10回	【予習】学校教育を充実する上で活用できそうな、学校外の実教育資源の例を考えて整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】多様な主体の協働の重要性や有効性を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】これまでの学習内容を再確認して理解しておくとともに、配付物を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】選定した教材について、各自の専門教科の側面から分析しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】選定した教材について、ESDの視点に基づいて分析しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ESDの視点に基づいた教材の分析を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】ESDの視点に基づいた指導計画を立案しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】ESD化された指導計画を完成させておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】各自が作成した指導計画について、指定された時間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】各自が作成した指導計画を評価しておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】解説を踏まえながら試験の結果を振り返り、達成目標を自己評価しておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	ユネスコが主導し全世界的な取組になっているESD（持続可能な開発のための教育）について、その理論や教育方法等に関する講義、実践事例の紹介、授業設計の演習等を通して、ESDの目的や内容についての理解を深めるとともに、ESDの指導過程を構想・展開するための考え方や方法を習得する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	①持続可能な社会づくりに関する現状と課題について理解を深め、ESDの理論と実践の必要性を説明することができる（D）。 ②小・中・高等学校等におけるESD実践の目標・内容・方法等について理解し説明することができる（D）。 ③ESDの効果的な教材や指導方法、教科等の連携、学社連携等について、事例に基づきながら理解し説明することができる（D）。 ④ESDの授業が設計・実践できる力の基礎を身に付け、指導計画を立案・作成することができる（D）。
キーワード	ESD, 持続可能な開発のための教育, 環境・経済・社会・文化, 問題解決学習, 総合的な学習の時間
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・提出物60%（達成目標②③④）、第15回の授業で実施する試験40%（達成目標①②）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	・使用しない。授業中に資料を配付する。
関連科目	・各教科の指導法を履修し（履修中を含む）、学習指導案が作成できるようになっていることが望ましい。
参考書	・授業中に適宜紹介する。
連絡先	・D2号館4F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・初回の授業は、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合は、事前に連絡・相談すること。 ・毎回の授業でワークシート（本時の目標、本時の課題に対する自身の考えや他者との協議結果、本時の振り返りや自己評価等を記述する欄から構成）を配付し、学生の主体的、協働的な授業が展開されるよう配慮する。欠席した場合は、次時で配付するので、申し出ること。 ・教育実習、介護等体験、教育現場観察実習等で欠席する場合は、事前に「欠席届」を提出すること。 ・第15回の授業で実施する試験は、自筆のワークシート・ノート（コピーは不可）、配付資料の持ち込みを可能とするが、不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	・小集団でのワークショップ、全体での発表・協議など
課題に対するフィードバック	・課題（【予習】で示した内容）については、次時の授業において討論や発表等を通して深化させる。 ・授業中に作成したワークシートは、授業後に回収して内容を確認し、次時に返却する。 ・第15回の授業で実施する試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する。他者への再配布は禁止する。
実務経験のある教員	ア) 元公立高等学校教諭。 イ) 環境省・文部科学省の環境教育やESDに係わる委員や、学校現場での教育経験を活かし、ES

	Dの理論と実践について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	比較言語文化論 (FES07400)
英文科目名	An Approach to Contrastive Linguistics
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき), 河原修一 (かわはらしゅういち), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「比較言語文化論」について、担当教員がそれぞれ内容を紹介し、共通するテーマを確認し、講義の概要や評価について説明する。質疑応答を含む。その後、1 回目の授業を河原が担当する。Chr10川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳『The Izu Dancer』(部分)を比較する。表題内容の違いを考察する。(全教員、河原 修一) Chr10 (全教員、河原 修一)
2 回	引続き、原作と英訳を比較する。文法に関わる日本語と英語の表現の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
3 回	引続き、原作と英訳を比較する。語彙に関わる日本語と英語の表現の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
4 回	サイデンステッカーのエッセー「翻訳ということ」(日本語訳)を参照しながら、翻訳の態度に窺われる民族性と文化の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
5 回	英語の中の多文化共生について論じる。文法・語彙・借用語の問題について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
6 回	英語の中の多文化共生について論じる。文法の問題について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
7 回	英語の中の多元性について論じる。語彙について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
8 回	英語と日本語の多元的側面について論じる。諺について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
9 回	20世紀初頭の英米文学における「モダニズム」に対する、東洋圏の文学の影響について講義する。初回は、モダニズムの成立について、その背景にある時代情勢と、文学史上の位置づけとについて解説する。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
10 回	モダニズムの旗手、エズラ・パウンドが、日本の短詩型文学から受けた影響について紹介し、その特徴について論じる。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
11 回	エズラ・パウンドに対して、中国の漢詩が与えた影響について紹介し、その特徴について論じる。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
12 回	モダニズムという思潮が、英米文学から日本文学に移行した影響関係について、日本の詩人による作品を基に具体例を示して解説する。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
13 回	日中言語比較研究：日本語と漢語の相違点・共通点について論じる。(奥野 新太郎) (奥野 新太郎)
14 回	日本語と漢字・漢語(1)：漢語から見た現代日本語の諸問題について論じる。(奥野 新太郎) (奥野 新太郎)

15回	日本語と漢字・漢語（2）：現代日本語の中で漢語が果たしている役割について論じる。（奥野新太郎） （奥野 新太郎）
-----	---

回数	準備学習
1回	比較言語文化とは何かについて、それぞれ考えてみること。（標準学習時間60分）
2回	第1回に配付された川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳『The Izu Dancer』（部分）を通読しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳『The Izu Dancer』（部分）を通読しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳『The Izu Dancer』（部分）を通読しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	事前に配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
6回	事前に配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
7回	事前に配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
8回	事前に配付された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
9回	事前配布資料に基づき、モダニズムの概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
10回	モダニズム成立の基になった19世紀末から20世紀初頭の社会の動きを復習したうえで、パウンドの詩との関連を考えておくこと。（標準学習時間60分）
11回	パウンドの詩に対する日本文学の影響を復習し、漢詩の場合はどのような共通／差異があるかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
12回	東洋圏文学・芸術がモダニズムに影響を与え、そのモダニズムが日本文学に影響を与えるという円環構造を意識して、配布資料に基づき作品の解釈を考えておくこと。（標準学習時間60分）
13回	配布された資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
14回	授業中に指示された課題や調べ物をやってくること。（標準学習時間60分）
15回	授業中に指示された課題や調べ物をやってくること。（標準学習時間60分）

講義目的	日本語（漢文を含む）と英語を比較し考察することにより、それぞれの言語の歴史や構造・特質および文化的背景をより深く理解することを目指す。自然現象や社会における人間関係、ことわざ、感情や思想などにかかわる表現について、日本語・英語における表現の仕方と特徴を明らかにする。（国語教育コースのディプロマポリシーA・B、英語教育コースのディプロマポリシーD・Eに対応する）
達成目標	現代を生きる日本人の多様な生活の中で、日本語と英語がどのような場面や状況でどのように使われているのかを探究することによって、ことばの意義を理解し、その適切な運用能力の基礎を培う。日英比較表現からみた日英文化の教育的意義を把握するとともに、その内容を教育実践の場で活かす。
キーワード	語彙、語彙量、和語、漢語、外来語、混種語、敬語、方言、流行語、ことわざ、意味論、語彙構造、語形成、音韻変化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テストまたは小レポート（活動報告）により各担当者が評価した点数を合計し、60点以上を合格とする。授業担当者4人は各25点を満点として評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	「現代人とことば」（1年次）
参考書	担当教員が随時紹介する。
連絡先	A1号館9階Chr10 河原研究室、奥野研究室Chr10A1号館10階Chr10 地村研究室、香ノ木研究室Chr10
授業の運営方針	配布するプリントなどをよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みがレポートの場合、回収時に全体に説明する。（ただし、授業の進度など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて変わる。）
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	国語辞典、漢和辞典、英和辞典等の辞書（電子辞書可）を各自用意すること。

科目名	現代社会と地域と子ども (FES07500)
英文科目名	Contemporary Society, Community, and Children
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「こども」と「地域」とは ～家庭や地域社会の現状～
2回	「現代社会」の変遷と子育て (1)戦後の経済成長からバブル期の社会変化と子どもの生活
3回	「現代社会」の変遷と子育て (2)平成の30年間の社会変化と子どもの生活
4回	「現代社会」の変遷と子育て (3)学校教育の変化と子どもの生活
5回	子どもを取り巻く社会教育 (1)様々な社会教育施設
6回	子どもを取り巻く社会教育 (2)NPOや民間の主催する社会教育
7回	子どもを取り巻く社会教育 (3)学童保育、フリースクール、こども食堂
8回	自分の地域での子どもの置かれている状況を知る
9回	地域社会とこどもの関わり (1)子ども会、少年団
10回	地域社会とこどもの関わり (2)「地域」の隙間を埋めるIT社会
11回	地域社会の子育て環境 (1)地域協同の組織化
12回	地域社会の子育て環境 (2)主体的な学びを産み出す地域社会
13回	学校と地域を結ぶ教師の課題 (1)子どもと学校、教師と地域社会
14回	学校と地域を結ぶ教師の課題 (2)学校文化と家庭・地域社会を結ぶ教師の役割
15回	まとめ

回数	準備学習
----	------

講義目的	子どもの育ちと地域社会の関わりについて、その意味と可能性を考察する。背景となる地域社会の変動や社会変革について理解し、子どもの置かれる環境が子どもの育ちに及ぼす影響について学び、これからの社会における、子どもと地域との関わりについてその可能性を探る。
達成目標	現代社会が子どもの育ちにとってどのような課題を持っているのかを認識し、教師としてどのように立ち向かうかを考える視点を持つことが目標である。そのために、現代社会についてより幅広い視野で見渡すことができるようになるとともに、子どもの置かれている状況を把握したり子育て支援の必要性についての認識を深めることを目標とする。
キーワード	現代社会、地域社会、社会教育
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	レポート (50%)、授業で行う演習 (30%)、授業中の活動 (20%) を総合して評価する。
教科書	使用しない
関連科目	
参考書	適宜指定する
連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	・ 授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・ 遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・ 全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。 ・ 最終評価試験は実施しないので授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション ・ 協働的なワークショップ、授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。
課題に対するフィードバック	・ 毎回のレポート「質問」には次回の講義内で返答する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合があるので事前に相談すること。 ・ 障害に応じて補助器具 (ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能) の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布 (ネットへのアップロードを含む) や転用は禁止する。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。

科目名	Practical Communication I (FES07600)
英文科目名	Practical Communication I
担当教員名	ナカムライエン＊（なかむらいえん＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 1 Identity に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 1 Identity に関して、プレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 2 Sports に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
5回	Unit 2 Sports に関して、プレゼンテーションを実施する。
6回	U1-U2の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 3 The Night に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
8回	Unit 3 The Night に関して、プレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 4 Fashion に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
10回	Unit 4 Fashion に関して、プレゼンテーションを実施する。
11回	U3-U4の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 5 Homes に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
13回	Unit 5 Homes に関して、プレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの授業内容の復習をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第一段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認）、 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認）で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8

関連科目	Practical Communication II-IV、発信英語 I-IV
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。
連絡先	ian.naka17(at)yahoo.com
授業の運営方針	授業中は私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑になる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication I (FES07610)
英文科目名	Practical Communication I
担当教員名	ナカムライエン＊（なかむらいえん＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 1 Identity に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 1 Identity に関して、プレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 2 Sports に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
5回	Unit 2 Sports に関して、プレゼンテーションを実施する。
6回	U1-U2の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 3 The Night に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
8回	Unit 3 The Night に関して、プレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 4 Fashion に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
10回	Unit 4 Fashion に関して、プレゼンテーションを実施する。
11回	U3-U4の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 5 Homes に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
13回	Unit 5 Homes に関して、プレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの授業内容の復習をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第一段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認）、 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認）で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8

関連科目	Practical Communication II-IV、発信英語 I-IV
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。
連絡先	ian.naka17(at)yahoo.com
授業の運営方針	授業中は私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑になる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication II (FES07700)
英文科目名	Practical Communication II
担当教員名	ナカムライエン＊（なかむらいえん＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 6 Buying & Selling に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 6 Buying & Selling に関して、プレゼンテーションを実施する。
4回	U6の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
5回	Unit 7 Weather に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
6回	Unit 7 Weather に関して、プレゼンテーションを実施する。
7回	Unit 8 Mysteries に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
8回	Unit 8 Mysteries に関して、プレゼンテーションを実施する。
9回	U7-U8の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
10回	Unit 9 Education に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
11回	Unit 9 Education に関して、プレゼンテーションを実施する。
12回	Unit 10 Water に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
13回	Unit 10 Water に関して、プレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの授業内容の復習をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第二段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAを深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題を英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8

関連科目	Practical Cummmunication I, III, IV、発信英語 I-IV
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。
連絡先	ian.naka17(at)yahoo.com
授業の運営方針	授業中は私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題はコメントを付けて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication II (FES07710)
英文科目名	Practical Communication II
担当教員名	ナカムライエン＊（なかむらいえん＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 6 Buying & Selling に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 6 Buying & Selling に関して、プレゼンテーションを実施する。
4回	U6の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
5回	Unit 7 Weather に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
6回	Unit 7 Weather に関して、プレゼンテーションを実施する。
7回	Unit 8 Mysteries に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
8回	Unit 8 Mysteries に関して、プレゼンテーションを実施する。
9回	U7-U8の学修についてReviewを実施する。小テストを実施する。
10回	Unit 9 Education に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
11回	Unit 9 Education に関して、プレゼンテーションを実施する。
12回	Unit 10 Water に関して、リスニングおよびスピーキングを実施する。
13回	Unit 10 Water に関して、プレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
16回	これまでの授業内容の復習をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第二段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAを深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題を英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8

関連科目	Practical Cummmunication I, III, IV、発信英語 I-IV
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。
連絡先	ian.naka17(at)yahoo.com
授業の運営方針	授業中は私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題はコメントを付けて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication III (FES07800)
英文科目名	Practical Communication III
担当教員名	フィリップガジオン＊（ふいりっぷがじおん＊）
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 1 Food に関してリスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 1 Food に関してプレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 2 Festivals に関してリスニングおよびスピーチを行う。
5回	Unit 2 Festivals に関してプレゼンテーションを実施する。
6回	U1-2の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 3 Cities に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
8回	Unit 3 Cities に関してプレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 4 Jobs に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
10回	Unit 4 Jobs に関してプレゼンテーションを実施する。
11回	U3-4の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 5 Music に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
13回	Unit 5 Music に関してプレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第3段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針（DP）のAを深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)
関連科目	Practical Communication I, II, VI、発信英語I-VI
参考書	使用しない。適宜参考資料を配付する。

連絡先	Email: philgudge(at)gmail.com
授業の運営方針	授業中には私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication III (FES07810)
英文科目名	Practical Communication III
担当教員名	デイビッドロビンソン＊（でいびっどろびんそん＊）
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 1 Food に関してリスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 1 Food に関してプレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 2 Festivals に関してリスニングおよびスピーチを行う。
5回	Unit 2 Festivals に関してプレゼンテーションを実施する。
6回	U1-2の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 3 Cities に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
8回	Unit 3 Cities に関してプレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 4 Jobs に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
10回	Unit 4 Jobs に関してプレゼンテーションを実施する。
11回	U3-4の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 5 Music に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
13回	Unit 5 Music に関してプレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第3段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針（DP）のAを深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)
関連科目	Practical Communication I, II, VI、発信英語I-VI
参考書	使用しない。適宜参考資料を配付する。

連絡先	davek18417@gmail.com
授業の運営方針	授業中には私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication IV (FES07900)
英文科目名	Practical Communication IV
担当教員名	フィリップガジオン＊（ふいりっぷがじおん＊）
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 6 Journeys に関してリスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 6 Journeys に関してプレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 7 Family に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
5回	Unit 7 Family に関してプレゼンテーションを実施する。
6回	U6-7の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 8 Nature に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
8回	Unit 8 Nature に関してプレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 9 Happiness に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
10回	Unit 9 Happiness に関してプレゼンテーションを実施する。
11回	U8-9の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 10 Conservation に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
13回	Unit 10 Conservation に関してプレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていただける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第4段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針（DP）と深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)
関連科目	Practical Communication I, II, III、発信英語I-VI
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。

連絡先	Email: philgudge@gmail.com
授業の運営方針	授業中には私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題はコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	Practical Communication IV (FES07910)
英文科目名	Practical Communication IV
担当教員名	デイビッドロビンソン＊（でいびっどろびんそん＊）
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 6 Journeys に関してリスニングおよびスピーキングを実施する。
3回	Unit 6 Journeys に関してプレゼンテーションを実施する。
4回	Unit 7 Family に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
5回	Unit 7 Family に関してプレゼンテーションを実施する。
6回	U6-7の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
7回	Unit 8 Nature に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
8回	Unit 8 Nature に関してプレゼンテーションを実施する。
9回	Unit 9 Happiness に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
10回	Unit 9 Happiness に関してプレゼンテーションを実施する。
11回	U8-9の学習についてReviewを実施する。小テストを実施する。
12回	Unit 10 Conservation に関してリスニングおよびスピーチを実施する。
13回	Unit 10 Conservation に関してプレゼンテーションを実施する。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を実施する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。（Practical Communication 1～4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第4段階目にあたる。） 中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針（DP）と深く関連している。
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題について英語で話すことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト30%（達成目標1,2を確認） プレゼンテーション・スピーチ30%（達成目標1,2を確認） 口述試験20%（達成目標1,2を確認） 最終評価試験（ライティング）20%（達成目標1,2を確認） で評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)
関連科目	Practical Communication I, II, III、発信英語I-VI
参考書	使用しない。適宜資料を配付する。

連絡先	davek18417@gmail.com
授業の運営方針	授業中には私語やスマートフォンの使用など、他の受講者の迷惑となる行為をしないこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	提出課題はコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	多文化コミュニケーション活動 (FES08000)
英文科目名	Activities for Cross-cultural Communication
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	国際ボランティアの出身国の文化理解のために、他文化を読み解く視点(ホフステードの5次元モデル、文化の世界地図等)について学習する。地域社会における外国人との共生と英語教育をつながりて考える視点についても学ぶ。その上で、海外から招聘した4名の外国人ボランティアメンバーと協働し、地域の児童・生徒の多文化理解教育に役立つ英語コミュニケーション活動を企画し、実施する。
準備学習	毎回の授業で設定されたテーマや課題については、グループ・メンバーや国際ボランティアと話し合い(国際ボランティアが来日する前はメールやSkypeなどICTで連絡)、次の授業までにアイディアや解決策をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。プレゼンテーションのために配布資料を受講者全員分用意し、ポイントを明確に提示できるようにすること。(標準学習時間120分)
講義目的	本実習は、異なる文化を背景にもつ人々との協働により、グローバルな社会で必要とされる多文化コミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。地域の児童や生徒を対象とした国際教育プログラムを外国人学生とともに企画・実施することを通して、地域社会の異文化理解向上に貢献することを目的としている。中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針(DP)のDと強く関連している。
達成目標	・教育的視点を組み入れて立案した国際理解教育プログラムに関してポートフォリオを作成することができる。(D,E) ・活動全体を通して獲得したローカル社会とグローバル化社会を繋げる視点について文章で説明することができる。(D,E) ・活動全体を振り返り、クリティカルな視点で自己の成長や国際理解教育の在り方について分析した結果を文章で説明することができる。(D,E)
キーワード	国際理解教育、英語活動、異文化理解、異文化間コラボレーション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート課題50%、国際教育活動に関するポートフォリオ50%
教科書	使用しない。適宜必要な資料を配布します。
関連科目	国際理解教育概論、異文化理解、英語科内容論C
参考書	特になし。適宜必要な資料を配布します。
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業の中で行う活動には積極的に参加し、主体的に考えて行動すること。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	・課題は採点し、コメントとともに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な国際教育交流の指導を行う。
その他(注意・備考)	毎回の実習授業には必ず出席し、ディスカッションおよび国際教育活動の企画・運営には主体的・積極的な関わりが持てるよう努めること。無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	探究ゼミ I (FES08100)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の目的と進め方、成績評価について説明する。 第 2 回の準備学習として、問いを立てる意味について、「探究」をキーワードとして学習する。
2 回	世の中に対して問いを立てる (1) 問いの立て方について、学究的な視点、探究的な視点に注意しつつ、実践的に学習する。
3 回	世の中に対して問いを立てる (2) 立てた問いについて、グループで意見交換を実施する。他者の意見や批評を通じて、自分の問いを深める。
4 回	世の中に対して問いを立てる (3) 班内でプレゼンテーションを実施する。併せて、他者のプレゼンテーションを評価する方法についても学習する。
5 回	グループ代表によるクラス内プレゼンテーションを実施する。 また、それぞれ自身のプレゼンテーションをレポートとしてまとめる (次回までの課題)。その際、レポートの書き方についても説明する。
6 回	自分自身を問う (1) 前回までの活動で得た学びを踏まえ、今度は自分自身に関する内省的な探究について学習する。
7 回	自分自身を問う (2) 自分自身に関わる内省的な特性や疑問について、班内意見交換を通じて深める。
8 回	自分自身を問う (3) 意見交換で深められたものを整理し、班内でプレゼンテーションを実施する。
9 回	グループ代表によるクラス内プレゼンテーションを実施する。 また、それぞれ自身のプレゼンテーションをレポートとしてまとめる (次回までの課題)。レポートの書き方についても再度説明する。
10 回	大学生としてどう生きるか (1) 自分自身の大学生活について、グランドデザインを考える。4 年間を通じての自己課題を設定する。
11 回	大学生としてどう生きるか (2) 他人との意見交換を通じて、自らのデザインを反省的に深めてゆく。
12 回	大学生としてどう生きるか (3) 各班員のグランドデザインや課題を踏まえて、その実現や達成に繋がりうる具体的な活動を企画する。
13 回	大学生としてどう生きるか (4) 第 12 回で立てた企画をグループごとに実施する。
14 回	大学生としてどう生きるか (5) 活動の成果について批判的に振り返り、まとめる。
15 回	全体のまとめとして、授業を通じて得た学びについてプレゼンテーションを実施する。 また、それぞれ自身のプレゼンテーションをレポートとしてまとめる (次回までの課題)

回数	準備学習
1 回	日常生活で感じたことのある疑問を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	探究してみたい疑問について、報道やインターネットなどで関連情報を集めておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	自分の意見を他者にわかりやすく伝えるための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	プレゼンテーションの準備、及び他者のプレゼンテーションを評価するための注意項目を自分で考えてくること。(標準学習時間60分)
5 回	他班の発表を正確に理解し、かつ批判的に見るために、チェック項目を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	自分という人間について分析的に見つめ直し、ワークシートを仕上げてくること。(標準学習時間60分)
7 回	他者と意見を交換し合うための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	他班の発表を正確に理解し、かつ批判的に見るために、チェック項目を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	小・中・高と大学の違いについて考えておくこと。(標準学習時間60分)

1 1 回	各課題の大小や優先順位、相互の関連性について考えておくこと。（標準学習時間60分）
1 2 回	課題に即した活動を事前に具体的に考えておくこと。（標準学習時間60分）
1 3 回	成果に結びつけるための方途や工夫を考えておくこと。（標準学習時間90分）
1 4 回	成果として挙げられるものや、反省すべき点を、理由も含めて整理しておくこと。（標準学習時間60分）
1 5 回	全体の場合でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	“大学生としてどう生きるか？”を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生活への導入を行う。後半は、5～6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育のあり方など、主に大学4年間のすごし方をめぐり学生たちが様々な課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う。これらの活動を通じて学生が学びの意義を理解し、主体的に大学生活に参加できるようになることを目的とする。 この科目は中等教育学科国語教育コース「学位授与の方針」のB、D、Eと深く関連している。
達成目標	(1)大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握し、この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できる。(A,B,D,E) (2)大学での学びの意義について、文章で書き表すことができる。(A,B,D,E) (3)グループ活動の成果についてプレゼンテーションをすることができる。(A,B,D,E) (4)グループ活動の成果についてレポートにまとめることができる。(A,B,D,E)
キーワード	探究活動、プレゼンテーション、問いかけ、討論、批評、実践、反省、レポート作成
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	探究ポートフォリオ20%（到達目標(2)(4)を確認） 課題ごとのレポート40%（到達目標(1)(2)(4)を確認） プレゼンテーション（到達目標(3)を確認） により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	探究ゼミⅡ
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9階 奥野研究室 Email okunishi★ped.ous.ac.jp [★→@] 086-256-9444（研究室） オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加することが求められる。探究ポートフォリオは毎回持参すること。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。
課題に対するフィードバック	レポートは、コメントを付けて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	グループ活動を実施するため、無断欠席は認めない。 体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	探究ゼミ I (FES08110)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。イントロダクションとして、問いを立てる意味について学習する。
2 回	世の中に対して問いを立てる(1)：問いを立てることについて説明する。探究作業に参加する。
3 回	世の中に対して問いを立てる(2)：世の中に対して問いを立てることについて、グローブで意見交換を実施する。
4 回	世の中に対して問いを立てる(3)：班内でプレゼンテーションを実施する。
5 回	世の中に対して問いを立てることに関して、グループ代表によるプレゼンテーションを実施する。
6 回	自分自身を問う(1)：探究作業に参加する。
7 回	自分自身を問う(2)：班内で意見交換を実施する。
8 回	自分自身を問う(3)：班内でプレゼンテーションを実施する。
9 回	自分自身を問うことに関して、グループ代表によるプレゼンテーションを実施する。
10 回	大学生としてどう生きるか(1)：探究作業に参加する。
11 回	大学生としてどう生きるか(2)：意見交換と課題設定を実施する。
12 回	大学生としてどう生きるか(3)：具体的な企画を実施する。
13 回	大学生としてどう生きるか(4)：具体的な行動計画を準備する。
14 回	大学生としてどう生きるか(5)：活動の成果について整理する。
15 回	全体のまとめとして、プレゼンテーションを実施する。

回数	準備学習
1 回	日常生活における不思議について考えておくこと。
2 回	新聞等を読んで、自分が分からないことをまとめておくこと。
3 回	第2回を踏まえて、自分の意見を他者に伝える準備をしておくこと。
4 回	第3回を踏まえ、自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。
5 回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。
6 回	自己認識、自己概念、Iとmeなどについて調べておくこと。
7 回	他者と意見を交換し合うための準備をしておくこと。
8 回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。
9 回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。
10 回	小・中・高と違う大学の特徴について考えておくこと。
11 回	どの課題を選ぶか、考えておくこと。
12 回	課題を踏まえ次に何をするか考えておくこと。
13 回	引き続き、成果に結びつけるための方途を考えておくこと。
14 回	成果として挙げられるものを、理由も含めて考えておくこと。
15 回	全体の場合でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。

講義目的	“大学生としてどう生きるか？”を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生活への導入を行う。後半は、5～6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育のあり方など、主に大学4年間の過ごし方をめぐり学生たちが様々な課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う。これらの活動を通じて学生が学びの意義を理解し、主体的に大学生活に参加できるようになることを目的とする。中等教育学科学位授与の方針(DP)のDと深く関係している。
達成目標	(1)大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握し、この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できる。(A,B,D,E) (2)大学での学びの意義について、文章で書き表すことができる。(A,B,D,E) (3)グループ活動の成果についてプレゼンテーションをすることができる。(A,B,D,E) (4)グループ活動の成果についてレポートにまとめることができる。(A,B,D,E)
キーワード	探究、主体的学び
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	探究ポートフォリオ20%(到達目標(2)を確認) 課題ごとのレポート40%(到達目標(1)(2)を確認) プレゼンテーションと最終レポート40%(到達目標(3)(4)を確認) により成績評価し、総計60%以上を合格とする。

教科書	使用しない。
関連科目	探究ゼミⅡ
参考書	適宜紹介する。
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	・授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加することが求められる。 探究ポートフォリオは毎回持参すること。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートは、コメントを付けて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、グローバル化社会で役立つグループ活動の指導を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	探究ゼミⅡ（FES08200）
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクションー探究テーマを考える
2回	プランニング(1)ー1stプロジェクトを構想する
3回	プランニング(2)ー1stプロジェクトを決定する
4回	プランニング(3)ープロジェクト発表（班代表）＋意見交換をする
5回	プランニング(4)ープロジェクトを準備する
6回	1stプロジェクト実行(1)ー実際にプロジェクトを実施する
7回	1stプロジェクト実行(2)ー実際にプロジェクトを実施する
8回	リフレクション(1)ー1stプロジェクトの振り返りをする
9回	プランニング(5)ー2ndプロジェクトを構想する
10回	プランニング(6)ー2ndプロジェクトの内容を検討する
11回	プランニング(7)ー2ndプロジェクトの内容を決定する
12回	2ndプロジェクト実行(1)ー実際にプロジェクトを実施する
13回	2ndプロジェクト実行(2)ー実際にプロジェクトを実施する
14回	リフレクション(2)ー2ndプロジェクトの振り返りをする
15回	リフレクション(3)ー学年全体で選抜チームによるプレゼンを行う

回数	準備学習
1回	「探究ゼミⅠ」の成果と今後の課題を整理しておくこと（標準学習時間30分）
2回	グループ討論の準備（アイデア準備）をしておくこと（標準学習時間30分）
3回	第2回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと（標準学習時間30分）
4回	10分程度のプレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間60分）
5回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと（標準学習時間30分）
6回	個々の役割分担等について整理し、準備しておくこと（標準学習時間90分）
7回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと（標準学習時間30分）
8回	各班でプレゼンテーションの準備をしておくこと（標準学習時間90分）
9回	地域と関わる活動について考えておくこと（標準学習時間30分）
10回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと（標準学習時間30分）
11回	前回の議論から、プランを整理しておくこと（標準学習時間30分）
12回	各自の役割を明確にし、準備をしておくこと（標準学習時間90分）
13回	地域との関わりを明確にしておくこと（標準学習時間30分）
14回	1stプロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと（標準学習時間90分）
15回	1年間の振り返りを通して探究ノートにきちんとまとめること（標準学習時間60分）

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重して、調和することの大切さを学ぶ。また、活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示及び討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。（中等教育学科学位授与の方針 英語教育コース：Dにもっとも強く関与）
達成目標	「探究ゼミⅠ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身に付ける。(D)そして他者の発表を自らと比較しながら、それぞれの長所を見出し、深く理解できるようにする。(D)
キーワード	探究力、プロジェクトワーク、プレゼンテーション、課題発見
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	探究ゼミノート50％、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50％により成績評価し、総計60％以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	探究ゼミⅠ
参考書	学生からの問い合わせに応じ、適宜、指示する。
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844

	E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー：火曜日 2・3限
授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイトなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・プロジェクトやプレゼンテーションの場面では、準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・イベント実施を行う。
課題に対するフィードバック	・課題は評価後、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かし、教師として必要な資質・能力の育成を目指して実践的内容において講義する。
その他（注意・備考）	講義ではプロジェクト実施をはじめ、グループ活動、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	探究ゼミⅡ（FES08210）
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	札埜和男（ふだのかずお）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクションー探究テーマを考える。
2回	プランニング(1)ー1stプロジェクトを構想する。
3回	プランニング(2)ー1stプロジェクトを決定する。
4回	プランニング(3)ープロジェクト発表（班代表）＋意見交換をする。
5回	プランニング(4)ープロジェクトを準備する。
6回	1stプロジェクト実行(1)ー実際の取組を行う。
7回	1stプロジェクト実行(2)ー実際の取組を行う。
8回	リフレクション(1)ー1stプロジェクトの振り返りをする。
9回	プランニング(5)ー2ndプロジェクトを構想する。
10回	プランニング(6)ー2ndプロジェクトの内容を検討する。
11回	プランニング(7)ー2ndプロジェクトの内容を決定する。
12回	2ndプロジェクト実行(1)ー実際の取組を行う。
13回	2ndプロジェクト実行(2)ー実際の取組を行う。
14回	リフレクション(2)ー2ndプロジェクトの振り返りをする。
15回	リフレクション(3)ー学年全体で選抜チームによるプレゼンを行う。

回数	準備学習
1回	「探究ゼミⅠ」の成果と今後の課題を整理しておくこと（標準学習時間30分）
2回	グループ討論の準備（アイデア準備）をしておくこと（標準学習時間30分）
3回	第2回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと（標準学習時間30分）
4回	10分程度のプレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間60分）
5回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと（標準学習時間30分）
6回	個々の役割分担等について整理し、準備しておくこと（標準学習時間90分）
7回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと（標準学習時間30分）
8回	各班でプレゼンテーションの準備をしておくこと（標準学習時間90分）
9回	地域と関わる活動について考えておくこと（標準学習時間30分）
10回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと（標準学習時間30分）
11回	前回の議論から、プランを整理しておくこと（標準学習時間30分）
12回	各自の役割を明確にし、準備をしておくこと（標準学習時間90分）
13回	地域とのかかわりを明確にしておくこと（標準学習時間30分）
14回	1stプロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと（標準学習時間90分）
15回	1年間の振り返りを通して探究ノートにきちんとまとめること（標準学習時間60分）

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重して、調和することの大切さを学ぶ。また、活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示及び討論の助言を行う。活動の成果は学生個々人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。（中等教育学科学位授与の方針 国語教育コース：Aにもっとも強く関与）
達成目標	「探究ゼミⅠ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身に付ける。(D)そして他者の発表を自らと比較しながら、それぞれの長所を見出し、深く理解できるようにする。(A)
キーワード	探究力、研究力、フィールドワーク、プロジェクトワーク、プレゼンテーション、課題発見
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	探究ゼミノート50％、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50％により成績評価し、総計60％以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	探究ゼミⅡ・Ⅲ
参考書	問い合わせに応じ、適宜指示する。
連絡先	A1号館 9階 札埜研究室 直通電話：086-256-9843

	E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・講義内容を補足するためにゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。 ・欠席については、公共交通機関の乱れ・忌引き・実習等に関しては配慮する（ただし、連絡があった場合に限る）。 ・グループでの学習が多くなるので、積極的に参加して協力する授業姿勢を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク 随時テーマについてディスカッションしたり、プレゼンテーションを行ったり、グループワークを行う。
課題に対するフィードバック	提出課題については講義中に解説したり紹介しながらフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	特記なし。

科目名	探究ゼミⅢ (FES08300)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、探究ゼミⅢの目的を理解する。
2回	プランニング(1)として、各自の進路目標を宣言する。
3回	プランニング(2)として、キャリアアドバイザーの講話から学ぶ。
4回	プランニング(3)として、ゲストティーチャーからの学びを整理する。
5回	プランニング(4)として、これからの大学での学びを考える(ゼミ)。
6回	グループワーク(1)として、希望進路ごとに情報交換する。
7回	グループワーク(2)として、課題と対策を明確化する。
8回	プレゼンテーションとして、互いの進路目標と対策を発表する。
9回	大学での学びのゴールを定める。
10回	ゼミ研究(1)として、様々な研究を知る。
11回	ゼミ研究(2)として、様々な研究を知る。
12回	ゼミ研究(3)として、様々な研究を知る。
13回	ゼミ研究(4)として、研究テーマを決定する。
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について、検討する。
15回	最後の1年の過ごし方を定める。

回数	準備学習
1回	自分の進路について、考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	2分程度のプレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	残り2年間でどんな学びを深めたいか、考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	志望する業界について、情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	目的達成のためにどうすればいいか、考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	卒業に向けた研究について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	卒業に向けた研究について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	卒業に向けた研究について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卒業に向けた研究について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	卒業に向けた研究について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	大学での学びと実社会との関係について、考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんと纏めること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学など、進路決定に向けた行動を探究することを目標とする。具体的には、教職への適性を考え、教員として教育現場で実践できるだけの基礎力を培うためにすべきことや、教員以外で希望する業界で可能性を生かすために必要なことは何かといった課題を設定して、調査・報告などの活動を行うことによって、進路への意識を高める。また、外部講師を招き、社会人として持続可能な社会貢献等についても議論し、理解を深める。中等教育学科国語教育コースの学位授与の方針(DP)のDと強く関連している。
達成目標	1. 気づきと学びを自分自身の内面で醸成する作業を通じて、研究に昇華することができる。 2. 卒業後の自分の生き方を考え、イメージすることができる。
キーワード	探究活動 意思決定
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%(達成目標1, 2を確認)により評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	「探究ゼミⅠ」「探究ゼミⅡ」「教育研究ゼミナール」
参考書	学生からの問い合わせに応じて、適宜、指示する。
連絡先	河原研究室(A1910)
授業の運営方針	学生自身の主体性を尊重する。
アクティブ・ラーニング	課題や問題点について、ディスカッションする。
課題に対するフィード	提出された課題について、コメントする。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供します。で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	ア) 元栃木県立高等学校勤務 イ) 進路支援の経験を生かす。
その他（注意・備考）	

科目名	探究ゼミⅢ (FES08310)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクションー探究ゼミⅢの目的を理解する
2回	プランニング(1)ー各自の進路目標を宣言する。
3回	プランニング(2)ーキャリアアドバイザーの講話から学ぶ。
4回	プランニング(3)ーゲストティーチャーからの学びを整理する。
5回	プランニング(4)ーこれからの大学での学びを考える。(ゼミ)
6回	グループワーク(1)ー希望進路ごとに情報交換する。
7回	グループワーク(2)ー課題と対策を明確化する。
8回	プレゼンテーションー互いの進路目標と対策を発表する。
9回	大学での学びのゴールを定める。
10回	ゼミ研究(1) 様々な研究を知る。
11回	ゼミ研究(2) 様々な研究を知る。
12回	ゼミ研究(3) 様々な研究を知る。
13回	ゼミ研究(3) 研究テーマを決定する。
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について検討する。
15回	最後の1年の過ごし方を定める。

回数	準備学習
1回	自分の進路について考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	2分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	残り2年間でどんな学びを深めたいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	志望する業界について情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	目標達成のためにどうすればいいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	希望の研究テーマを確定しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	大学での学びと実社会との関係について考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学などの学生自身の進路決定に向けた行動への企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自身の進路への意識を高める。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(中等教育学科学位授与の方針 国語教育コース：A、英語教育コース：Dにもっとも強く関与)
達成目標	「探究ゼミⅠ」「探究ゼミⅡ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、自身の将来像について真剣に考え、その成果を効果的に発表するスキルを身につける。(D) 他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できるようになること。(D)
キーワード	探究活動 意思決定
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	探究ゼミⅠ 探究ゼミⅡ
参考書	学生からの問い合わせに応じ、適宜、指示する。
連絡先	香ノ木研究室 (A1 1010)
授業の運営方針	受講生の積極的な行動を最大限に尊重するが、規律ある態度であることを要求します。

アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、グループワークを導入します。
課題に対するフィードバック	提出課題には、コメントを付して必ず次回に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	グループディスカッション、グループワークを中心とする、アクティブラーニング形式で行う。

科目名	探究活動Ⅰ（FES08400）
英文科目名	Investigation ActivitiesⅠ
担当教員名	紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、観察の視点の持ち方や事象へのアプローチの方法を、事例を基にして説明する。
2回	標本作製の目的や手順を十分に理解した上で、本キャンパス内の木本植物で葉の標本作製を行う。
3回	十分に乾燥させた標本を冊子にし、葉の特徴や標準和名・学名等を記載した後、フィールドに出て実際の植物の外観を観察する。
4回	キャンパス内で観察される木本植物を選択し、その植物についての解説をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。
5回	地域調査、およびフィールドワークの意味を理解し、追求するテーマを設定する。調査活動についての計画の立案をする。（場所、データ収集の観点、準備物等）
6回	計画をもとにフィールドワークを行う。
7回	グループごとにフィールドワークの結果を地図にまとめ、発表する。（ワークショップ形式）
8回	フィールドワークと実地調査を振り返り探究活動の意義について話し合う。最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1回	第2回までに両担当の講義概略を確認しておくこと。（60分）
2回	第2回の準備物として水彩画用の平筆または大筆、木工用ボンド、新聞紙1枚が必要。植物図鑑でキャンパス内の植物が大まかに同定できるようにしておくこと。（60分）
3回	第4回のプレゼンテーションに備えて、最低5本のTEDを視聴し、学習した点を記録すること。（60分）
4回	木本植物をあらかじめ決定しておき、第4回のプレゼンテーションの準備を十分に行うこと。（60分）
5回	フィールドワークの観点を設定できるように、岡山理科大学構内、および周辺の地図を概観しておくこと。（60分）
6回	第1回フィールドワークの目的やコース、収集すべき情報をグループで確認しておくこと。（60分）
7回	フィールドメモをもとに、フィールドノーツを作成すること。（100分）
8回	フィールドワークや実地調査の意義や手法、分析について復習しておくこと。（120分）

講義目的	教師に求められる実践的指導力は、科学的、客観的態度で物事の本質を追究し続ける力が基盤となっている。この授業では課題に気づき、考え、理解し、発信する学習サイクルを重視し、そのために必要な探究する力と言葉の力を培うための基礎能力をアクティブラーニングによって養うことを目標とする。（この講義は初等教育学科の学位授与方針のE、C、Dに強く関与する）
達成目標	① 環境に恵まれた本学周辺エリアの自然・文化・歴史等について理解を深め、グループ単位でテーマを設定することができる。（E） ② 観察や見学、調査・討論などの他者と協同して問題を解決するための活動の方法や思考法を身につけることができる。（C） ③ グループ単位でプレゼンテーションを行い、成果を共有するとともに批判的な視点から議論することができる。（D）
キーワード	探究する力・言葉の力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験50%（主に達成目標1、2を評価）、プレゼンテーション40%（主に達成目標2、3を評価）、レポート10%（主に達成目標1を評価）により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	探究活動ⅡA、探究活動ⅡB、探究活動ⅡC
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室、10F 山下研究室
授業の運営方針	・課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・グループ活動が中心となる。そのため遅刻や課題未提出、必要な材料・道具を忘れること等グループに迷惑をかけることが重なれば欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお特別な事情のない限り後日の配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	実験・実習：野外観察やフィールドワークを行う。

グ	グループワーク：地図やプレゼンテーションの作成，発表を行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート，およびミニレポートは添削・評価の後，次時の授業時間に返却する。 ・最終試験評価試験を35分行い，10分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供するので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	・元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者が，その経験を生かして自然観察やフィールドワーク等，課題の探究の手法や留意点等について解説・指導する。
その他（注意・備考）	・探究活動Ⅰは主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の意義と基本的な方法を習得するための講義である。自ら進んで参加する姿勢をもって講義に臨むこと。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。 ・講義中の録音，録画，撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。

科目名	探究活動ⅡA (FES08500)
英文科目名	Investigation Activities IIA
担当教員名	山下浩之 (やましたひろゆき)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションおよび野外活動における一般的な注意および解説を行う。実態調査を綿密に行い、安全面への意識を高めた上で日程やグルーピングを行う。
2 回	旭川の地質・地形・気象・水質・動植物について解説し、それらがカヌー実習に及ぼす影響と、カヌーによって始めて体感できる内容を理解する。
3 回	カヌーの名称や特性、操縦法の基本を解説するとともに野外活動における危険性とその回避方法について理解する。
4 回	現地の実習場所で地理・地形・水量・危険区域・危険生物等をグループごとに把握する。
5 回	現地の実習場所で、現地での危険をどのように回避すればいいかをグループごとに議論する。
6 回	現地の実習場所で、危険項目の洗い出しと回避方法をグループごとに発表し、議論する。
7 回	現地実習場所で、全員の健康状態を把握した後、ライフジャケットの使用法、浮かび方、安全姿勢等を学ぶ。
8 回	現地実習場所で、パドルの操作方法と前進および後退・回転方法を身につける。
9 回	現地実習場所で、カヌーの乗降りおよび沈した場合のレスキュー方法を身につける。
10 回	旭川周辺の動植物について解説し、実際に同定ができるようにする。生息環境から、生息条件を推測できるようにする。
11 回	旭川と百間川の歴史を追いながら、川とどのようなつきあい方を行い、どのように変え、どのように利用したかを実際の遺跡を見学しながら考察する。
12 回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、それぞれのテーマでまとめる。
13 回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、修正し、発表に備える。
14 回	全グループを半分に分け、前半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。
15 回	全グループを半分に分け、後半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。

回数	準備学習
1 回	旭川の上流から下流までの流路を地形図で確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	旭川の流域の地質・地形について、地質図等で確認しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	カヌーの名称や特性について、十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	旭川の危険生物について、十分に調べておくこと。(標準学習時間45分)
5 回	危険回避の方法について十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	現地下見を行う観点を自分なりに整理しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	ライフジャケットの使用法、スローボトルでの救助法などを予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	パドルの操作方法について十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	カヌー実習時の緊急事態を想定し、どのような救急方法を行うか、また、レスキューをどのように行ったらいいかを十分に検討しておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	旭川の周辺にどのような生物が生息しているかをそれぞれの分類グループに分けておくこと。(標準学習時間60分)
11 回	旭川のこれまでの歴史をたどりながら、利用法や災害時の状況および対策を調べておくこと。(標準学習時間60分)
12 回	自分なりのテーマを設定し、グループでの発表に備えること。(標準学習時間60分)
13 回	発表の分担を決め、分担部分については十分に準備を行っておくこと。(標準学習時間60分)
14 回	プレゼンテーションに向けてのリハーサルを行い、改善および修正を行うこと。(60分)
15 回	グループごとの発表に積極的に意見ができるようにしておくとともに、自分たちのグループの発表全体の総括を行う(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は自然探究活動を中心とした体験重視の授業である。主な目的はカヌーの技能や危険回避等のテクニックを身につけることはもちろんのこと、将来フィールドでの指導者として必要な資質や能力の育成を図るものである。初等教育学科の学位授与DPの方針BおよびCに関連する科目である。
達成目標	・野外での自然探究活動における注意点を理解し、危険性を回避する方法を学ぶことができる。(B) ・水上でのツールとなるライフジャケット使用法やカヌー操縦の基礎を習得することができる。(B)

	・野外での自然観察を通して抱いた疑問を解決するためのアプローチの仕方，調べ方を習得することができる．（B） ・調べたことがらをまとめ，テーマをもって論理性のあるプレゼンテーションを行うことができる．（C）
キーワード	カヌー・危険回避・フィールド学習・自然探究・協力性・指導法・旭川・百間川・発表法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・カヌーの基本的な操作法が身につけていること(チェック法20%)．・下見の方法や観点を身につけて実習を行っていること(主にレポート20%)・安全面の確保を十分に行った上で実習していること(チェック法20%)・発表方法を習得していること(チェック法20%)・グループの中で活発な議論を行っていること(主にレポート20%) これらの合計100%のうち60%以上を合格とする．
教科書	適宜配布する．
関連科目	探究活動Ⅰ（山下担当分）
参考書	シリーズ『岡山学』3～6，旭川を科学する Part 1～4．（吉備人出版） 「カヌー&カヤック入門（辰野 勇著）山と溪谷社
連絡先	山下研究室A1号館10F1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita@ped.ous.ac.jp（◎はat sign） オフィスアワー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	・授業は安全第一で行うので心がけること． ・予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する． ・授業の始めに出席をとるが，返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること． ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする． ・全てのレポートを期限内に提出すること．期限を過ぎての提出は減点対象にする． ・関係者全員に挨拶をすること． ・最終評価試験は実施しないので，授業時間と授業時間外での活動が重要である．課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある．
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・プレゼンテーション ・基本的にはまず自分自身でデータを取り，その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う． ・授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく．さらにグループで意見を集約して発表する． ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う．
課題に対するフィードバック	・予習復習課題は採点后，返却する． ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし，内容を学生全体で共有した上で相互評価する． ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある．
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください． ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り，許可する場合があるので事前に相談すること． ・障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること． ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する．
実務経験のある教員	ア）元小学校勤務イ）学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題（フィールドでの学習の問題点）と教育的効果について講義する。
その他（注意・備考）	本授業はアクティブラーニングによって本講義目標達成を目指す．本授業は受講者の安全と体験の質確保のために今年度から抽選により40名の履修制限を行うこととする．また，この授業は集中で行われるため，主に土曜日日曜日に行われることも考慮すること．日程については後日教育学部掲示板9F10F等に掲示する．受講決定後5日以後のキャンセルは認めないので注意すること．指導計画は受講状況により変更することがある．

科目名	探究活動ⅡB（FES08600）
英文科目名	Investigation Activities IIB
担当教員名	紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、学校教育現場で必要とされる課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力の構成要素について理解する。
2 回	科学的・客観的態度に基づく情報分析の手法（「問題をどうたてるかー原因を考え問題を整理する」「理論と経験とをつなぐー具体的証拠を集める」）について理解する。
3 回	博物館、フィールドワーク、社会的調査、文献検索等、課題解決のための情報コンテンツの特質と情報収集の方法について理解する。
4 回	情報の構成の仕方（プレゼンテーション・新聞等）について理解する。（ワークショップ形式）
5 回	瀬戸内の博物館や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性の概要の理解をもとに、グループで探求する課題の設定と課題追求のための計画の立案を指導する。
6 回	第1回 調査活動を行う。（岡山シティミュージアム・岡山県立博物館等）
7 回	第1回 調査活動のまとめを行う。（情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など）
8 回	第2回 調査活動を行う。（造山古墳、吉備津神社、岡山城、吉備国分寺等）
9 回	第2回 調査活動のまとめをする。（情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など）
10 回	これまでの調査活動を振り返り、テーマにそった新聞の構成（レイアウト、見出し、リード文、記事）方法についての説明を受け、グループごとに新聞作成を行う。
11 回	グループごとに発表を行い、情報の構成、内容、レイアウト等の観点をもとに意見交換を行う。（ワークショップ形式）
12 回	社会調査についての計画を立てる。
13 回	アンケートを作成し、実施するための準備をする。
14 回	アンケート結果を分析し、調査結果をプレゼンテーションで発表するための準備・練習を行う。
15 回	社会調査の結果についてプレゼンテーションを行う。
16 回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1 回	探究活動ⅡBのシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。（1時間）
2 回	高根正昭著「方法の創造学」に目を通し、問題解決の方法論について整理しておくこと。（2時間）
3 回	課題解決のコンテンツとしての岡山市周辺の博物館や資料館等の情報を集めておくこと。（1時間）
4 回	身近な新聞記事やドキュメンタリー映像に目を通し、効果的な情報の伝え方について考えておくこと。（1時間）
5 回	岡山市の歴史・自然・文化について課題設定を行い、探求活動のテーマを設定しておくこと。（2時間）
6 回	設定したテーマに基づき、管内の展示物、資料等についての情報を収集しておくこと。（1.5時間）
7 回	調査活動で取得した情報（資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど）を追究するテーマごとに整理すること。（1.5時間）
8 回	調査活動を行う博物館、資料館についての詳細な情報を収集しておくこと。（歴史、特徴など）（1.5時間）
9 回	調査活動で取得した情報（資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど）を追究するテーマごとに整理すること。（1.5時間）
10 回	第2回講義の情報分析の手法に基づき、これまでに収集した情報を整理しておくこと。作業の内容・分担をグループで相談して決めておくこと（2時間）
11 回	グループで発表の準備練習を進めておくこと。（2時間）
12 回	岡山理科大学の学生について調べてみたいテーマについて設定しておくこと。（1時間）
13 回	岡山理科大学の学生を対象にアンケートを実施し、観点にそって整理しておく。（2時間）
14 回	アンケート結果から明らかになったことを考察しておくこと。（2時間）
15 回	プレゼンテーションの準備・練習をしておくこと。（2時間）
16 回	新聞作成の方法（情報収集・記事の書き方・見出し・リード・レイアウト）や社会調査に関わる概念（原因と結果の考察、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数等）について復習し説明が

	できるようにしておくこと。(2.5時間)
講義目的	瀬戸内や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性を生かし、仮説の設定、情報収集、検証、立論という計画をたて、見学や観察、調査活動などのアクティブラーニングを実施することを通して、探究に必要な観察力、課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力を身に着けることを目的とする。(この講義は教育学部の学位授与方針のD、Eに強く関与する。)
達成目標	1. 社会研究の方法を理解し、探究活動に生かすことができる。(D、E) 2. 1の方法論に基づき、自らが設定したテーマについて仮説を設定し、検証し、理論を導き出すことができる。(E) 3. 研究の成果をプレゼンテーション等で効果的に伝えることができる。(D)
キーワード	情報活用能力、情報コンテンツの活用、原因と結果の論理、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数、検証、概念、作業定義、統制された変数
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	新聞20%(主に達成目標1、2を評価)、発表40%(主に達成目標2、3を評価)、最終評価試験40%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
教科書	『創造の方法学』／高根正昭／講談社現代新書
関連科目	探究活動Ⅰを受講しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・グループ活動による授業を行う。遅刻・課題未提出等、グループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情のない限り後日の配布には応じない
アクティブ・ラーニング	・課題解決学習：グループで課題を設定し、資料調査、フィールドワーク等の情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク：古代吉備に関わる新聞作成、アンケート調査等の社会調査をグループで行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、およびミニレポートは添削・評価の後、次時の授業時間に返却する。 ・ポスターセッション、プレゼンテーションによる発表については、相互評価の後、総括・評価を行う。 ・最終評価試験を60分行い、30分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説、実践指導する。
その他(注意・備考)	・本講義は調査活動を主体におく。そのため、課外においても自主的に自ら設定したテーマにそって情報を集めておくことが望ましい。・日ごろから新聞やニュースに目を通し、岡山の自然や歴史、文化に関心をもつことが望ましい。・指導内容は受講状況に応じて変更する場合がある。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。・試験は定期試験中に行う。

科目名	現代人の科学Ⅰ（FES08800）
英文科目名	Science LiteracyⅠ
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術（コピー機など）を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供（疑似科学など）、受講生間で意見交換する。
8回	到達度確認テストを実施する。到達度確認テストの答え合わせをし、この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。（標準学習時間180分）
8回	この授業全体について復習をしておくこと。web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術への関心およびリテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、科学技術に関する様々なトピックスを総合的に取り上げる。具体的には、演示実験を交えて原子論、物質循環、DNAといった科学の基本概念の普遍性を概説するとともに、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方についても論じる。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（中等教育学科国語コースおよび英語コースの学位授与方針Dに強く関与）
達成目標	1. 授業で扱った科学の重要概念（原子論、物質循環、DNA）について説明できる。（D） 2. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明できる。（D） 3. 講義に積極的に参加し、講義の中で関心をもった内容を具体的に説明したり、疑問に思ったことを質問できる。（D）
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（毎回の授業後に提出するレポートおよびweb上の課題、到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	他の科学技術教育科目
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・本クラスは教育学部の専門科目「現代人の科学Ⅰ」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学Ⅰ」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学Ⅰ」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上 からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、質問 この講義では演示実験の結果について実験前に予想を聞き、その予想の理由を討論し、演示実験で正解を確かめるという形でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	web上で出題した課題は自動採点され結果がフィードバックされる。毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学Ⅰ(再) (FES08810)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2 回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3 回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4 回	静電気力を使った技術（コピー機など）を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5 回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6 回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7 回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供（疑似科学など）、受講生間で意見交換する。
8 回	到達度確認テストを実施する。到達度確認テストの答え合わせをし、この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。（標準学習時間180分）
8 回	この授業全体について復習をしておくこと。web上で出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術への関心およびリテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、科学技術に関する様々なトピックスを総合的に取り上げる。具体的には、演示実験を交えて原子論、物質循環、DNAといった科学の基本概念の普遍性を概説するとともに、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方についても論じる。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (中等教育学科国語コースおよび英語コースの学位授与方針Dに強く関与)
達成目標	1. 授業で扱った科学の重要概念（原子論、物質循環、DNA）について説明できる。(D) 2. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明できる。(D) 3. 講義に積極的に参加し、講義の中で関心をもった内容を具体的に説明したり、疑問に思ったことを質問できる。(D)
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（毎回の授業後に提出するレポートおよびweb上の課題、到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	他の科学技術教育科目
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・本クラスは教育学部の専門科目「現代人の科学Ⅰ」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学Ⅰ」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学Ⅰ」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上 からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、質問 この講義では演示実験の結果について実験前に予想を聞き、その予想の理由を討論し、演示実験で正解を確かめるという形でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	web上で出題した課題は自動採点され結果がフィードバックされる。毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学Ⅱ（FES08900）
英文科目名	Science Literacy II
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）, 森田明義＊（もりたあきよし＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス，ものとその重さ： 授業の進め方について説明したあと、質量保存の法則やその適応範囲について、実験を交えて解説する。 （全教員）
2 回	三態変化（1）：固体を熱したときの変化について、身近な固体の加熱実験を交えて解説する。 （全教員）
3 回	三態変化（2）：気体・液体・固体の様々な状態変化について、加圧したり加熱したりする実験を交えて解説する。 （全教員）
4 回	三態変化（3）：気象と三態変化の関係を、実験を交えて解説する。 （全教員）
5 回	温度と分子運動（1）：熱と分子運動の関係について、実験を交えて解説する。 （全教員）
6 回	温度と分子運動（2）：水の蒸発と温度変化の関係について、分子運動の観点から実験を交えて解説する。 （全教員）
7 回	温度と分子運動（3）：水以外の液体の蒸発と温度変化の関係や、水蒸気が液体にもどるときの温度変化と分子運動の関係を、実験を交えて解説する。 （全教員）
8 回	本講義のまとめを行う。 到達度確認テストを実施する。 （全教員）

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2 回	前回配布された資料を読んで、質量保存の法則について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	前回配布された資料を読んで、固体を熱したときの変化について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	前回配布された資料を読んで、気体・液体・固体の状態変化について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	前回配布された資料を読んで、気象と三態変化の関係について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	前回配布された資料を読んで、熱と分子運動の関係について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	前回配布された資料を読んで、水の蒸発と温度変化の関係について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	前回までに配布された資料を読んで、この授業全体の復習をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。 「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。 「現代人の科学B」では、主に物理・化学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスで
------	---

	は原子論、質量保存則、分子運動などの近代科学の最も基礎的な概念を予測→討論→実験による検証というパターンの学生参加型の授業（仮説実験授業）により、実感をもって修得することを目的とする。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (中等教育学科国語コースおよび英語コースの学位授与方針Dに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（原子論、質量保存則、三態変化、温度、分子運動）を説明できる。(D) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(D) 3. 日常的な経験や修得した内容をもとに実験結果を予想し、その理由を説明することができる。(D)
キーワード	原子論、質量保存則、三態変化、温度、分子運動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業の最後に提出してもらったレポート60%（到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ、科学ボランティア活動
参考書	なし。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail: takahara[at]ped.ous.ac.jp)
授業の運営方針	・D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学Ⅱ」と同時開講である。「現代人の科学Ⅱ」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学Ⅱ」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実験・実習、質問 この講義では実験結果についての予想を聞き、その予想の理由を討論し、実験によって正解を確かめるという形でアクティブラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学Ⅲ（FES09000）
英文科目名	Science Literacy Ⅲ
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）, 吉村功＊（よしむらたくみ＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション 講義の進め方やレポート課題について説明する。身近な自然の観察方法や観点について説明する。 （全教員）
2 回	里山と忘れられる植物文化 戦前まで山里に暮らす人々が利用して知っていた植物の知識や動物との絡みについて観察を交えて説明する。 （全教員）
3 回	地面から学ぶ 化石のでき方や地層を観察することにより、また、何の変哲もない石ころからその地域の太古の歴史を探る。 （全教員）
4 回	発光生物はなぜ光る ホタルやウミホタルだけでなく様々な生物の発光現象をとおして生物が発光する意味について考える。ホタルの人工発光やウミホタルの発光を観察する。 （全教員）
5 回	身近な動植物のもつ毒や危険 校庭周辺や家庭の周りにある毒物や危険物を観察をしながら知る。 （全教員）
6 回	自然を感じる仕組みの進化 動物がもつ視覚、聴覚、嗅覚の進化を仕組みの観察をとおして知識を深める。 （全教員）
7 回	身の回りの放射線を見る 放射線の基礎知識を知り、身近な物質がもつ放射線を観察することから放射線との関係のあり方を考える。 （全教員）
8 回	ドングリの科学 様々なドングリを観察したり、簡単な実験をして日本人がどのようにドングリを利用してきたかを探る。 到達度確認テストを行う。 （全教員）

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2 回	紙や布、葉草について知っていることを思い出すこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	化石や生物の進化について知っていることがあればまとめておくこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	どんな生物が発光するか調べておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	身近に危険物や毒物がないか調べておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	魚の耳や昆虫の眼などについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	自然の中で放射線を出すものがあるか調べておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	ドングリを校内で3種以上みつけておくこと。これまでの内容を復習しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラ
------	--

	シー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。 「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。 「現代人の科学C」では、主に生物・地学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に自然の何気ない事象や物質から自然の成り立ちや仕組みを読み解く力を身につける。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 （中等教育学科国語コースおよび英語コースの学位授与方針Dに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物）について説明できる。（D） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（D） 3. 科学を学ぶ意義、科学と社会との関係について自分の意見をもち、それを記述できる。（D）
キーワード	自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート80%（到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト20%（到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	特になし
参考書	なし
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学Ⅲ」と同時開講である。「現代人の科学Ⅲ」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学Ⅲ」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人とことば (FES09100)
英文科目名	Present-day People and Their Words
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち), 奥西有理 (おくにしゆり), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「現代人とことば」について、内容を紹介し、共通するテーマ、講義の概要や評価について説明する。ことばの機能について、概説する。 (河原 修一)
2 回	日本語の語彙に、和語、漢語、外来語、混種語の四種類があり、それぞれ場面に応じて使い分けられていることを説明する。 (河原 修一)
3 回	日本語の語彙には、人間関係、生活感情、世相を示す敬語、方言、流行語があり、それぞれ場面に応じて使い分けられていることを説明する。 (河原 修一)
4 回	日本語には、内面を表すことばと外界を表すことば (他者の内面を推測することばを含む) があることを説明する。 (河原 修一)
5 回	現代に生きる古典として「いろはかるた」を取り上げ、それぞれの札のことわざ・たとえの真意・意味のゆれを時代背景とともに解説する。 (山崎 桂子)
6 回	処世訓や生活の知恵を機知に富んだことばと絵で表す「平成のいろはかるた」を作成し、発表する。ワークショップ形式で行う。 (山崎 桂子)
7 回	現代人と漢語表現 (1) 古代漢語に由来する現代日本語の表現や語彙について論じる。 (奥野 新太郎)
8 回	現代人と漢語表現 (2) 古代漢語に由来する現代日本語の表現や語彙について論じる。 (奥野 新太郎)
9 回	現代人の言語生活と英語 (1) 「日本語と英語の言葉と文化」について考察する。 (地村 彰之)
10 回	現代人の言語生活と英語 (2) 「日本語と英語の語彙構造」について考察する。 (地村 彰之)
11 回	現代人の言語生活と英語 (3) 「日本語の中の外来語」について考察する。 (地村 彰之)
12 回	現代の日本文学と翻訳 「翻訳で残るものと失われるもの」について、村上春樹の小説を題材にして考察する。 (香ノ木 隆臣)
13 回	現代の英語短詩型文学 「英米圏に定着した日本文学のかたち」について、俳句を題材にして考察する。 (香ノ木 隆臣)
14 回	現代人と日本的コミュニケーションについて考察し、ロールプレイを実施する。

	(奥西 有理)
15回	現代人と多文化コミュニケーションについて考察し、ロールプレイを実施する。
	(奥西 有理)

回数	準備学習
1回	現代人にとって、ことばはどのように関わるのか、それぞれ考えてみる。こと。 (標準学習時間60分)
2回	和語、漢語、外来語の複合語としての混種語 (「桜(さくら)前線」「コーヒー豆(まめ)」「玄関マット」など) の例を十語探して。こと。 (標準学習時間60分)
3回	自分の出身地の方言、現代の流行語を三語ずつ (共通語での意味を含む) 探して。こと。 (標準学習時間60分)
4回	自分の心情を表すことば (「楽しい」) と他者の心情の推測を表すことば (「楽しそうだ」) の組合せを三例探して。こと。 (標準学習時間60分)
5回	「いろはかるた」について事前に調べ、概略を理解しておくこと。意味のわからない札については辞典等で調べて。こと。 (標準学習時間120分)
6回	いろは48文字の中から1文字を選び、ことば(字札)とふさわしい図柄(絵札)を考え、原案を作成して。こと。 (標準学習時間60分)
7回	配付資料を熟読すること。 (標準学習時間60分)
8回	配付資料を熟読すること。 前回の授業で課された課題をやってくる。こと。 (標準学習時間120分)
9回	事前に配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
10回	事前に配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
11回	事前に配付された資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)
12回	第11回目の講義で配付された資料を読んでおくこと。日本語と英語、それぞれの文章についての印象をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
13回	第12回目の講義で配付された資料を読んでおくこと。単語のもつ「イメージ」について考えをまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
14回	言語と文化の関係について考えておくこと。 (標準学習時間60分)
15回	日本のコミュニケーションと異文化コミュニケーションに関する配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間60分)

講義目的	ことばは情報を整理し、発信し、理解する方法の一つであり、自己表現と他者受容による円滑な人間関係の構築には、場に応じたことばの運用能力が求められる。発見的感受性および論理的思考力を支えることばの重要性を理解し、「国語」「英語」指導のエキスパートを目指す。中等教育学科国語教育コース・英語教育コースの学位授与の方針(DP)のA・B・Dと強く関連している。
達成目標	1. 現代を生きる日本人の多様な生活の中で、日本語と英語がどのような場面や状況でどのように使われているのかを簡潔に説明することができる。 2. ことばの意義を理解した上で、場に応じて、適切に運用することができる。
キーワード	語彙、語彙量、和語、漢語、外来語、混種語、敬語、方言、流行語、いろはカルタ、ことわざ、意味論、語彙構造、語形成、音韻変化、多文化コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	小テストまたは小レポート(活動報告)(達成目標1, 2を確認)により各担当者が評価した点数を合計し、60%以上を合格とする。3または4回授業担当者2人は各20%、2回授業担当者4人は各15%を満点として評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	「比較言語文化論」(3年次)
参考書	担当教員が随時紹介する。
連絡先	A1号館9階 河原研究室(1910号室) kawahara@ped.ous.ac.jp 山崎研究室(1911号室) yamasaki@ped.ous.ac.jp 奥野研究室(1912号室) okuno@ped.ous.ac.jp A1号館10階 地村研究室(1011号室) jimura@ped.ous.ac.jp 香ノ木研究室(1010号室) konoki@ped.ous.ac.jp 奥西研究室(1009号室) okunishi@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	国語教育コース、英語教育コースの学生が、現代における言語の適切な使用の大切さを実感するように、また言語学習への意欲を喚起するように、動機づける。
アクティブ・ラーニング	語彙分析、現代かるたの創作、翻訳、ロールプレイ 語彙収集、現代かるたの創意工夫、翻訳の工夫、ロールプレイの実践など、グループワークを通じ

	て、体得する。
課題に対するフィードバック	小テスト、課題、演習などの実施の後、教師がコメントする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供します。で、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	元高等学校勤務の経験を活かして、言語の使用に際して差別的な表現をしないことの指導を行う。
その他（注意・備考）	国語辞典、漢和辞典、英和辞典等の辞書（電子辞書可）を各自用意すること。

科目名	英語探究Ⅰ（FES09200）
英文科目名	Advanced EnglishⅠ
担当教員名	香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	リーディング：(R) ライティング：(W) 英文パラグラフと文を構成する論理について学習する。
2回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
3回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
4回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
5回	(W) パラグラフの論理について：「自己紹介」パラグラフを構成する論理を学び、授業時間中にパラグラフを書き提出する。
6回	(W)パラグラフの論理について：「自己紹介」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間内に書き直して再提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
7回	(W) パラグラフの論理について：「自己紹介」の返却と講評：添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
8回	(W) パラグラフの論理について：「時間の順序」について学び、授業時間外課題として「指示」についてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
9回	(W) パラグラフの論理について：「指示」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外課題として書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
10回	(W) パラグラフの論理について：「指示」 についてさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
11回	(W)パラグラフの論理について：「客観的報告」 身近な出来事を、ニュース記事のように書き、自己を客観視するテーマ。 時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
12回	(W) パラグラフの論理について：「客観的報告」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外課題として書き直して再提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
13回	(W) パラグラフの論理について：「客観的報告」についてさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
14回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
15回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。 これまでの学習内容を振り返る。英語探究Ⅱにむけての事前課題を配布する。

回数	準備学習
1回	パラグラフという概念について考えておくこと。（標準学習時間30分）
2回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
3回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
4回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）

5回	事前に示されたテーマに基づき、書く内容をメモしておき授業に持参すること。（標準学習時間30分）
6回	自分の書いたパラグラフの英語について、疑問点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	自分の書いたパラグラフの英語について、疑問点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
8回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
9回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
10回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
11回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
12回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
13回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
14回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
15回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	時事英語の講読と、パラグラフ・ライティングを組み合わせた授業を行うことにより、英語の論理を複眼的視点で理解することを目的とする。リーディングについては、最新の社会的事象についての新聞・雑誌のニュース、論説などの記事を題材に、基本文法と英文の論理の展開の双方に配慮しつつ精読を行う。関連する別の文章を時間外課題とし、授業時にquizを行う。ライティングでは、パラグラフを展開する論理について学ぶために文章を書く。総じて、予習にかなりの努力を必要とするクラスである。（中等教育学科英語教育コースの卒業認定・学位授与の方針項目Aに強く関与する。）
達成目標	・日常的なニュース記事を正確に読むことができる。（A） ・英語の論説文を正確に読むことができる。（A） ・英語のパラグラフの論理に基づいた文章が書ける。（A）
キーワード	パラグラフの論理 レトリック 精読 時事英語
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	試験70%，ライティング提出物30% 評価の観点 ・英語に対する正確な理解ができていること。 ・英語の文章の論理が読み取れること。 ・英語の論理に基づいたパラグラフが書けること。
教科書	特定のテキストは指定せず、ハンドアウトを配付する。ニュース記事は、実際に報じられているものを題材にして授業で扱う。
関連科目	英語探究Ⅱ
参考書	各種の辞書、文法やパラグラフ・ライティングについての書籍を随時紹介する。
連絡先	A1号館 10F 香ノ木研究室
授業の運営方針	・配付資料の予習が完了していることを前提として、授業を行う。
アクティブ・ラーニング	自ら設定した題材による、パラグラフライティングを行う。
課題に対するフィードバック	ライティングの課題は、コメントを付して、提出直後の授業時に必ず返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、随時、申し出ること。それ以外の録音・録画・撮影は認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語探究Ⅱ（FES09300）
英文科目名	Advanced English II
担当教員名	香ノ木隆臣（こうのきたかおみ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	小テスト（英語探究Ⅰの最終回で配布した教材）を行う。
2 回	(W) パラグラフの論理について：「比較と対照」について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
3 回	(W) パラグラフの論理について：「比較と対照」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
4 回	(W) パラグラフの論理について：「比較と対照」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
5 回	(W) パラグラフの論理について：「意見」を述べる要点について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
6 回	(W) パラグラフの論理について：「意見」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
7 回	(W) パラグラフの論理について：「意見」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
8 回	(R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
9 回	(R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
10 回	(W) パラグラフの論理について：「物語」を書く要点について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
11 回	(W) パラグラフの論理について：「物語」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
12 回	(W) パラグラフの論理について：「物語」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
13 回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
14 回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
15 回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。 これまでの学習内容を振り返る。

回数	準備学習
1 回	事前配布された教材について読んでおくこと。（標準学習時間90分）
2 回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
3 回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
4 回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
5 回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
6 回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）

7回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
8回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
9回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
10回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
11回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
12回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。（標準学習時間90分）
13回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
14回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）
15回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	時事英語の講読と、パラグラフ・ライティングを組み合わせた授業を行うことにより、英語の論理を複眼的視点で理解することを目的とする。リーディングについては、最新の社会的事象についての新聞・雑誌のニュース、論説などの記事を題材に、基本文法と英文の論理の展開の双方に配慮しつつ精読を行う。関連する別の文章を時間外課題とし、授業時にquizを行う。ライティングでは、パラグラフを展開する論理について学ぶために文章を書く。総じて、予習にかなりの努力を必要とするクラスである。（中等教育学科英語教育コースの卒業認定・学位授与の方針項目Aに強く関与する。）
達成目標	・日常的なニュース記事を正確に読むことができる。（A） ・英語の論説文を正確に読むことができる。（A） ・英語のパラグラフの論理に基づいた文章が書ける。（A）
キーワード	パラグラフの論理 レトリック 精読 時事英語
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	試験70%，ライティング提出物30% 評価の観点 ・英語に対する正確な理解ができていること。 ・英語の文章の論理が読み取れること。 ・英語の論理に基づいたパラグラフが書けること。 総計の60%以上を合格とする。
教科書	特定のテキストは指定せず、ハンドアウトを配付する。ニュース記事は、実際に報じられているものを題材にして授業で扱う。
関連科目	英語探究Ⅰの継続的内容である。
参考書	各種の辞書、文法やパラグラフ・ライティングについての書籍を随時紹介する。
連絡先	A1号館 10F 香ノ木研究室
授業の運営方針	・配付資料の予習が完了していることを前提として、授業を行う。
アクティブ・ラーニング	自ら設定した題材による、パラグラフライティングを行う。
課題に対するフィードバック	ライティングの課題は、コメントを付して、提出直後の授業時に必ず返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、随時、申し出ること。それ以外の録音・録画・撮影は認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	英語探究Ⅲ（FES09400）
英文科目名	Advanced English III
担当教員名	地村彰之（ぢむらあきゆき）
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	リーディング：(R) ライティング：(W) オリエンテーション（授業内容、成績評価基準などの履修上の注意）
2 回	(R) 英語の読解について(1)
3 回	(R) 英語の読解演習について(1)
4 回	(R) 英語の文化的背景について(1)
5 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
6 回	(R) 英語の読解について(2)
7 回	(R) 英語の読解演習について(2)
8 回	(R) 英語の文化的背景について(2)
9 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
1 0 回	(R) 英語の読解について(3)
1 1 回	(R) 英語の読解演習について(3)
1 2 回	(R) 英語の文化的背景について(3)
1 3 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
1 4 回	英語の読解のまとめ
1 5 回	英語のライティングのまとめ
1 6 回	1回～15回までの総括をし、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認、2 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 0 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 1 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	1 0 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 2 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）

1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	英語の読解とライティングについて理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	① 英文を精読しながら、読解練習を行う。 ② 英語を多角的な視点から学ぶことを主眼に、文学性の高い英文を精読し、併せて文化的背景を学ぶ。 ③ 英文を正確に読み、パラグラフ構成を理解し、情報を効率的に探す。 ④ 英語を書く能力については、読解練習をした英文を自分の言葉でパラフレイズする課題に取り組み。①から④の内容が自主的に実践できるようになることを目的とする。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	英語探究Ⅰ・Ⅱで身につけた基礎力をもとに、英語の論理展開を理解した上で、英語を正しく読み、書く能力を修得することを目標とする。 1) 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身に付け、活用することができる。(A) 2) 教育現場での実践的なコミュニケーションスキルを身に付け、活用することができる。(A, E)
キーワード	読解、文化的背景、ライティング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語探究を通してリーディング・ライティングが出来るようになること。
教科書	The Little Prince（『星の王子さま』）/ 福田陸太郎注解 / 英光社 / 978-4-87097-001-4。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館10階 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説を加え、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進度など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	予習と復習をしっかりとすること。

科目名	英語探究Ⅳ（FES09500）
英文科目名	Advanced English IV
担当教員名	地村彰之（ぢむらあきゆき）
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	リーディング：(R) ライティング：(W) オリエンテーション（授業内容、成績評価基準などの履修上の注意）
2 回	(R) 英語の読解について(4)
3 回	(R) 英語の読解演習について(4)
4 回	(R) 英語の文化的背景について(4)
5 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
6 回	(R) 英語の読解について(5)
7 回	(R) 英語の読解演習について(5)
8 回	(R) 英語の文化的背景について(5)
9 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
1 0 回	(R) 英語の読解について(6)
1 1 回	(R) 英語の読解演習について(6)
1 2 回	(R) 英語の文化的背景について(6)
1 3 回	(W) 3 回の授業のまとめとライティング活動
1 4 回	英語の読解のまとめ
1 5 回	英語のライティングのまとめ
1 6 回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認、2 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容の整理を行うこと。 3 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
3 回	2 回目の授業内容の整理を行うこと。 4 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4 回	3 回目の授業内容の整理を行うこと。 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5 回	4 回目の授業内容の整理を行うこと。 6 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	5 回目の授業内容の整理を行うこと。 7 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	6 回目の授業内容の整理を行うこと。 8 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	7 回目の授業内容の整理を行うこと。 9 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
9 回	8 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 0 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	9 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 1 回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	1 0 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 2 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）

1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	英語の読解とライティングについて理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	① 英語探究Ⅲで扱ったものよりもより難解な英文を精読しながら、読解練習をする。 ② 英語の小説・詩などに秘められた文学性、および文化や言語に関する問題意識を持つことができるように、英文テキストを深読みする。 ③ 読解した英文を自分の言葉でパラフレイズして、英語の書く練習をする。①から③の内容が自主的に実践できるようになることを目的とする。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける。中等教育学科英語教育コース学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	英語探究Ⅲに引き続き、英語の論理展開を理解した上で、英語を正しく読み、書く能力の強化を目指す。 1) 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身に付け、活用することができる。(A) 2) 教育現場での実践的なコミュニケーションスキルを身に付け、活用することができる(A, E)
キーワード	読解、文化的背景、ライティング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験による評価50%（達成目標1）を確認）、特定課題への取り組みについての評価50%（達成目標1）2）を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。 ・評価の観点：英語探究を通してリーディング・ライティングが出来るようになること。
教科書	英米文学作品のショートストーリーを適宜選択して配布する。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A 1 号館 1 0 階 地村研究室 直通電話 086-256-9604 E-mail: jimura@ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日3限目
授業の運営方針	配布するプリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。授業中の態度、遅刻・早退の扱い、無断欠席については、その都度受講生に確認してその状況を客観的に把握する。欠席については、本学の規定に従う。
アクティブ・ラーニング	特定課題について、グループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・特定課題への取り組みが提出課題の場合、回収後、授業中に解説を加え、問題点を見出すことができるように助言を与える。（ただし、授業の進度など現段階で予測できないことがあるので、状況に応じて助言の与え方は変わる。） ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験終了後行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	予習と復習をしっかりとすること。

科目名	英語探究Ⅴ（FES09600）
英文科目名	Advanced English Ⅴ
担当教員名	奥西有理（おくにしゆり）
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本授業における学習や課題の具体的進め方について説明する。
2回	Show & Tell: スピーチコミュニケーションの基礎について学習する。
3回	Show & Tell: ペア練習とプレゼンテーションを実施する。
4回	Show & Tell: スピーチ・コミュニケーションのテストを実施する。
5回	スピーチ課題1: ニュース記事のスピーチについて学習する。
6回	スピーチ課題1: 主張、論理展開、理由付け、具体例、ストーリーテリングについて学習する。
7回	スピーチ課題1: グループ別発表とフィードバックを実施する。
8回	スピーチ課題1: 全体発表を実施する。
9回	スピーチ課題1: 全体発表と講評およびシャドーイング課題1のテストを実施する。
10回	スピーチ課題2: 文学作品に関するスピーチについて学習する。
11回	スピーチ課題2: 主張、論理展開、理由付け、具体例、ストーリーテリングについて学習する。
12回	スピーチ課題2: グループ別発表とフィードバックを実施する。
13回	スピーチ課題2: 全体発表を実施する。
14回	スピーチ課題2: 全体発表と講評およびシャドーイング課題2のテストを実施する。
15回	効果的な英語スピーチ・スキルおよびシャドーイング課題についてまとめを学習する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
3回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
4回	Show & Tellの準備をすること。（標準学習時間120分）
5回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
6回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
7回	スピーチ原稿を準備をすること。（標準学習時間120分）
8回	スピーチの練習をすること。（標準学習時間120分）
9回	シャドーイングの練習をすること。（標準学習時間120分）
10回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
11回	配付資料を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
12回	スピーチ原稿を準備をすること。（標準学習時間120分）
13回	スピーチの練習をすること。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	シャドーイングの練習をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	本授業は、英語探究Ⅰ～Ⅳを通して習得した、英語の論理展開を理解した上で、正しく読んで書く能力を、口頭での発信力に転換させていくための訓練を行い、英語スピーチに不可欠なスキルを獲得することを目的とする。
達成目標	(1)新聞・雑誌のニュース、論説などの記事等について、論理的かつ説得的に説明することが。（A,E） (2)英語のスピーチにおいて「主張」に「理由付け」と「具体例」を添えながら、順序立てて発表することができる。（A,E） (3)伝わりやすいイントネーションと発音、声のボリュームで英語スピーチをすることができる。（E）、
キーワード	スピーチ・コミュニケーション、シャドーイング、スピーキング・スキルの向上
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	スピーチ・コミュニケーションテスト 10%(到達目標(1)(2)を確認) スピーチ課題1(ニュース記事) 35%(到達目標(1)を確認) スピーチ課題2(文学作品) 35%(到達目標(2)を確認) シャドーイング課題10%×2課題＝20%(到達目標(3)を確認) で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	英語探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ
参考書	適宜指示する。

連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	・授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。
課題に対するフィードバック	・スピーチの評価に関して、教員および他の学生からのコメントをスピーチ実施後にまとめてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な英語スピーチの指導を行う。
その他（注意・備考）	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	英語探究VI (FES09700)
英文科目名	Advanced English VI
担当教員名	坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ディベートの流れと授業の具体的な進め方について、参考例をもとに協議する
2回	ディベートに必要な英語表現、ディベートに求められる論理的思考を概観する
3回	フルディベートで必要となる3つの論点を捉える視点について理解する
4回	各論点を裏付けるエビデンスについて議論する：新聞記事やニュース、論文から
5回	ソロワーク：個人によるペーパーディベートを実施する
6回	ペアワーク：ペアによるペーパーディベートを実施する
7回	ディベートトピック及びチーム分けをもとにディベートを準備する
8回	チームごとに担当トピックと否定側及び肯定側の概要を説明する
9回	グループワーク1：論点及びエビデンスを考察する
10回	グループワーク2：担当箇所決定と英文作成を考察する
11回	グループワーク3：継続して担当部分の英文準備及びエビデンス、質問、反駁を準備する
12回	ディベート1：社会的課題についてディベートを実施する
13回	ディベート2：教育における課題についてディベートを実施する
14回	ディベート3：中学校・高等学校で取り上げられる課題についてディベートを実践する
15回	ディベート4：大学で取り上げられる課題についてディベートを実践する
16回	1回～15回の総括を説明し、最終評価試験の実施

回数	準備学習
1回	授業内容を確認すること 第2回授業までに、ディベートの流れを説明できるように復習すること (120分)
2回	ディベートに使える表現をまとめて復習すること 第3回授業までに、英語ディベートで扱われるトピックについて調べておくこと (120分)
3回	フルディベートの内容を説明できるように復習すること 第4回までに、一つのトピックについて賛否を説明できるように準備すること (120分)
4回	エビデンスの種類や特徴について復習すること 第5回授業までに、1つのトピックについてエビデンスを用意し、説明できるように準備すること (120分)
5回	反駁の議論を立てるときの留意点について説明できるように復習すること 第6回授業までに、反駁の手法を調べておくこと (120分)
6回	ペーパーディベートの振り返りをまとめること 第7回授業までに、ディベートにふさわしいトピックを用意し、説明できるように準備すること (120分)
7回	ディベートの流れを復習しておくこと 第8回授業までに、ディベート準備のための資料を用意すること (120分)
8回	ディベートに使える英語表現を復習し、肯定・否定に分けて確認すること 第9回授業までに、エビデンス作成の用意を準備すること (120分)
9回	ディベートの準備を行うこと 第10回授業までに、役割分担について確認しておくこと (120分)
10回	ディベートの準備を行うこと 第11回授業までに、英文・エビデンスの準備を行うこと (120分)
11回	ディベートの準備を行うこと 第12回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと (120分)
12回	発表ディベートのリフレクションをまとめること 第13回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと (120分)
13回	発表ディベートのリフレクションをまとめること 第14回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと (120分)
14回	発表ディベートのリフレクションをまとめること (120分) 第15回授業までに、担当者は発表の準備を行うこと (120分)
15回	発表ディベートのリフレクションをまとめ、ディベート実践の全般も含めてレポートにまとめること
16回	第1回～15回までに内容を理解し、復習しておくこと (180分)

講義目的	英語探究Ⅰ～Ⅴを通して育んだ英語力、パラグラフ構成力、批判的思考力、論理的思考力を統括し
------	--

	、読む、聞く、書く、話す〔発表〕、話す〔やり取り〕という5領域を統合的に用いた言語活動としてディベートを習得することを目標とする。 中等教育学科英語教育コース学位授与の方針（DP）のA・Eと深く関連している。
達成目標	1) ディベートの手法を学び、実際に実践することから、英語を用いて読む、聞く、書く、話す〔発表〕、話す〔やり取り〕力を統合的に身に付け、議論の際に特有な英語表現についても知識を関連付けられる(A) 2) 英語でディベートを行うことにより、身に付けた英語力を実践的なコミュニケーションの場で応用することができる(A・E) 3) 一つのトピックについて議論する中で、論理的に自身の論点を説明することができる(A・E) 4) ディベート活動を通して、自分の意見や考えを明確に発表することができる(A) ※（ ）内は中等教育学科（英語教育コース）の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語ディベート、論理的思考、エビデンス、議論のためのストラテジー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	担当ディベートにおける英文とエビデンス 15%（達成目標1）を確認）、レポート25%（達成目標1）、3）を確認）、ディベートでのパフォーマンス30%（達成目標1）、2）、3）、4）を確認）、最終評価試験30%（達成目標1）、3）を確認）により評価し、統計60%以上を合格とする。
教科書	テキストは使用せず、適宜資料を配布する
関連科目	探求英語Ⅰ／探求英語Ⅱ／探求英語Ⅲ／探求英語Ⅳ／探求英語Ⅴ
参考書	参考書・参考資料は使用せず、適宜資料を配布する
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844 E-mail: sakamoto☆ped.ous.ac.jp（☆→@） オフィスアワー：火曜日 2・3限
授業の運営方針	・課題は期限を守って提出すること。 ・グループワーク、ディスカッションやペアワークの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイストなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・ディベートのために作成したエビデンス、配布したハンドアウト、発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション・ディベートの試合を行う。 ・ディベートでは、各自が準備した論点を軸に議論し、その内容についてはディベートジャッジシートに基づいて、相互評価・教員評価を行う。
課題に対するフィードバック	・課題は採点后、返却する。 ・ディベートに対するフィードバックは、全体でのディスカッション・教員によるコメントによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他（注意・備考）	講義ではディベートをはじめ、グループ活動、ペアワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	国語探究Ⅰ（FES09800）
英文科目名	Advanced JapaneseⅠ
担当教員名	奥野新太郎（おくのしんたろう）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションののち、授業のテーマについて説明する。 「国語」ではなく「日本語」という視点を持つ重要性について説明する。 受講生の現在の日本語能力を測るための実力試験を行う。
2回	「敬語」の基礎的な知識や用法について説明する。また、「待遇表現」という観点から敬語について学習する。
3回	「敬語」領域に関する発展的な知見を紹介し、演習問題を行う。
4回	「敬語」領域に関するまとめを行う。
5回	「文法」領域の基礎的な知識や用法について説明する。とくに「国語文法」と「日本語文法」の観点の違いに注意しつつ、必要に応じて外国語との比較も交えながら日本語の文法について学習する。
6回	「文法」領域に関する発展的な知見を紹介し、演習問題を行う。
7回	「文法」領域に関するまとめを行う。
8回	「敬語」「文法」領域に関する確認試験を行う
9回	「語彙」「言葉の意味」領域の基礎的な知識や用法について説明する。とくに現代日本語が包有する語彙の種類に注意しながら学習する。
10回	「語彙」「言葉の意味」領域に関する発展的な知見を紹介し、演習問題を行う。
11回	「語彙・言葉の意味」に関するまとめを行う
12回	「漢字」「表記」領域の基礎的な知識や用法について説明する。とくに現代日本語の表記がもつ歴史の変遷や、言語における文字の役割、政府の定める表記の規則なども関連させて学習する。
13回	「漢字」「表記」領域に関する発展的な知見を紹介し、演習問題を行う。
14回	「漢字」「表記」領域に関するまとめを行う
15回	「語彙」「言葉の意味」「漢字」「表記」領域に関する確認試験を行う
16回	最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと 日本語についてこれまでの人生で学んできたことを振り返り、見つめ直しておくこと（標準学習時間120分）
2回	教科書の該当箇所を読んでもらうこと。（標準学習時間90分）
3回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
4回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
5回	教科書の該当箇所を読んでもらうこと。（標準学習時間90分）
6回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
7回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
8回	これまでの授業を復習しておくこと 【120分】
9回	教科書の該当箇所を読んでもらうこと。（標準学習時間90分）
10回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
11回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 （標準学習時間120分）
12回	教科書の該当箇所を読んでもらうこと。（標準学習時間90分）

1 3 回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 (標準学習時間120分)
1 4 回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。 課題をしっかりとやること。 (標準学習時間120分)
1 5 回	これまでの授業を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	これまでの授業を復習し、十分に準備をして臨むこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	日本語検定における6領域(敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字)に基づきつつ、講義と演習を繰り返すことにより、言語としての日本語の知識と運用能力の基礎を総合的に学ぶ。 この科目は中等教育学科国語教育コース「学位授与の方針」のうち、C、Dと深く関連する。
達成目標	(1) 現代日本語における6領域について、各領域の基礎的な事柄を説明できる。(C、D) (2) 現代日本語について、総合的に説明できる。(C、D) (3) 現代日本語について、日本語検定試験3級相当の問題を解くことができる。(C)
キーワード	日本語、国語、国語学、言語学、日本語教育、国語教育、日本語史、日本語検定
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題30%(達成目標1、2を確認)、確認テスト30%(達成目標1、3を確認)、最終評価試験40%(達成目標2、3を確認) 総計60%以上が合格
教科書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級 3・4級受検用 増補改訂版』/須永 哲矢 等/東京書籍/2016年/978-4487810529
関連科目	国語探究Ⅱ、日本語学概論、日本語文法、日本語表現
参考書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」初級 5・6・7級受検用 増補改訂版/須永 哲矢 等/東京書籍/2016年/978-4487810536: 日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」上級 1・2級受検用 増補改訂版/須永 哲矢 等/東京書籍/2016年/978-4487810512: 日本語の謎を解く/橋本 陽介/新潮社/978-4106037849: 「日本語ライブラリー」シリーズ/沖森 卓也 等/朝倉書店: 国語辞典必携(中型以上のもの。電子辞書可) *その他、授業中に紹介する
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno☆ped.ous.ac.jp [☆→@] 086-256-9444(研究室) オフィスアワー 火2・3
授業の運営方針	課題には真摯に取り組んで下さい。 高校までに学んだ国語文法について、必要に応じて復習をしてください。 他の受講者の妨害になる行為(過度な私語など)はしないでください。
アクティブ・ラーニング	この科目ではアクティブラーニングの一形態として、ペアワークを行う。
課題に対するフィードバック	課題は授業中に解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	予習必須。 資料は授業中に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。

科目名	国語探究Ⅱ（FES09900）
英文科目名	Advanced Japanese II
担当教員名	山崎桂子（やまさきけいこ）
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、日本語検定、成績評価の方針について説明する。実力確認テスト(日本語検定版)を行う。
2 回	前回の実力確認テストの答え合わせと解説をする。
3 回	課題の答え合わせと解説をし、敬語の 5 分類について説明する。
4 回	課題の答え合わせと解説をし、口語文法について説明する。
5 回	課題の答え合わせと解説をし、語彙について説明する。例文作りの指示を出す。
6 回	課題の答え合わせと解説をし、言葉の意味について説明する。
7 回	課題の答え合わせと解説をし、表記について説明する。
8 回	課題の答え合わせと解説をし、漢字について説明する。
9 回	例文作りの発表と講評をする。 漢字検定準 2 級の実力確認テストを行う。
1 0 回	前回の実力確認テストの答え合わせと解説をする。
1 1 回	漢字検定 2 級の実力確認テストを行う。
1 2 回	前回の実力確認テストの答え合わせと解説をする。
1 3 回	課題の答え合わせと解説をし、日本文学史(古典)に関する常識問題の説明をする。
1 4 回	課題の答え合わせと解説をし、日本文学史(近代)に関する常識問題の説明をする。
1 5 回	総まとめをする。日本語検定、漢字検定、国語常識を融合した予備テストを行う。
1 6 回	最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んでおくこと。国語探究Ⅰで学んできたことを振り返り、不得意分野を確認しておくこと。【標準学習時間120分】
2 回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。【標準学習時間120分】
3 回	前回の授業の復習をし、敬語の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
4 回	前回の授業の復習をし、文法の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
5 回	前回の授業の復習をし、語彙の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
6 回	前回の授業の復習をし、例文作りと言葉の意味の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
7 回	前回の授業の復習をし、表記の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
8 回	前回の授業の復習をし、漢字の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
9 回	6 分野の総合問題をしておくこと。【標準学習時間120分】
1 0 回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。【標準学習時間120分】
1 1 回	前回の授業の復習をしておくこと。【標準学習時間120分】
1 2 回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。【標準学習時間120分】
1 3 回	前回の授業の復習をし、国語常識の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
1 4 回	前回の授業の復習をし、国語常識の課題をしておくこと。【標準学習時間120分】
1 5 回	これまでの授業内容を復習し、不得意分野を解消しておくこと。【標準学習時間120分】
1 6 回	これまでの授業内容を復習し、十分に準備をして臨むこと。【標準学習時間120分】

講義目的	国語探究Ⅰを踏まえて、日本語検定における 6 領域（敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字）の講義と演習を繰り返すことにより、日本語検定 2 級合格に相当する日本語の知識と運用能力を身につける。本科目は中等教育学科(国語教育コース)の学位授与の方針の A、C、D と強く関係している。
達成目標	①日本語検定 2 級合格に相当する日本語の知識及び運用能力を身につける。(A、C、D) ②現代日本語に関する総合的な理解を更に深める。(A、C、D)
キーワード	日本語学、言語学、日本語検定
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題(30%)、最終評価試験(70%)〈到達目標①②を確認〉により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」上級 1・2 級受検用 増補改訂版』/須永哲矢等/東京書籍/2018/978-4-487-81051-2

関連科目	国語探究Ⅰ、日本語学概論、日本語文法、日本語表現
参考書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級 3・4級受検用 増補改訂版』/須永哲矢等/東京書籍/2016/978-4-487-81052-9 その他、授業中に紹介する。
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 直通電話086-256-9404 E-Mail: yamasaki☆ped.ous.ac.jp (☆→@) オフィスアワー:月曜2・3限(秋学期)
授業の運営方針	・受講生の習熟度によって授業のレベルや進度を変更することがある。 ・国語辞典（中型以上のもの。電子辞書可）を毎回持参すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題については授業中にフィードバックし講評する。 最終評価試験は試験後、解答を配布し解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育ボランティアⅠ (FES10000)
英文科目名	Educational Volunteer I
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 奥西有理 (おくにしゆり), 河原修一 (かわはらしゅういち), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	活動までの段取りと活動内容及び活動後の授業については次のとおりになる。 各自で希望するボランティア先を探し、主催者に申し込む。 活動1週間前までに「教育ボランティア学外活動届」を教育企画課に提出する。 活動届の活動期間の欄には、活動する曜日・時限を記入する(原則)。 実施の初日に、主催者に「教育ボランティア活動について主催者様へのお願い」を渡し、ボランティア活動の実施の願い及び「教育ボランティア活動記録表」に認印を依頼する。 以上の手続きを経て、ボランティアに従事する。 活動終了時には「教育ボランティア実施証明書」を主催者に渡し、署名および押印を依頼する。 活動後1週間以内に「正課外学外活動結果報告書」を作成し教育企画課に提出する。 30時間以上のボランティア活動を行い、単位認定を希望する場合はレポート(1200字以上)を 所定の期日までに坂本研究室までに証明書とともに提出する。 発表会を年2回、学期末に行う。レポート提出者の中から優秀者(3名くらい)が発表する。 レポート提出者は発表会に出席する。発表時には時間を設けて質疑応答を行う。
準備学習	学校でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分) 学校でのあいさつをはじめとするコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	1年次の「教育現場観察実習」を踏まえ、2年次のこの授業では大学の授業外の時間を使って、学校や児童館、社会教育施設などの教育関連施設の現場において、ボランティアとして教育の補助及び子どもの遊びや学習などの支援活動を行い、教職能力を培うために必要な学びの内容と方法の経験的な把握を目指す。まず、①グループ事前調査により、教育現場を観察する視点・目的・方法を明確化する。そして②現場を訪問し、児童・生徒の学習や生活の実際を観察し、参与実習をする。最後に③実習で得た知見や問題点を報告・討議し、全体で成果を共有し、ボランティア活動のレポートをまとめる。(中等教育学科の学位授与方針：国語教育コースE、英語教育コースBに最も強く関与する)
達成目標	①小学校・中学校・高等学校と日常的・継続的な関わりを持ち、学校空間に参与していく中で、教職に対する自己の意識を明確に持つこと。(国語教育コースE、英語教育コースB) ②教員に必要な知識・スキルを自分の課題として明確に意識し、それに対する取り組みを始められるようになること。(国語教育コースE、英語教育コースB)
キーワード	ボランティア、学校、参与観察、教育現場
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ボランティア受け入れ校からの評価(達成目標①②)および、事後指導におけるレポート(達成目標①②)を総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育ボランティアⅡ・教育現場観察実習
参考書	なし。
連絡先	札埜研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp 坂本研究室 A1号館10階 1008号室 直通電話086-256-9844 E-mail: sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・レポートの締め切りを遵守すること。 ・発表会に参加して、積極的に質問することを心がけること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問。 ボランティア活動の内容を発表したり、その発表内容に対して質問を行う。
課題に対するフィードバック	提出課題については発表者によるプレゼンテーションを以て紹介しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	札埜和男 ア) 元中学校・高等学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして助言や解説を行う。 坂本南美

	ア) 元中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして助言や解説を行う。
その他（注意・備考）	・ 所定の手続きをもれなく行うこと。 ・ 活動するにあたっては誠実に実行し継続すること。 ・ 守秘義務を徹底すること。 ・ 学研災付帯賠償責任保険に加入しておくこと。 ・ 交通手段として車輛を希望する場合は「車輛許可願」を教育企画課に提出すること。 その際車輛任意保険の写しを添付すること。

科目名	教育ボランティアⅡ (FES10100)
英文科目名	Educational Volunteer II
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 奥西有理 (おくにしゆり), 河原修一 (かわはらしゅういち), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	活動までの段取りと活動内容及び活動後の授業については次のとおりになる。 各自で希望するボランティア先を探し、主催者に申し込む。 活動1週間前までに「教育ボランティア学外活動届」を教育企画課に提出する。 活動届の活動期間の欄には、活動する曜日・時限を記入する(原則)。 実施の初日に、主催者に「教育ボランティア活動について主催者様へのお願い」を渡し、ボランティア活動の実施の願い及び「教育ボランティア活動記録表」に認印を依頼する。 以上の手続きを経て、ボランティアに従事する。 活動終了時には「教育ボランティア実施証明書」を主催者に渡し、署名および押印を依頼する。 活動後1週間以内に「正課外学外活動結果報告書」を作成し教育企画課に提出する。 30時間以上のボランティア活動を行い、単位認定を希望する場合はレポート(1200字以上)を所定の期日までに坂本研究室までに証明書とともに提出する。 発表会を年2回、学期末に行う。レポート提出者の中から優秀者(3名くらい)が発表する。 レポート提出者は発表会に出席する。発表時には時間を設け質疑応答を行う。
準備学習	・NPO等でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分) ・一般の人々とのコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	教育ボランティアⅠでの活動体験を踏まえて、この授業においても大学の授業外の時間を使い、教育関連施設のボランティアとして、教育的活動の補助及び子どもの遊びや学習の支援活動を行う。特に近隣の教育関連NPOとの連携により、主として児童生徒の集団的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもを理解し、教師として子どもの学習や生活の集団を支持的風土に満ちた集団に高めていく力の育成を目指す。(中等教育学科の学位授与方針の国語教育コースE、英語教育コースBに最も強く関与する)
達成目標	①NPO職員や子どもの保護者、他のボランティア参加者など、多様な人々との関わりの中で活動を企画し運営して行く中で、学校関係者や子供だけでなく様々な人と円滑にコミュニケーションできる力を身につけること。(国語教育コースE、英語教育コースB) ②組織の中で自発的に自分の役割を見つけ、率先しかつ協調して動けるようになること。(国語教育コースE、英語教育コースB)
キーワード	ボランティア、NPO、参与観察、教育現場
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ボランティア受け入れ校からの評価(達成目標①②)および、事後指導におけるレポート(達成目標①②)を総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育ボランティアⅠ
参考書	使用しない。
連絡先	札埜研究室 A1号館9階 913号室 直通電話086-256-9843 E-mail: fudano@ped.ous.ac.jp 坂本研究室 A1号館10階 1008号室 直通電話086-256-9844 E-mail: sakamoto@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・レポートの締め切りを遵守すること。 ・発表会に参加して、積極的に質問をすることを心がけること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問。 ボランティア活動の内容を発表したり、その発表内容に対して質問を行う。
課題に対するフィードバック	提出課題については発表者によるプレゼンテーションを以て紹介しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	札埜和男 ア)元中学校・高等学校勤務 イ)学校現場の経験を活かして助言や解説を行う。 坂本南美 ア)元中学校勤務 イ)学校現場の経験を活かして助言や解説を行う。
その他(注意・備考)	・所定の手続きをもれなく行うこと。

	・活動するにあたっては誠実に実行し継続すること。 ・守秘義務を徹底すること。 ・学研災付帯賠償責任保険に加入しておくこと。 ・交通手段として車輛を希望する場合は「車輛許可願」を教育企画課に提出すること。 その際車輛任意保険の写しを添付すること。
--	--

科目名	教育研究ゼミナール (FES10200)
英文科目名	Seminar for Educational Research
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち) , 奥西有理 (おくにしゆり) , 山崎桂子 (やまさきけいこ) , 地村彰之 (ぢむらあきゆき) , 香ノ木隆臣 (かうのきたかおみ) , 奥野新太郎 (おくのしんたろう) , 坂本南美 (さかもとなみ) , 札埜和男 (ふだのかずお)
対象学年	4 年
単位数	2.0
授業形態	演習
授業内容	3 年次までの学習を土台に、中等教育の理論と実践について研究的視点から、議論し論述する力を身に付けることを目的とする。個々の学生が自ら調査・研究する課題を設定し、指導教員の助言を受けながら、卒業までの 1 年間を通して、主体的・総合的に研究を展開する。その研究を随時ゼミナール単位で報告し、相互に討議する過程を通して、最終的に卒業論文へとつなげていく。
準備学習	3 年間の講義や教育実習、教育ボランティア等の経験を省察、分析し、自己の研究において探究すべきテーマを設定すること。自己の研究テーマの解決に向けて積極的かつ継続的に、それぞれの研究分野の特性に応じた研究活動を実践すること。
講義目的	3 年次までの学習を土台に、中等教育の理論と実践について研究的視点から思考し議論する力を身に付けることを目的とする。
達成目標	1. 研究課題の解決のために必要な客観的・科学的なデータを文献調査を通して収集することができる。(国語教育コースB、C、英語教育コースA、D) 2. 学問的・教育的課題を発見し、解決に向けて計画的かつ積極的に探究し続けることができる。(国語教育コースC、英語教育コースB、C、D) 3. 研究を随時ゼミナール単位で報告し、相互に討議することで、自己の研究を修正し、次の研究活動への見通しを持つことができる。(国語教育コースC、E; 英語教育コースD、E)
キーワード	文献調査、学問的・教育的課題、計画的・積極的探究。
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	教育研究ゼミナールでの報告レポート 50 % (主に達成目標 1、2 を評価)、教育研究ゼミナールでの討論・振り返り 50 % (主に達成目標 3 を評価)
教科書	各研究ゼミナールの指定による。
関連科目	卒業研究
参考書	適宜紹介する。
連絡先	各卒業研究ゼミナールの教員。
授業の運営方針	・卒業研究テーマ、および教育研究ゼミナールにおける課題を必ず決められて期日に提出、あるいは発表すること。 ・上記について、提出期限を過ぎた場合やグループ討論の実施に不利益を与えたと判断した場合は、不可とすることがあるので十分注意すること。
アクティブ・ラーニング	・研究テーマの探究：個々で課題を設定し、資料調査等の情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク：教育研究ゼミナールにおいて研究の経過や成果を報告し、ディスカッションをすることで、研究の吟味・修正をする。
課題に対するフィードバック	・教育研究ゼミナールにおける報告・発表における評価。 ・教育研究ゼミナールにおける討議の評価、及びそれを生かした研究の修正についての評価。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元中学校・高等学校教諭：学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説・実践指導する。
その他 (注意・備考)	・卒業研究ゼミナールは卒業論文の作成を最終的な目的とする。そのため、教育研究ゼミナールにおいて、各自の研究を着実に積み上げていくことが必要不可欠である。 ・ゼミナールを録音・録画など必要とする場合は、申し出ること。

科目名	英語文学概論 (FES10700)
英文科目名	
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	英米文学の特質を紹介した後、(英) 古英語と中英語の文学 (『ベオウルフ』、チョーサー) について解説する。
2 回	(英) シェイクスピアの四大悲劇、史劇を概観する。
3 回	(英) 中世の詩人たち、とくに形而上派詩人の特徴を紹介する。
4 回	(英) 小説の誕生の背景となる市民社会の成立と、作品について解説する。
5 回	(英) ロマン主義の成立の背景事情、革命と詩、自然観の変化について解説する。
6 回	(米) アメリカン・ルネッサンスに特有の神秘的人間観・人間性の肯定と、作品 について解説する。
7 回	(米) アメリカン・ルネッサンスの代表的作品を、「罪」を核にした人間観から解説する。
8 回	(英) ビクトリア朝の文学に見られる、社会への批判意識を中心に作品を解説する。
9 回	(米) リアリズムの文学に見られる、現実への関心を反映した作品を解説する。
1 0 回	(英・米) モダニズム文学における革新的芸術運動と、背景にある戦争、人間観の変化について解説する。
1 1 回	(米) ロスト・ジェネレーションの文学について、第一次世界大戦後の文学及び繁栄とその影という二面性に基づき作品を解説する。
1 2 回	(米) 第二次世界大戦後の価値観が多様化した社会を反映する文学を、さまざまな作家たちを通して解説する。
1 3 回	(米) 第二次世界大戦後の価値観が多様化した社会を反映する文学を、階級と性差を超えてという観点から解説する。
1 4 回	(英・米) 現代詩の世界について、独自の秩序の構築を目指す詩人たちを中心に解説する。
1 5 回	(英・米) 同時代の文学について、現在の英米文学及び英語圏文学の現状を中心に紹介する。
1 6 回	論述形式による最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	英米文学の代表的作品について、自分の読んだことがあるものを思い出し、その内容を考えておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	初期の英文学の特徴について復習し、シェイクスピアの作品の概要を配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
3 回	シェイクスピアについて復習し、形而上派詩人の作品の抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
4 回	形而上派詩人について復習し、小説の勃興の背景について配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
5 回	小説の成立事情について復習し、ロマン派詩人の概要を配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
6 回	ロマン派詩人の特徴を復習し、アメリカン・ルネッサンスの特徴をイギリスと対比させて把握しておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	アメリカン・ルネッサンスの特徴を復習し、代表的作品について抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間30分)
8 回	アメリカン・ルネッサンスの代表的作品の意義について復習し、ビクトリア朝文学の概要を配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
9 回	ビクトリア朝文学の特徴について復習し、リアリズム文学について特徴を配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
1 0 回	リアリズム文学の特徴について復習し、モダニズム文学の成立事情について配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
1 1 回	モダニズム文学について復習し、ロスト・ジェネレーションとの連続性について配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
1 2 回	ロスト・ジェネレーションの特徴について復習し、人種という問題について配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
1 3 回	文学と人種問題について復習し、階級と性差について概要を配布物に基づき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
1 4 回	階級と性差について復習し、現代詩の抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間30分)
1 5 回	現代詩の特徴について復習すること。これまでの講義内容を振り返っておくこと。(標準学習時間30分)

16回	試験終了後、模範解答を示し、解説を行う。
講義目的	英米文学研究の基礎となる、作家の人生や作品の概略を始めとする文学史の諸知識を、背景となる歴史とのかかわりのなかで把握することを目的とする。イギリスとアメリカを中心とするが、その他の英語圏文学も言及の対象とする。イギリスとアメリカそれぞれの文学を別箇の存在とみなさず、双方を融合して経時的に通史として扱う。（中等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する。）
達成目標	文学作品を通して、語学力を向上させることができる。(A) 英米史の基本的知識を活用し、英米文学の作家・作品について基本的な説明ができる。(A)
キーワード	イギリス文学、アメリカ文学、文学と社会
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業時に課す小テスト(30%)、最終評価試験(50%)、長篇小説についての小論文(20%) 全体を総合し、60%以上を合格とする。 評価の観点： 英語の原文の解釈力（小テスト） 英米の文学史についての基本的な知識の修得状況(最終評価試験) 長篇作品の主題の理解（小論文）
教科書	必要に応じ、資料を配付する。
関連科目	本科目に引き続き、2年次で、「英米文学史」、「英米文学講読」の双方を履修することが望ましい。
参考書	イギリス文学：川崎寿彦、『イギリス文学史』成美堂，1988年. アメリカ文学：亀井俊介、『アメリカ文学史講義』全3巻，南雲堂，1997年.
連絡先	A1号館 10階 香ノ木研究室 オフィスアワー：火曜3限・水曜3限
授業の運営方針	毎回小テストを行い、出席をチェックする。3回の遅刻をもって1回の欠席として扱う。講義資料は当該授業でのみ配付し、次回授業前に配付はしない。欠席した場合、自分の責任で担当者まで受け取りにくること。提出物は、締切厳守のこと。正当な事由なく遅れた提出物は受け取らない。
アクティブ・ラーニング	意見感想シートを用いた理解度のチェック
課題に対するフィードバック	最終試験の模範解答を、Momo-campusuに提示し解説する。小テストは3回分をまとめて講義時に返却する。レポートは指定した期日に希望者に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。該当する学生は、適宜、申し出ること。それ以外の講義中の録音・録画・撮影は認めない。
実務経験のある教員	なし
その他（注意・備考）	

科目名	卒業研究 (FES99000)
英文科目名	Graduation Thesis
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち), 奥西有理 (おくにしゆり), 山崎桂子 (やまさきけいこ), 地村彰之 (ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣 (かうのきたかおみ), 奥野新太郎 (おくのしんたろう), 坂本南美 (さかもとなみ), 札埜和男 (ふだのかずお)
対象学年	4 年
単位数	4.0
授業形態	実験実習
授業内容	卒業論文作成を通じて学修の集大成を目指す。3 年次まで修得してきた科学的・客観的態度で物事の本質を探究し、問題解決につながる能力を駆使する。個別の研究課題を設定し、論文作成を通じて多面的・総合的視点から探究する力を深化させる。卒業研究発表会において研究経過や成果を発表・共有することによって、卒業後の教育研究や実践活動の基盤となる力を磨く。
準備学習	各研究分野の研究規範、先行研究をおさえておくこと。必要に応じて研究文献などの資料収集を行うこと。教育研究ゼミナール、研究発表会での意見交換をもとに、論理的に論述を展開できる卒業論文作成を目指すこと。
講義目的	卒業論文作成を通して、4 年間の学修を集大成することを目的としている。3 年次までに修得した知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使して、自己の研究課題を解決することで、多面的・総合的視点から探究する力を深化することができるようにする。また、卒業研究発表会において研究の経過や成果を発表し、共有することによって、卒業後の教育研究活動や実践活動の基盤を培うことを目的としている。
達成目標	1. 研究課題の解決のために必要な客観的・科学的なデータを文献調査などを通して収集することができる。(国語教育コースA, C; 英語教育コースB, D) 2. 学問的・教育的課題を発見し、解決に向けて計画的かつ積極的に探究することができる。(国語教育コースB, C; 英語教育コースB, D) 3. 各研究分野の研究規範、先行研究を踏まえ、自己の研究成果を論理的に表現することができる。(国語教育コースC, E; 英語教育コースD, E)
キーワード	研究規範、先行研究、文献収集、研究論文作成
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	卒業研究 80 % (主に達成目標 1, 2 を評価)、卒業研究発表 20 % (主に達成目標 3 を評価)
教科書	各教育研究ゼミナールの指定による。
関連科目	各教育研究ゼミナールを履修のこと。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	各教育研究ゼミナールの教員。
授業の運営方針	・卒業研究テーマ、および卒業論文は期限内に提出すること。 ・上記について、提出期限を過ぎた場合は、特段の事情がなければ不可とすることがあるので十分注意すること。
アクティブ・ラーニング	・研究テーマの探究：個々で課題を設定し、資料調査などの情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク：構想発表会及び卒業研究発表会において研究の経過や成果を発表・共有する。
課題に対するフィードバック	・構想発表会および卒業研究発表会における評価。 ・卒業論文作成における主査・協力教員の評価・コメント。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元中学校・高等学校教諭：学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説・実践指導する。
その他 (注意・備考)	・卒業研究は教育研究ゼミナールを基礎に置く。そのため、教育研究ゼミナールにおいて積極的な探究活動を重ねておくことが必要不可欠である。 ・卒業研究指導の録音などについては、指導教員に申し出ること。